小学館版 少年少女 学習まんが

日本の歴史

監修/児玉幸多 学習院大学名誉教授　この巻の監修/佐原　真 元・国立歴史民俗博物館館長

① 日本の誕生

●旧石器(岩宿)・縄文(紋)・弥生時代

決定版

●まんが

あおむら　純

1941年、山口県に生まれる。アニメーションの作画などをへて現在にいたる。歴史まんがの分野で大活やくし、少年少女のファンも多い。

1巻にご協力いただいた方がた

●監修
児玉幸多（学習院大学名誉教授）
●この巻の監修・考証・執筆
佐原　真（元・国立歴史民俗博物館館長）

●まんが
あおむら純
●シナリオ
たかしよいち（久留米信愛女学院短期大学名誉教授）
●指導（教育現場の立場から）
高山博之（京都教育大学名誉教授）

(注)現在、教科書等では、「旧石器時代」「縄文時代」という表記が一般的ですが、この巻の監修者・佐原真先生の「旧石器時代」は日本の旧石器研究が始まった群馬県の岩宿にちなみ「岩宿時代」、また「縄文時代」は「文」は「文字」の意味にも使い、「紋」と書くほうが明解であるので「縄紋時代」と書くべきとの考えにもとづき、この本では「旧石器(岩宿)時代」、「縄文(紋)時代」という表記にしました。

●指導・執筆・協力
赤松守雄・右代啓視（北海道開拓記念館）
岡田威夫（共立女子高校）
加藤三千雄（真脇遺跡展示室）
甲元眞之（元熊本大学文学部教授）
小林達雄（国学院大学名誉教授）
七田忠昭・吉本健一（吉野ヶ里遺跡発掘調査事務所）
禰宜田佳男（文化庁主任調査官）
畠中清隆（福井県立若狭歴史民俗資料館）
広瀬和雄（国立歴史民俗博物館教授）
松井　章（奈良文化財研究所）

●取材協力
相沢忠洋記念館　青森県教育委員会三内丸山遺跡対策室　安城市教育委員会　茨城県立歴史館　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　大阪府柏原市教育委員会　大阪府立中之島図書館　大阪府立弥生文化博物館　笠懸野岩宿文化資料館　笠懸町教育委員会　加曽利貝塚博物館　京都大学文学部博物館　国立歴史民俗博物館　近藤篤穂　佐賀県教育委員会　桜井市教育委員会　史跡岩宿遺跡遺構保護観察施設　辰馬考古資料館　茅野市尖石考古館　東京国立博物館　東京大学総合研究資料館　国立科学博物館　(財)東洋文庫　長岡市立科学博物館　奈良県磯城郡田原本町教育委員会　奈良県立橿原考古学研究所　野尻湖発掘調査団　八戸市博物館　福井県立若狭歴史民俗資料館　福岡市博物館　北海道開拓記念館　真脇遺跡展示室　三方町立郷土資料館　由仁町教育委員会　ゆめっく館　吉崎昌一　吉野ヶ里遺跡

●イラスト・作画協力
板垣真誠　強矢和実　角愼作　制野秀一　野田祐一
●装丁・レイアウト
功野真矢　佐野恒雄（ＣＳＪ）　DOMDOM　成澤哲夫（ＮＥＤ）
●版下
大山デザイン　昭和ブライト　タナカデザイン
●編集協力
銀杏社　橋森紀夫

（五十音順・敬称略）

小学館版 少年少女 学習まんが

日本の歴史

1

日本の誕生

●旧石器(岩宿)・縄文(紋)・弥生時代

監修/児玉幸多　まんが/あおむら純

旧石器(岩宿)時代

時代・文化　旧石器(岩宿)文化

西暦　●9千～6千年前　●1万2千年前～1万3千年前　●2万年前～5万年前　●30万年前　●今から200万年以前

日本のおもなできごと

日本列島の骨格ができあがる。

ナウマンゾウが日本に移動してくる。

マンモスが日本に移動してくる。

港川人・浜北人などがあらわれる。

北海道で、旧石器人がマンモスを狩る。(→第1章)

野尻湖などではナウマンゾウ狩りがおこなわれる。

このころ、今の日本列島ができあがる。

最古の縄文(紋)土器がつくられる。

貝塚ができる。竪穴住居にすむ。→真脇遺跡など

西暦　●3万年前　●30万年前　●50万年前　●300万年以上前

世界のおもなできごと

猿人(アウストラロピテクス)があらわれる。

原人(ジャワ原人・北京原人)があらわれる。

旧人(ネアンデルタール人)があらわれる。

新人(クロマニョン人)があらわれる。

この巻の歴史年表

巻数	時代	年代
1	旧石器(岩宿)	前3万
	縄文(紋)	前1万
		前1000
	弥生	紀元1
		100
		200
		300
2	古墳	400
		500
		600
	飛鳥	700
3	奈良	
4	平	800
		900
5	安	1000
		1100
6		
7	鎌倉	1200
		1300
8	南北朝	
9	室町	1400
10	戦国	1500
11	安土桃山	1600
12	江	
13		1700
14		
15	戸	1800
16		
17	明治	
18		1900
19	大正	
20	昭和・前期	
21	昭和・後期～平成	

●この巻には、赤色の部分の時代・年代が、かかれています。

弥生時代　縄文(紋)時代

弥生文化 ←→ 縄文(紋)文化

●3世紀中ごろ　●239　●170～180　●107　●57　●紀元1世紀　●紀元前1世紀　●2800～2400年前　●5000～3000年前　●6000～5500年前

現在とほぼ同じ植物が、日本列島をおおう。

このころ鳥浜の縄文(紋)ムラがさかえる(→第2章)

中部地方の山岳地帯に文化が栄える→井戸尻遺跡など

三内丸山遺跡などの集落が栄える。(→史跡クローズアップ)

このころより、農耕生活がはじまる。

朝鮮半島から稲作が伝わり、弥生時代がはじまる。

弥生土器がつくられる。

大陸から青銅器や鉄器・ガラス・布がつたえられ、日本でも作りはじめる。

専門技術者が生まれ、身分の上下が生じはじめる。

このころ吉野ケ里に墳丘墓がつくられる。(→第3章)

小国家ができ、支配する人、される人に分かれる。

このころ、西日本は「一〇〇余国」に分かれていたという。

「倭奴国王」が後漢の光武帝に使いをおくって金印をさずかる。

倭の国王、使いを中国皇帝におくる。

このころ倭国はみだれ、卑弥呼をたてて「王」とする。

卑弥呼が中国の魏に使いを送り、「親魏倭王」の名をゆるされる。(→史跡クローズアップ、第4章)

卑弥呼が死に、しばらくして壹与が女王となる。

このころから大きな古墳が作られはじめる。

●220　●25　●紀元前4年　●前27年　●前201年　●前221年　●前5世紀　●紀元前6世紀　●前2500年ごろより　●紀元前3300年ごろより

古代メソポタミア文明、続いて古代エジプト文明がおこる。

古代インダス文明、黄河文明がおこる。

仏教が成立する。

儒教が成立する。

秦の始皇帝が中国を統一する。

前漢の高祖が中国を統一する。

ローマが帝政となる。

キリストが生まれる。

光武帝が後漢をおこす。

中国では後漢がほろび、三国(魏、呉、蜀)時代に入る。

※縄文(紋)時代と弥生時代の移りかわりについては、さまざまな説があります。

はじめに

こうして日本の歴史ははじまった

◆ゾウがいた時代

日本に人が住み始めたのは、おそくとも数万年も前からだ、ということがわかっています。すると、日本の人の歴史のほとんどは石器時代で金属も知らず、粘土で形造って火で焼きあげた器―土器―も知らず、食物を煮炊きすることなしに暮らしていたことになります。

何万年も昔の日本は、今よりずっと寒く、たとえば、名古屋が札幌の気温でした。そして、マンモスやナウマンゾウなどのゾウがいたのです。ゾウやオオツノジカ・野牛を追って暮らしていた人びとは、石器以外に造型品も残していません。しかし、人びとは、きびしい環境をたくましく生き抜いたことでしょう。

◆木の実が主食の時代

縄文(紋)人の骨をしらべることによって、彼らがどんなものを、どのくらいの割合で食べていたかが、今ではわかるようになりました。これによると、本州の縄文(紋)人は、総熱量の八〇パーセント以上を木の実からとっていたことがわか

りました。いま、本州・四国・九州の人びとが、植物型の食事をとるのは、縄文(紋)時代からの伝統でしょう。

このように、私たちとは関係がないと思われがちな大昔の人びとと私たちは、食物の好みや、顔・体つきなども、そしておそらく心も、実はつながっているのです。

◆大昔に学ぶ

大昔の人びとは、野蛮・未開で、私たちは文明人だ、といわれてきました。しかし、今では、そのような見方は、かたよったものだと考えられるようになってきています。

なるほど、大昔の人は、電力も電子エネルギーも飛行機も新幹線もテレビも電話も知りませんでした。しかし、彼らは、青い空、緑の森、澄んだ空気、清い水に囲まれて、自然をよく理解して暮らしていました。しかも、集団と集団がぶつかって大勢を殺す、という意味での戦争は、旧石器(岩宿)時代にも、縄文(紋)時代にもありませんでした。

農業が始まって、余裕の食料がたくわえられると、文明への発展が始まります。しかし、その反面では、差別・不平等が生まれ、戦争が始まりました。私たちは、大昔になかった、文明が作り出した戦争や資源浪費や環境破壊をすてさるために、大昔に学ばなければなりません。

(この巻の監修　佐原　真)

もくじ

- この巻の歴史年表
- はじめに

第1章 マンモスの狩りうどたち

- 大画面・狩りうどたちの集落
- オオカミのしゅうげき
- 大画面・ゆれる大地

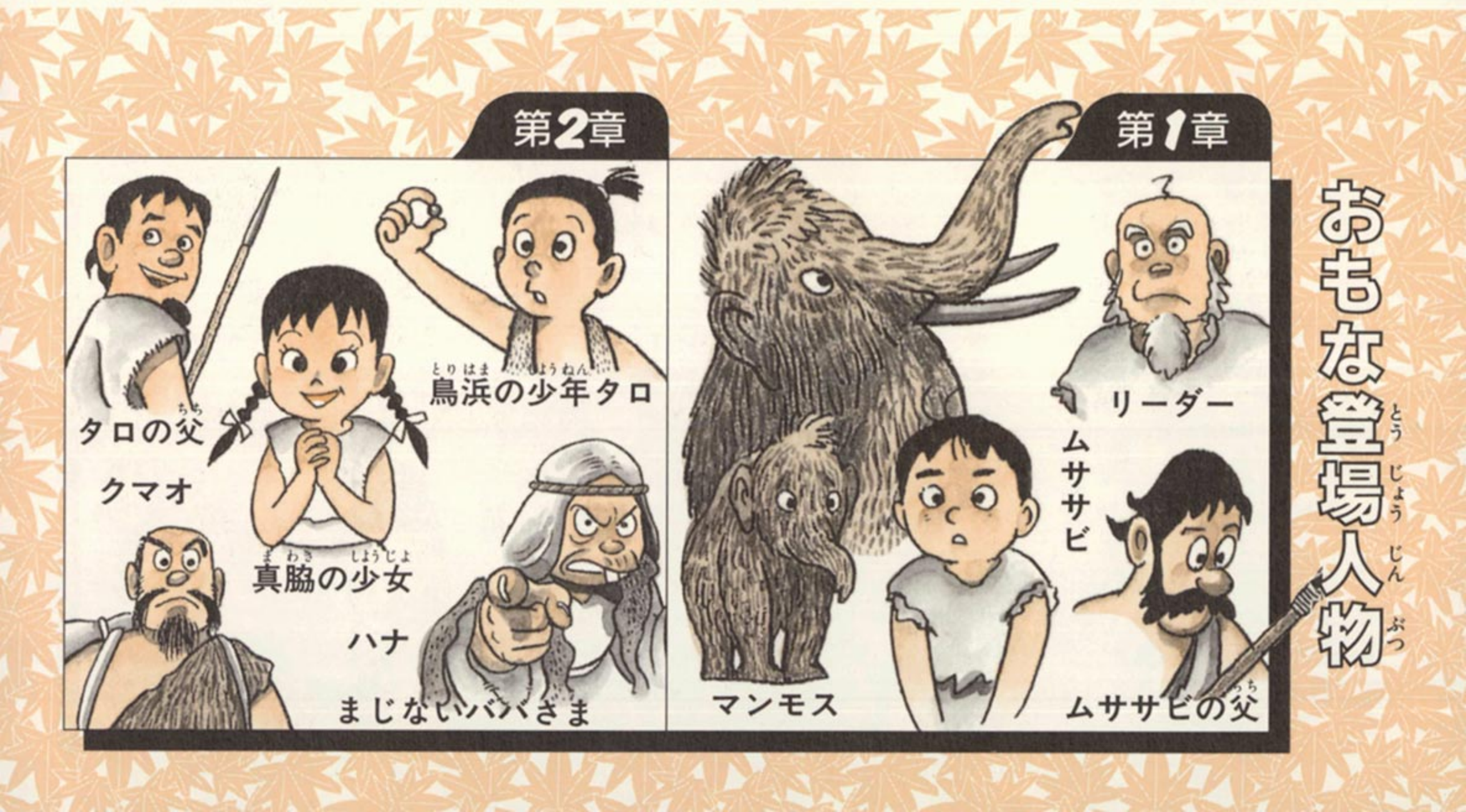
第2章 海と山のめぐみ

- 大画面・鳥浜のムラ
- 縄文(紋)土器の作り方
- 真脇のムラへ
- 真脇のイルカ祭り
- ふたたび鳥浜へ

第3章 戦いのムラ

- 大画面・吉野ケ里の全景
- 大きな盛土の墓
- 大画面・激しい戦闘
- コメの収穫と祭り

おもな登場人物



第4章

女王ヒミコ

- にぎやかな市
- 魏の使者
- 「親魏倭王」の金印
- クナ国の奇襲
- 倭国連合軍進撃
- ヒミコの死

小学館 eBooks

第一章

マンモスの狩りうど

——旧石器（岩宿）時代——

今から一万三千年前の北海道のある場所

こんなに小屋がたっているのはじめてだね。

マンモスが少なくなってきたからね。それを追いかけているうちに同じところに集まってしまったんだね。*何日いるつもりだろう。

*何日～…このころの人びとは一か所に定住せず、食べものが手に入りやすいかどうかや、気候などに応じて、移住する生活をしていました。

＊この道具をボーラといい、鹿児島県出水市上場遺跡出土の丸い石が、ボーラとして使われたのではないかといわれています。

うまいぞ、ムササビ。
パタパタ

マンモスだーっ！マンモスの群れを見つけたぞーっ！
ん…

ほんとうか！
ほんとうだとも！群れが北に向かっているのをこの目でちゃんと見とどけたんだ。
ふふ

よし！
すぐみんなに知らせて、マンモス狩りだ！
オー

ね、父ちゃん、おれはまだマンモス狩りにはいけないの？
鳥をとらえるのとはわけがちがう。マンモス狩りは命がけだ。
ワイ
ワイ

行くぞ！

父ちゃーん！
まってろ。でっけえマンモスしとめてくるからな。

＊マンモスの群れは、現代のゾウ同様、成長したオスはほとんど加わらず、長老格のメスを中心に、メスと子どもばかり10数頭で構成されたと考えられます。

上流にも、
下流にも！

ムオオー！
みんなっ、早く水から出るのよ！

ムオオー
ドドドドドドドド

わー
わー
わー

わー
わー
わー

ドドドドドドドド
わー
わー
わー
わー

*岩手県一関市花泉町では、オオツノジカの肋骨を折って、そのするどい先で、オオツノジカを解体したことがわかっています。

ん？
ガサ
ガサ

なにか
いるぞ。

あっ、
マンモスの
子どもだ！
ブル
ブル

つかま
えろ！
つかま
えろ！
ギャーン

えっ、
マンモスを
たおしたっ
て！
やった！

さあ
みんな
小屋を
かたづけて
行くのよ！

わーい、
マンモス
の肉だ。

あれ、チビ
マンモスを
つかまえた
のね。

かわいそうに。
今ごろきっと
母親がさがし
まわってるよ。

にがして
やれば
いいのに。

そうもいかん。
これだって
大事な
えものだ。

さあ、こっちの石も十分に焼けたぞ。火をどかせ。

今夜はここでねよう。

ほれ、このへんがうまそうだ。

どんどん食べるわ。

焼けた石の上にお肉をのせるのよ。

ジュ〜〜

なまもいいが、石焼き肉は格別だね。

ああ、いいにおい。

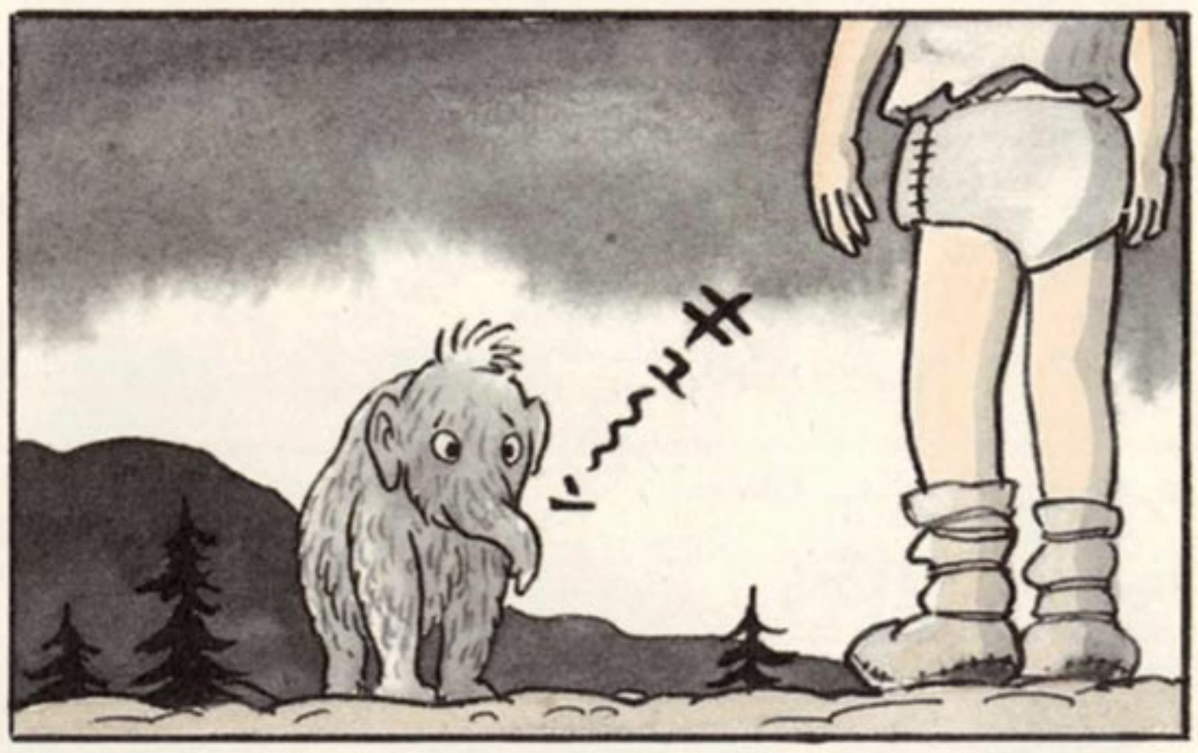
＊東京都多摩ニュータウン七六九遺跡で発見された焼け石に、黒くタール状になった動物の脂肪がついていました。

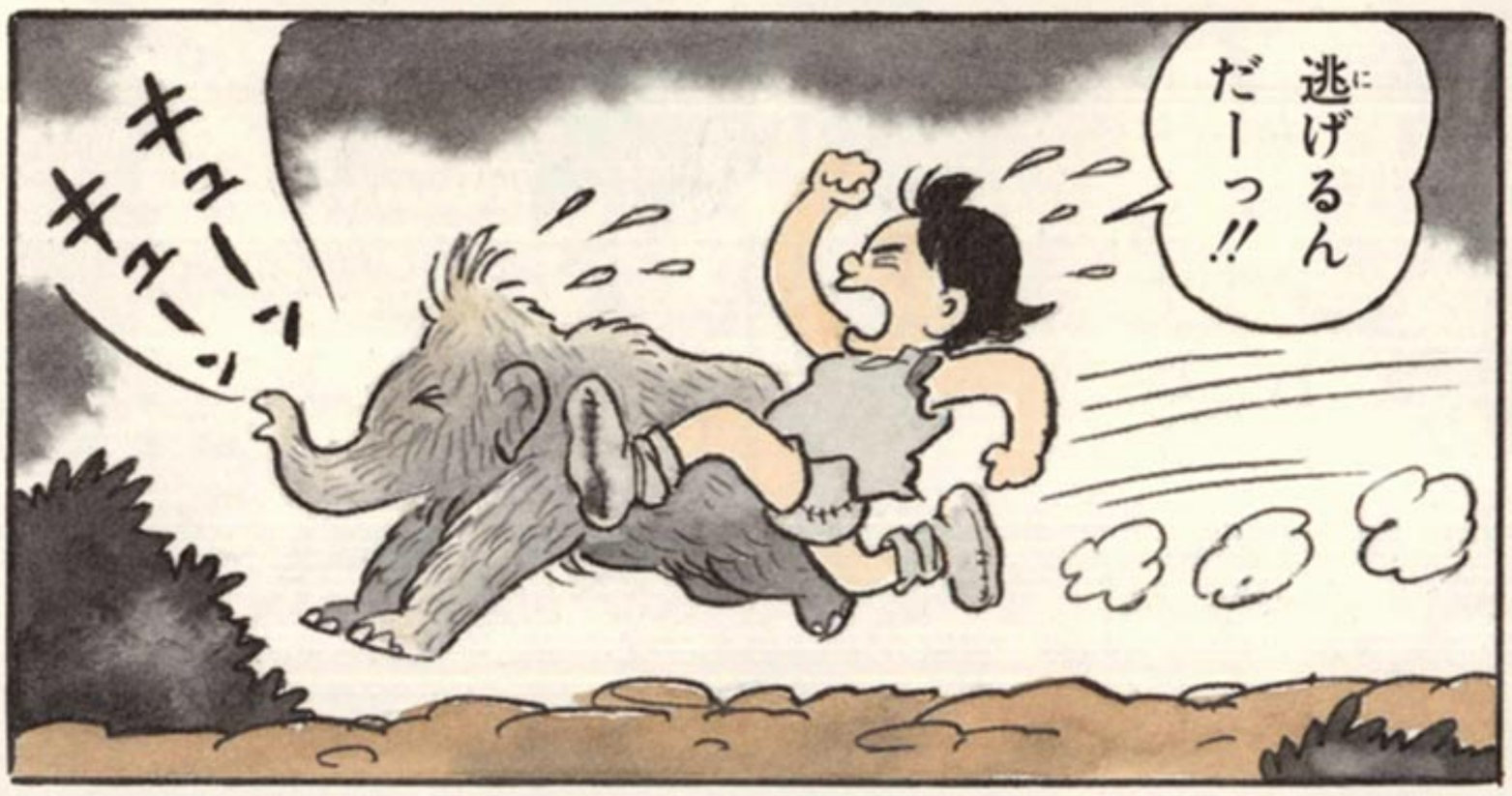
おいらが途中までいっしょに行ってやろう。

おいで！

さあ、ここまできたらもう大丈夫。あとは一人で行くんだぞ。

おいらは帰らなきゃなんないから。



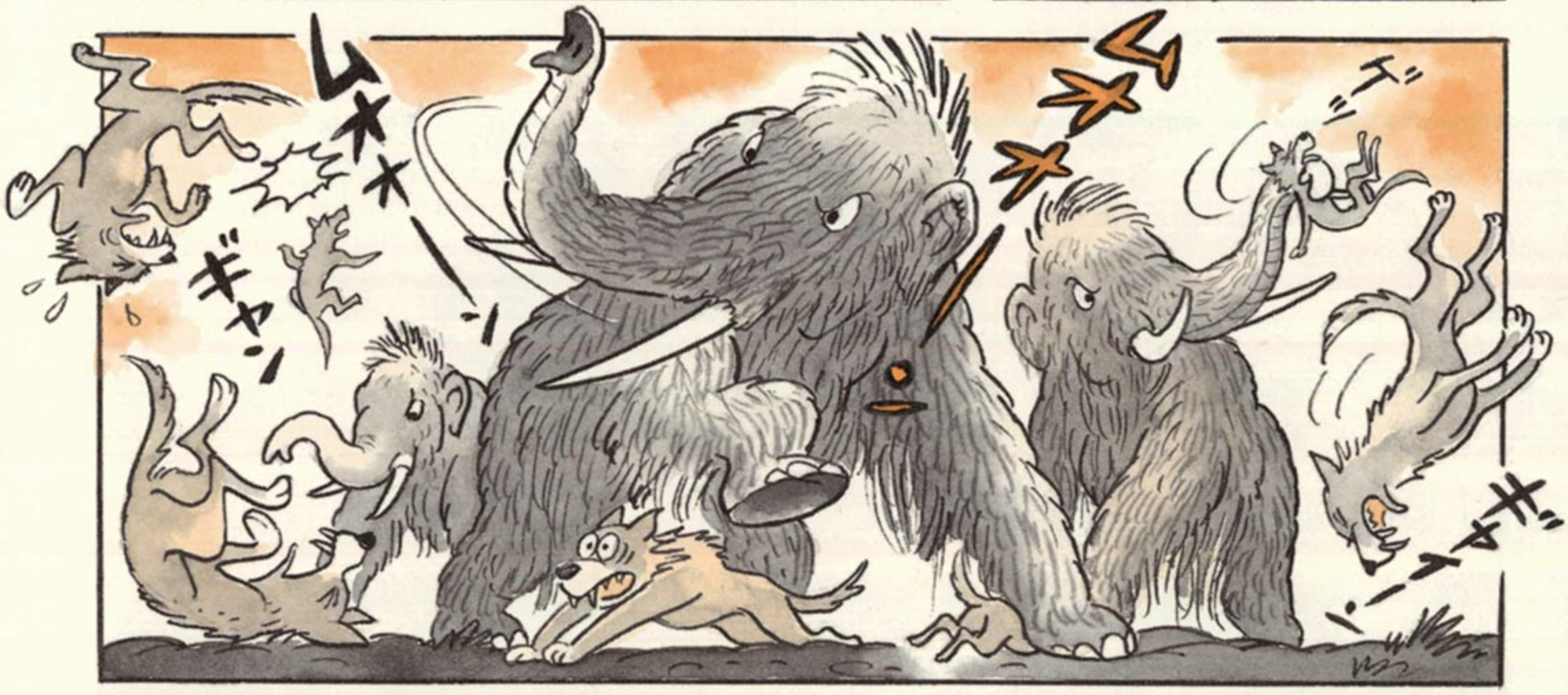


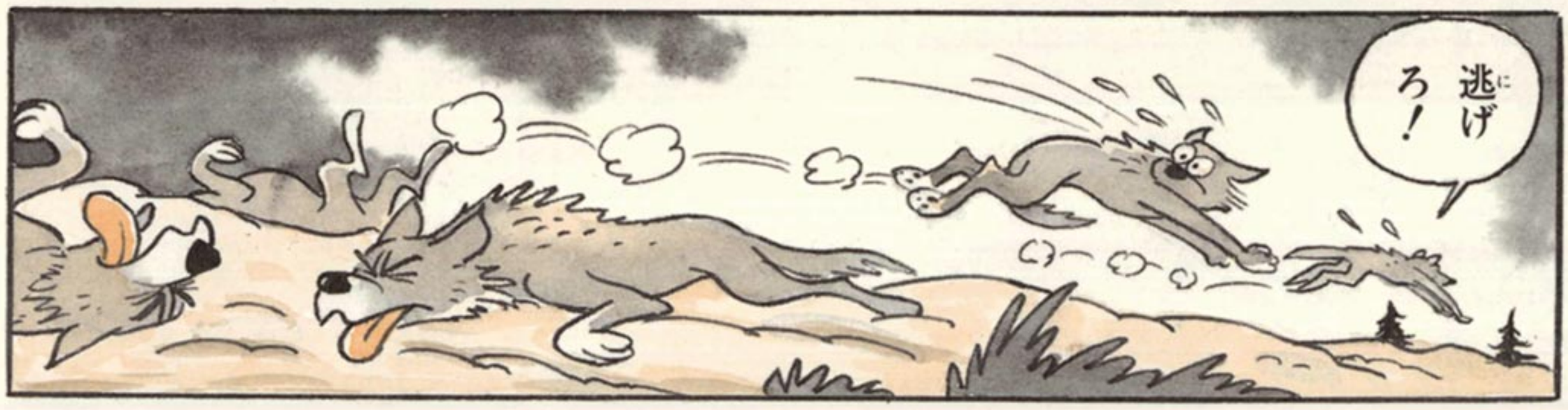
ムオオ
ザザザ

ムオー
ムオオー
ムオー
ドドドド

マンモスが助けにきてくれた！

わっ。


ムオオー
ギャー
ムオオ
ズザー


逃げろ！

よかったな、チビ。

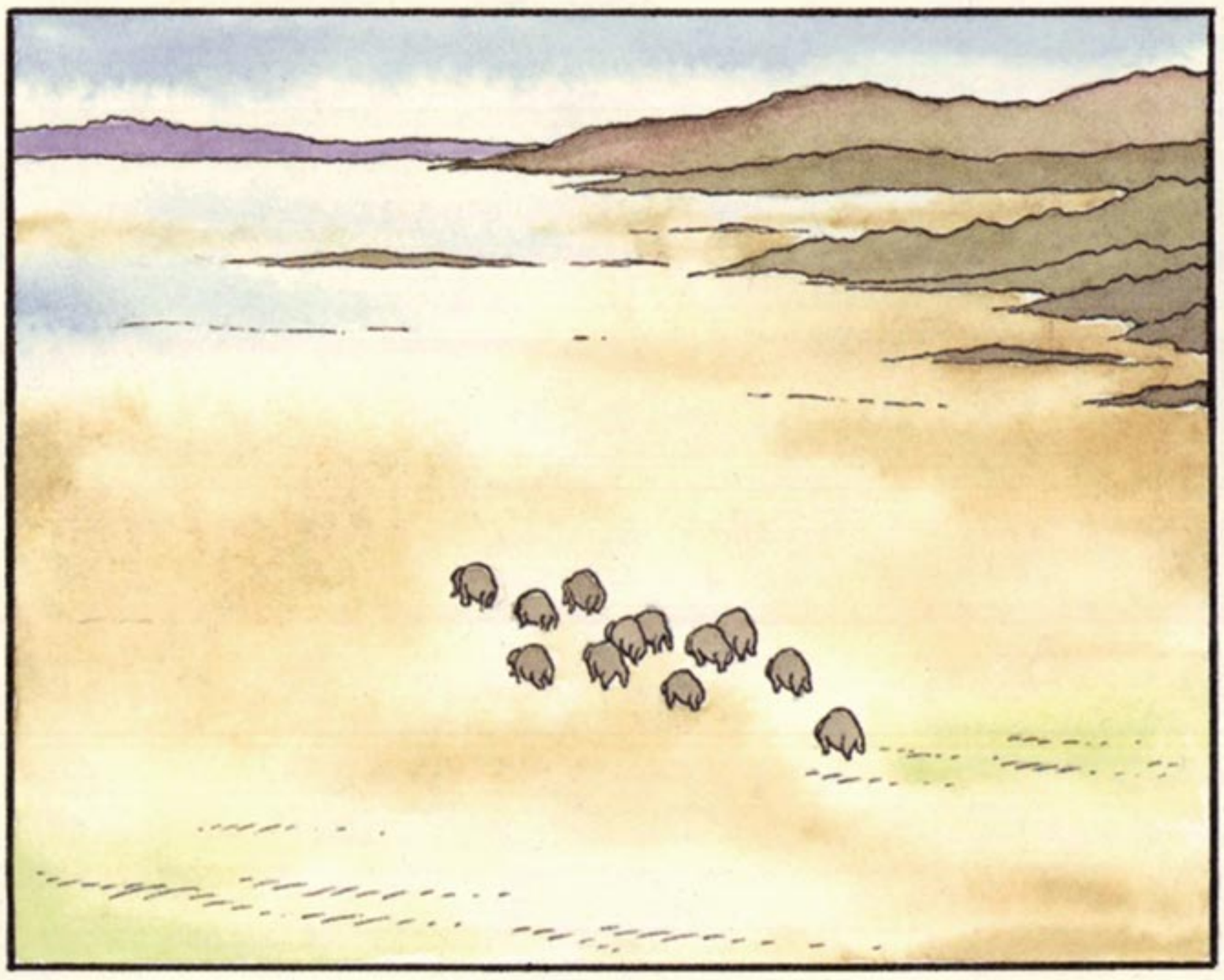
でも、おいらは帰れなくなってしまった。

キャッ

助けてー！

！
ストン

わーい、マンモスの頭の上だぞ！
ふわふわしていていい気もち。



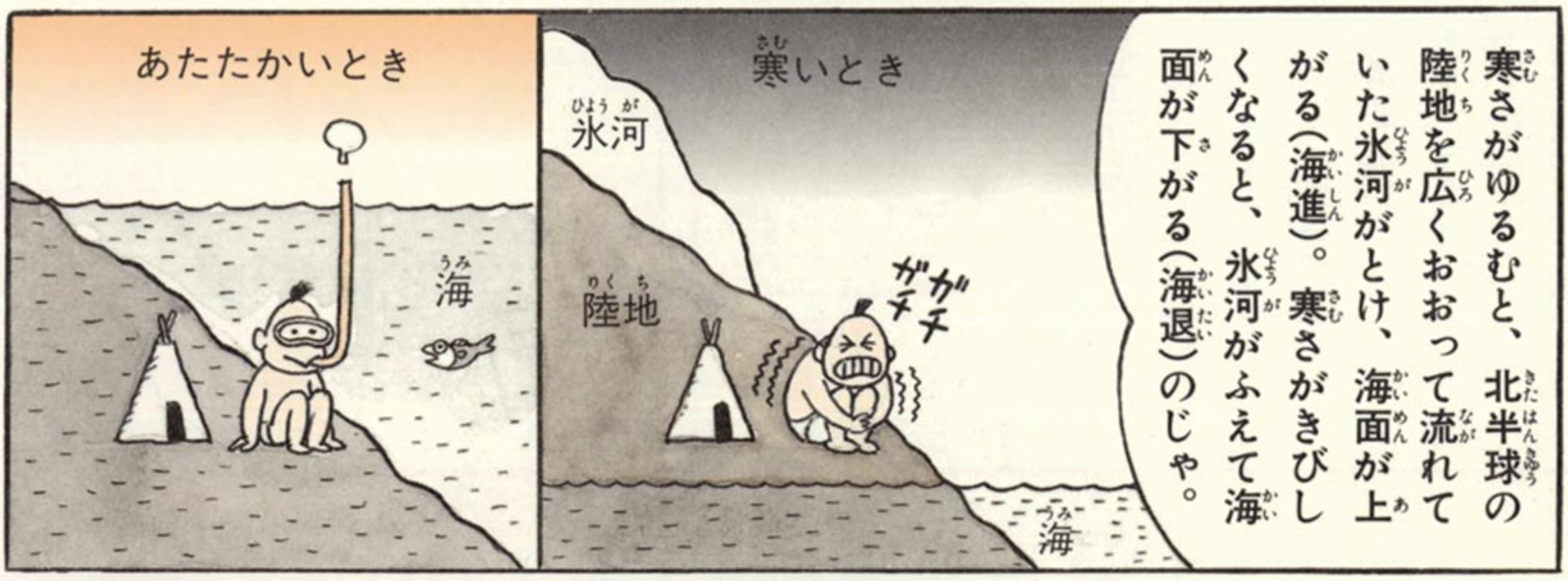
ゴロ
ゴロ

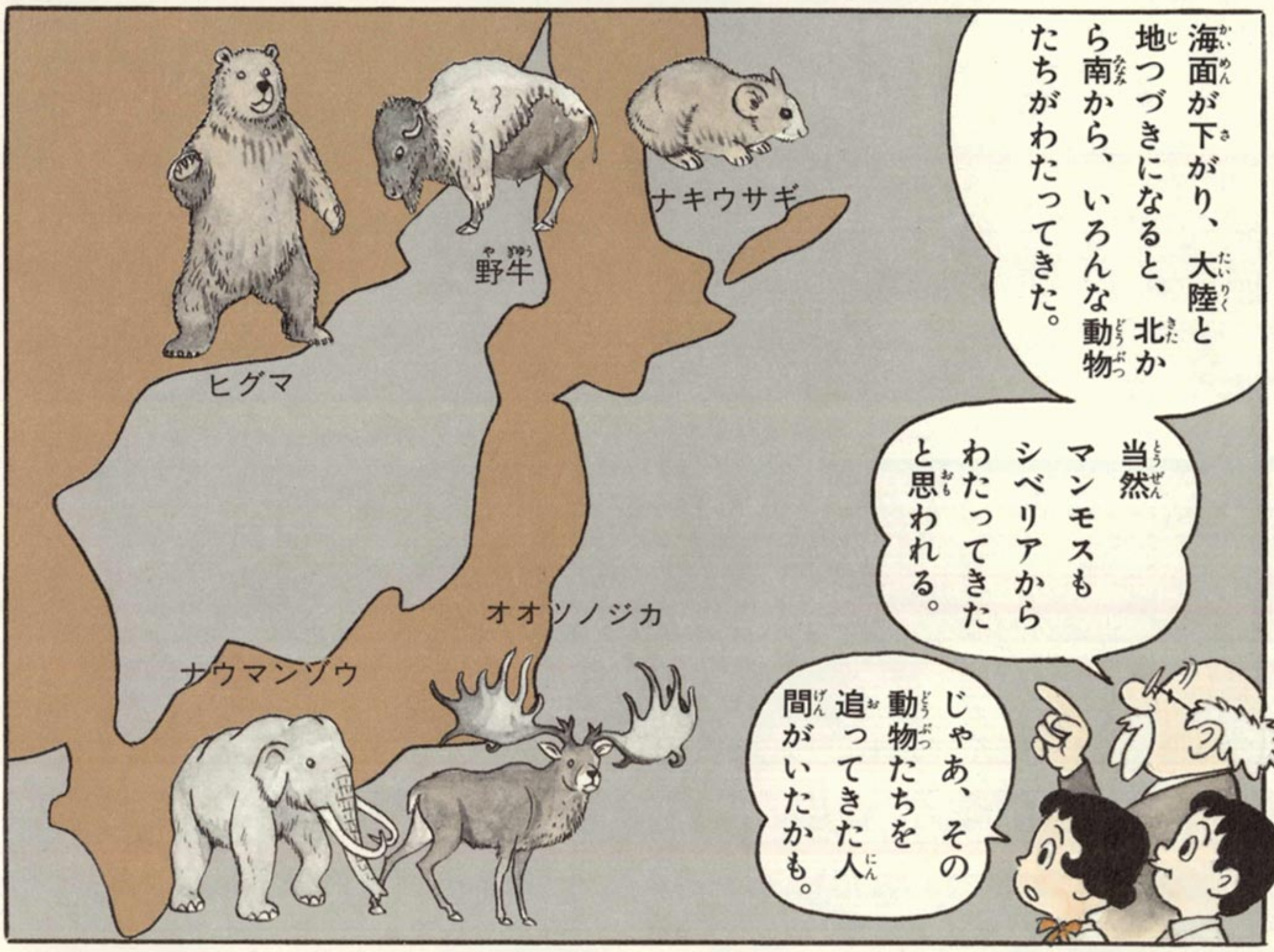
海だ！
ここはいったい どこだろう…。

ここまできても、まだ わたしたちマンモスには 暑くてくらしにくい。 もっと北の方に 移動しなくては…。

さあ、 行くよ。
ムオーン

＊日本列島と大陸がつながっていた時期については、ここで紹介した説以外にも、いろいろな説があります。


あたたかいとき
海
寒いとき
氷河
陸地
ガチガチ
海
寒さがゆるむと、北半球の陸地を広くおおって流れていた氷河がとけ、海面が上がる(海進)。寒さがきびしくなると、氷河がふえて海面が下がる(海退)のじゃ。


ヒグマ
野牛
ナキウサギ
オオツノジカ
ナウマンゾウ
海面が下がり、大陸と地つづきになると、北から南から、いろんな動物たちがわたってきた。
当然マンモスもシベリアからわたってきたと思われる。
じゃあ、その動物たちを追ってきた人間がいたかも。

やっとマンモスたちに追いついたぞ。

もうじき冬がくる。ここでせめてもう一頭はしとめておかないとな。

おや、あれは…。
ん？

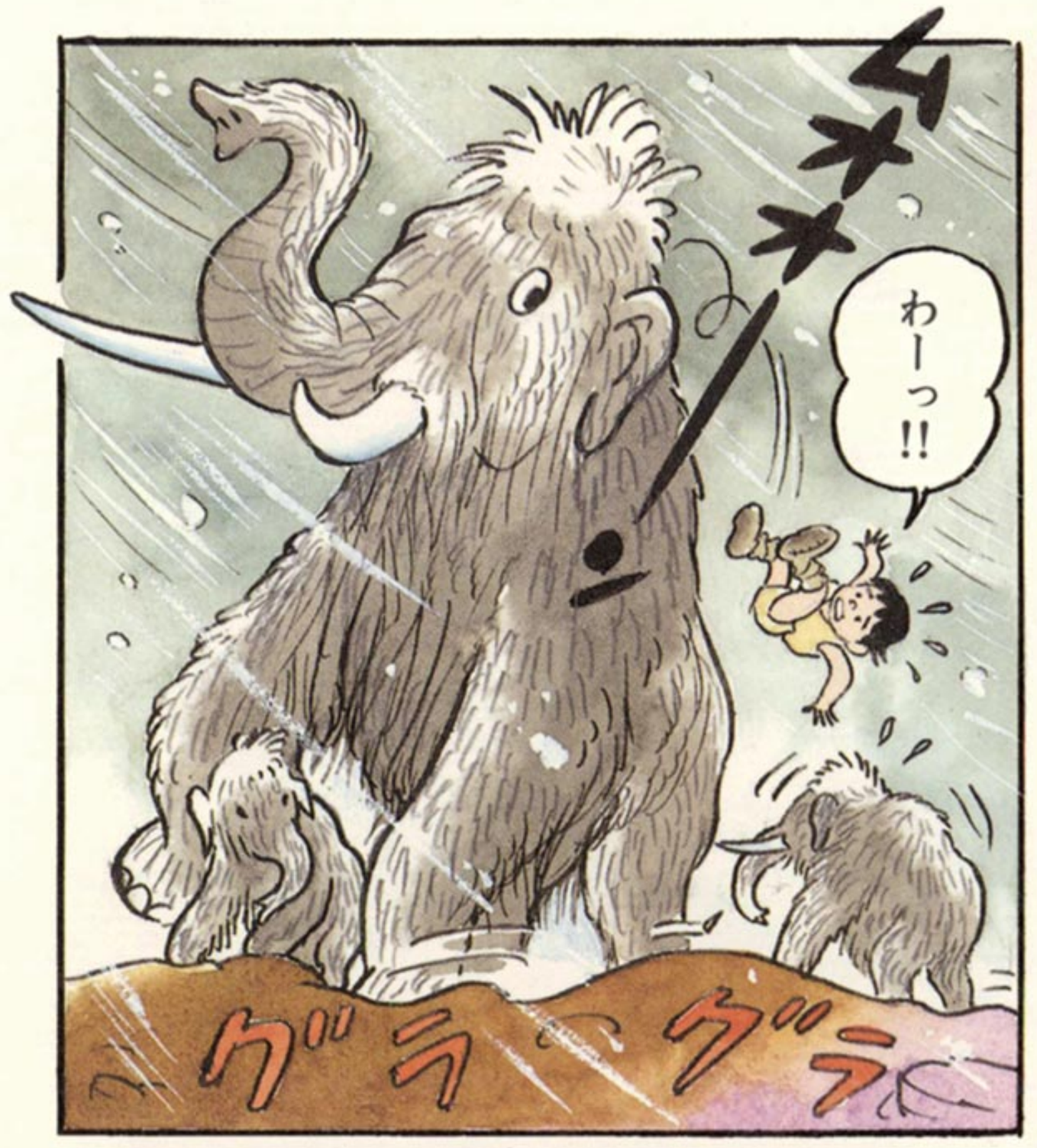
息子だ！息子のムササビだ！
えっ!?

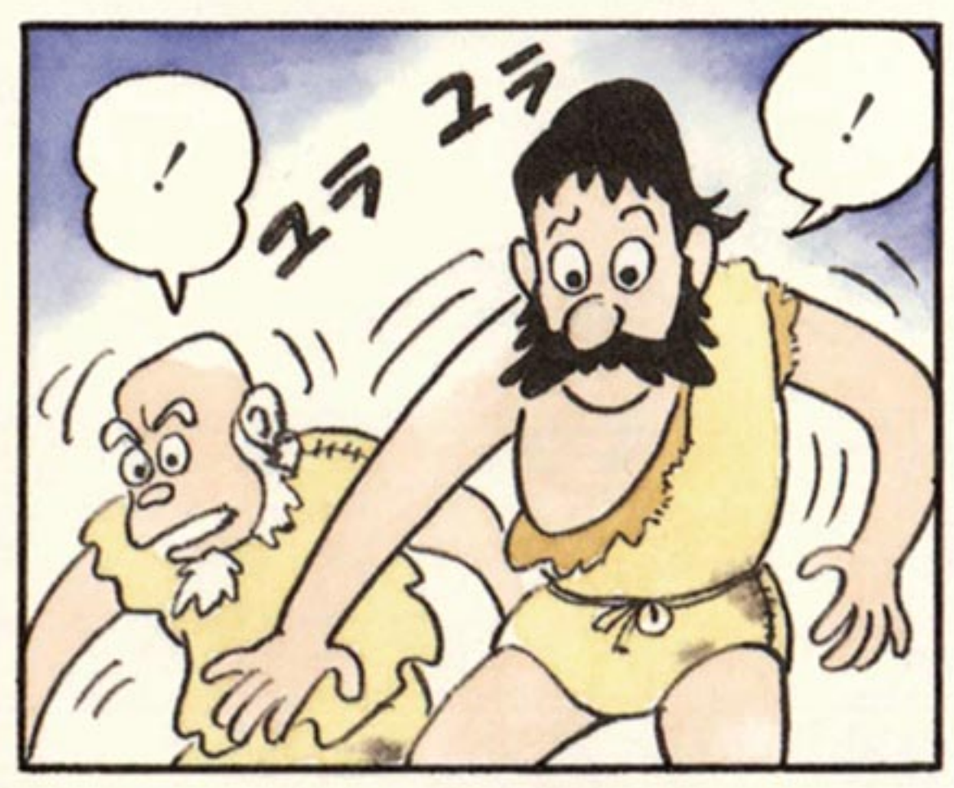
ムササビ…！とっくに死んだと思っていたのに。
なんてことだ。マンモスに乗っかっているなんて。

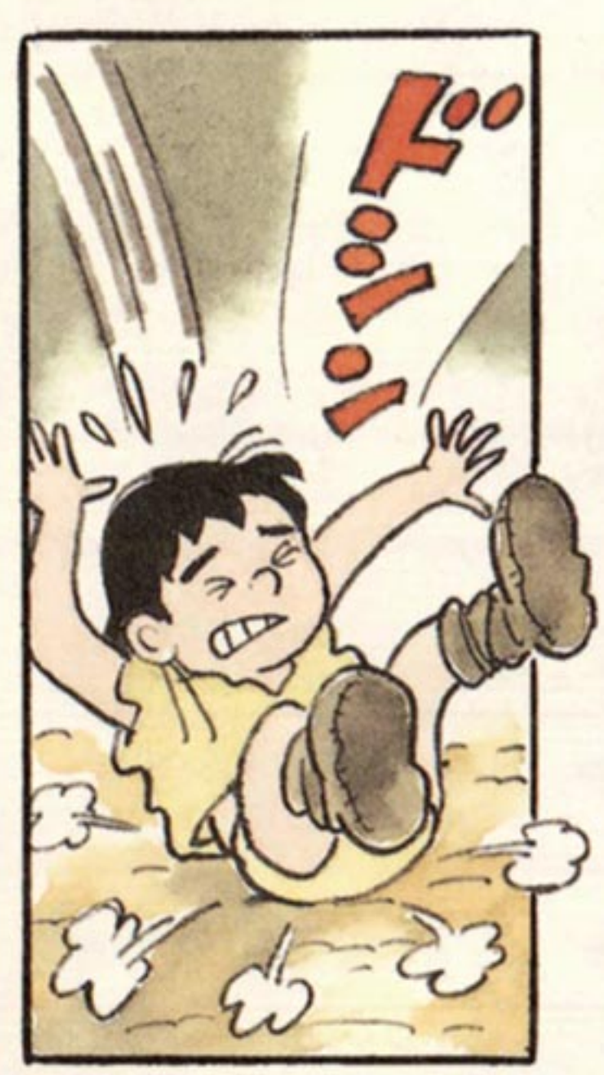
おーいムササビームササビー…
と、父ちゃん…。

とうちゃーん！
かあちゃーん！

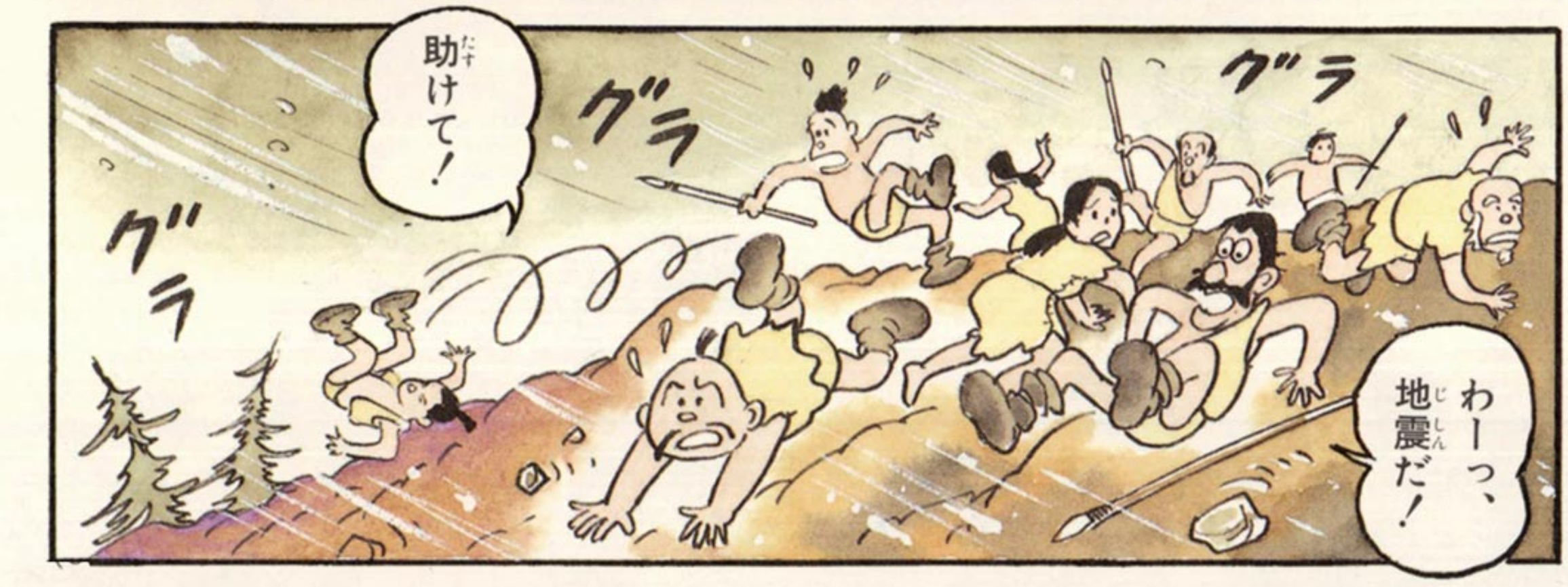
ユラ
ユラ
！


ムオオ
わーっ!!
グラ
グラ

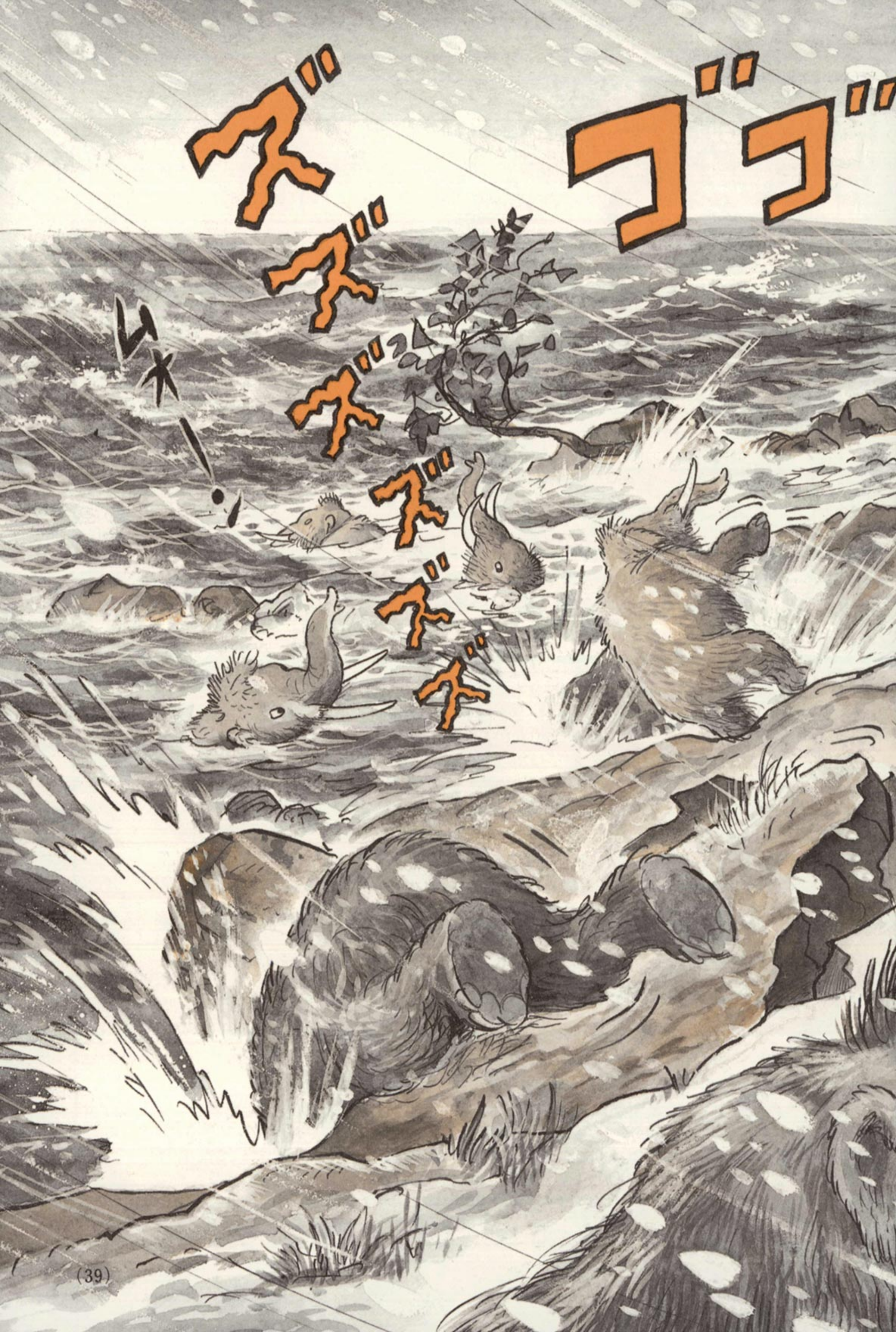

！
ユラ
ユラ
！


ドッシン

キャーッ、地震だっ!!
ムオオー!
グラ
グラ


助けて!
グラ
グラ
グラ
わーっ、地震だ!

ゴゴゴゴゴゴ
ゴ
ゴ

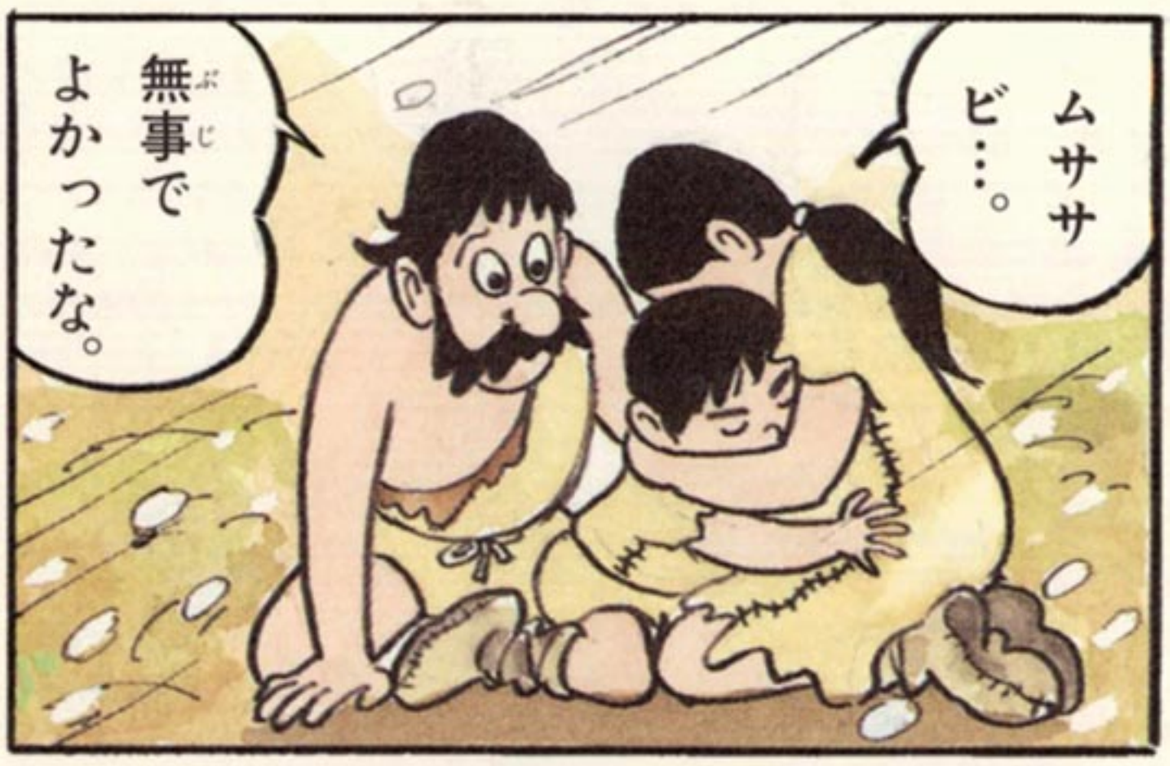

ゴゴゴ
ゴゴゴ
ゴゴゴ

＊マンモスの化石は、羅臼沖や別海町沖のほか、サハリンと北海道の間の宗谷海峡など、海底からも多く見つかっています。

早く水辺からはなれるんだ！
ズズズズ…

えーい！

ムササビー！
父ちゃーん。母ちゃーん。


ムササビ…。
無事でよかったな。

でも、おまえ、どうしてこんなところに…。
うん おいらマンモスに助けてもらったんだ。

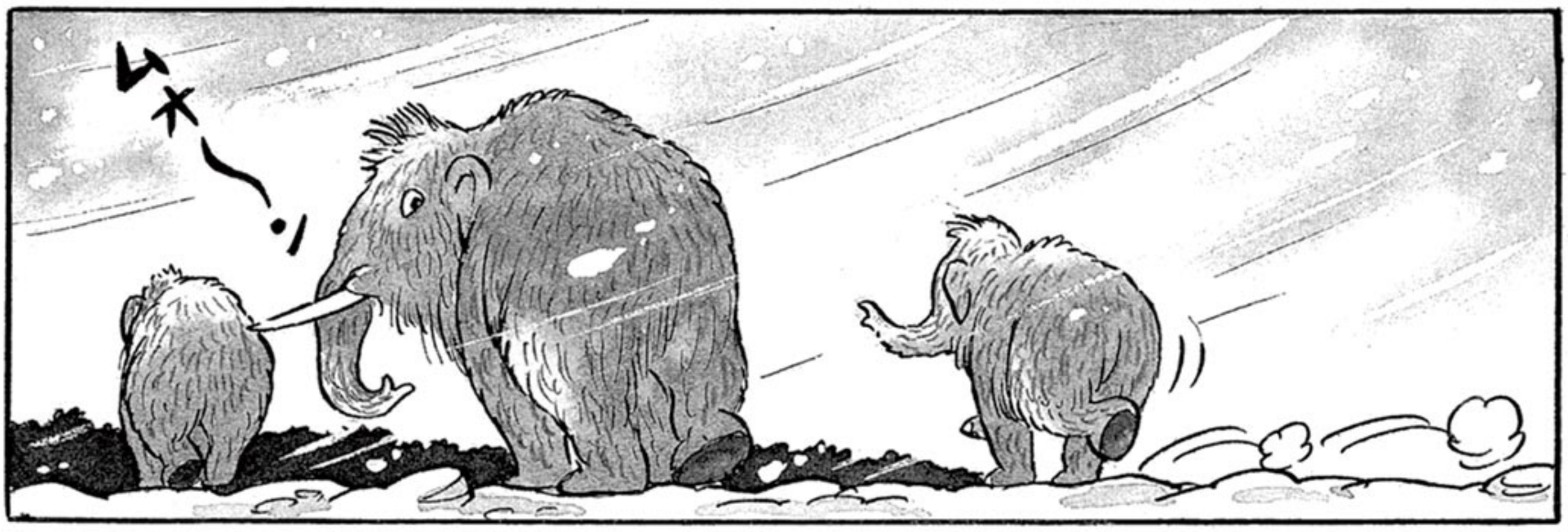
ああ、マンモスたちが…。

どうやらゆれもおさまったようだ。

かわいそうに。マンモスはたった3頭だけになって…。
でもチビが助かってよかった。

今こそつかまえるチャンスだ！
いや、しばらくマンモス狩りはやめだ。

マンモスたちはいつか大きな群れをつくってやってくる。
そのときまでわれらもがんばるんだ。


ムキーッ！

チビは母マンモスとともに、北へ北へと去って行きました。

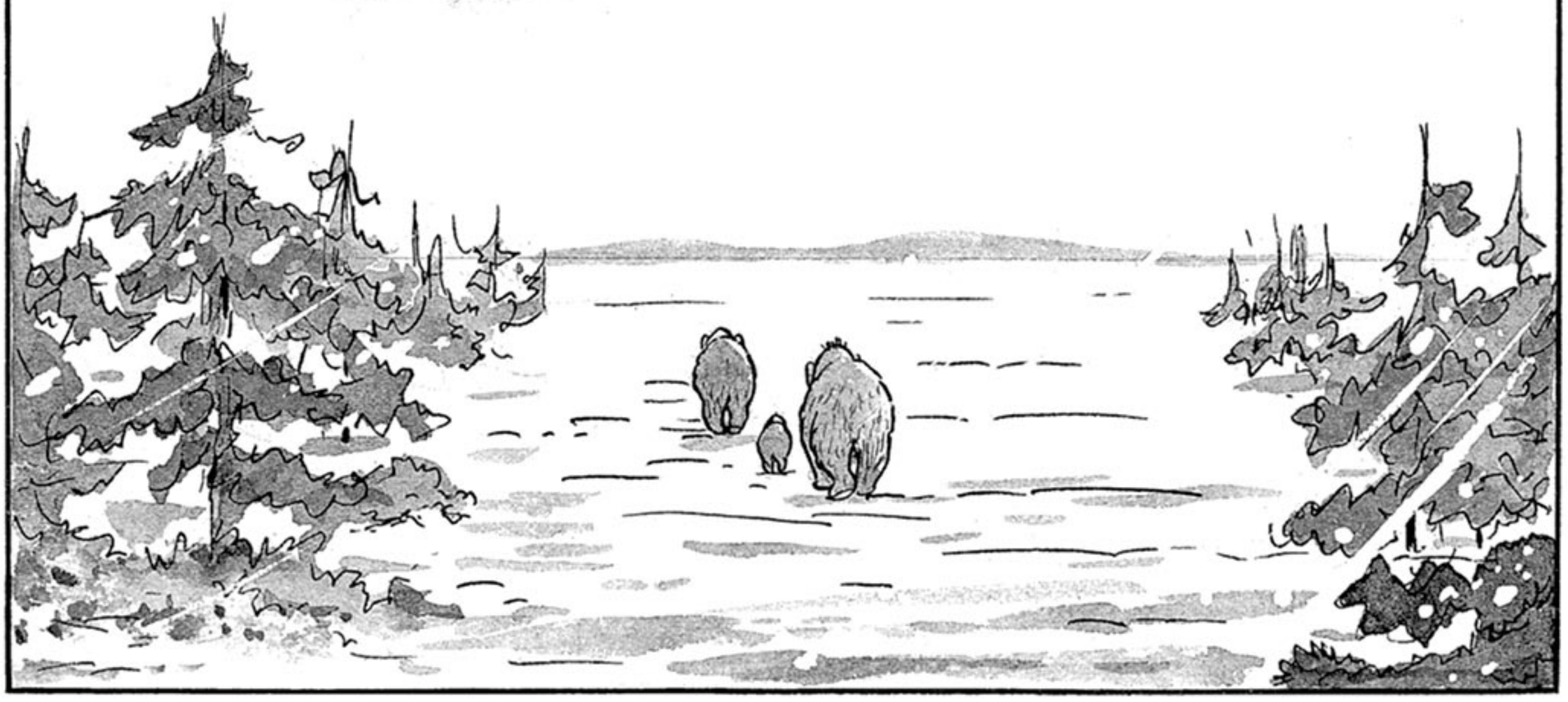
ムササビ少年は、その姿が消えるまで、じっと見送りました。

ムササビは両親やなかまたちと出会い、ふたたび新しい生活を始めるのです。

石器や、木や骨を利用した道具しかなかった旧石器（岩宿）時代の人びとにとって、マンモスやオオツノジカなど、大型の動物がいなくなることは、たいへんな出来事だったにちがいありません。

一頭たおせば、なかまで何日も食べることのできた大型動物の肉。その大事な食料が手に入らないのですから…。

北海道では一万三千年前ごろをさかいに、マンモスたちは姿を消してしまいました。



小学館 eBooks

第二章

海と山のめぐみ

――縄文（紋）時代――

五千五百年前の
福井県若狭町
鳥浜のムラ——

あーあ、今日の狩りはさんざんだったな。
お帰りー！
おつかれさーん。

あれーっ、父ちゃん、今日は手ぶらなの!?

ああ、山でクマに出会ってな。

えっ、クマに?

そう、でっかいやつにな。

おれたちはむちゅうでクマのやろうに立ちむかった。

ガオオオオー!

矢はたしかに心臓に命中したはずじゃったが…。

ドドドド

クマのやつはたおれないでおそいかかってきた。

ガキ

キャーッ

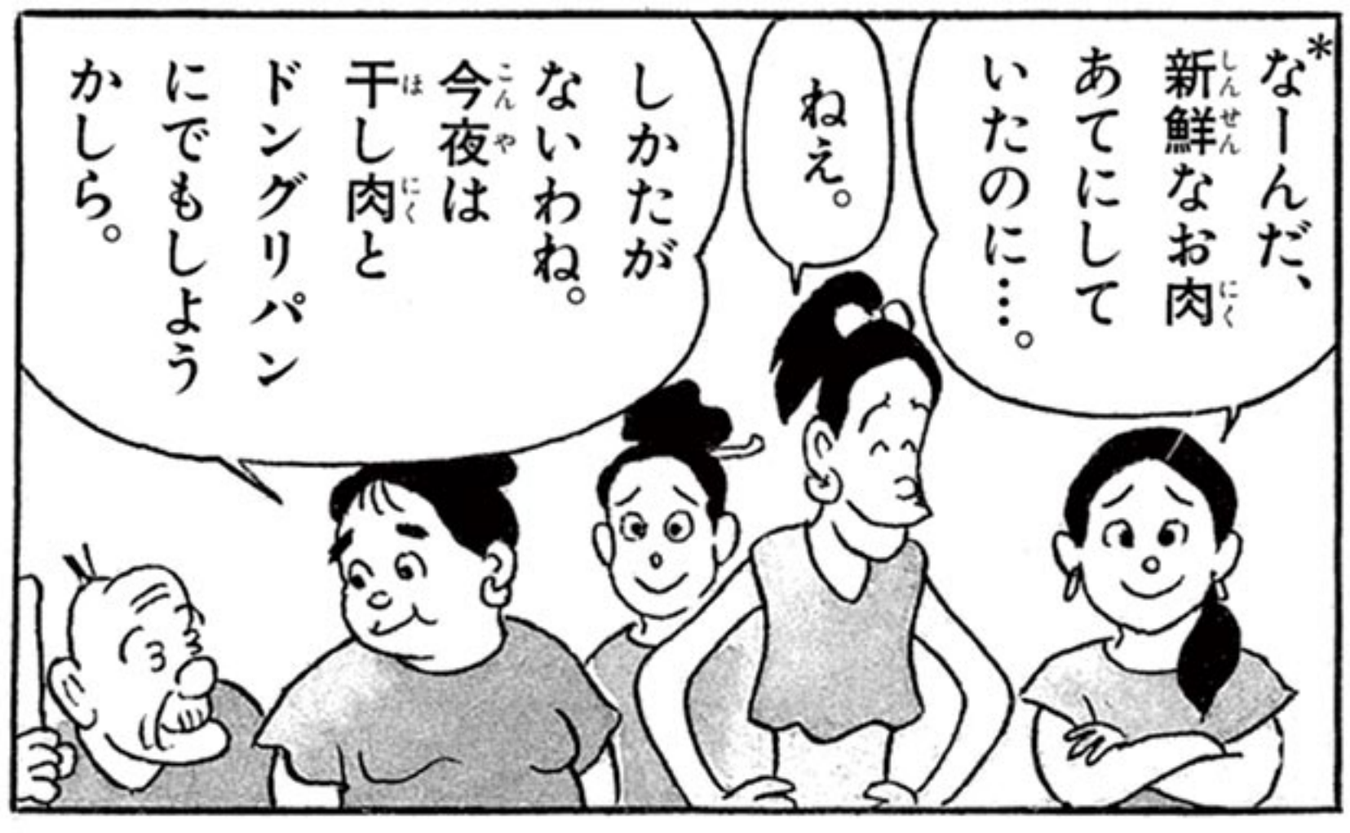
にげろ!

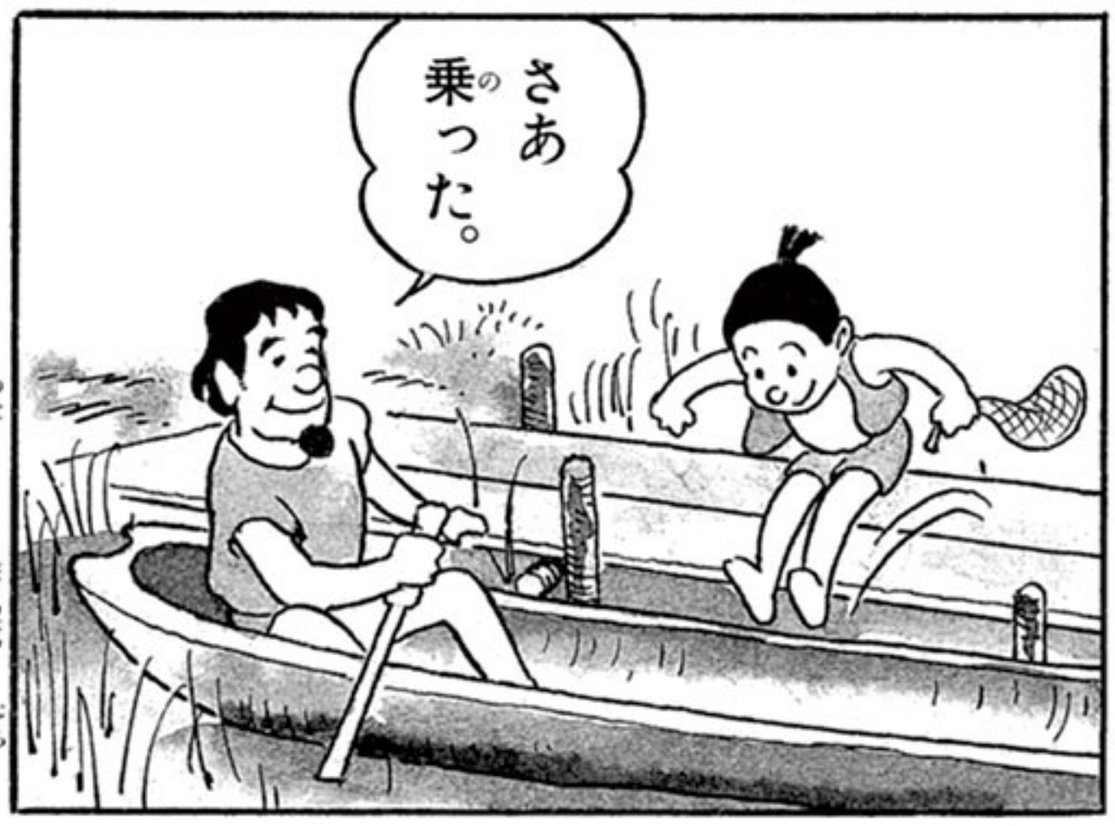
まあ、そんなわけで…。

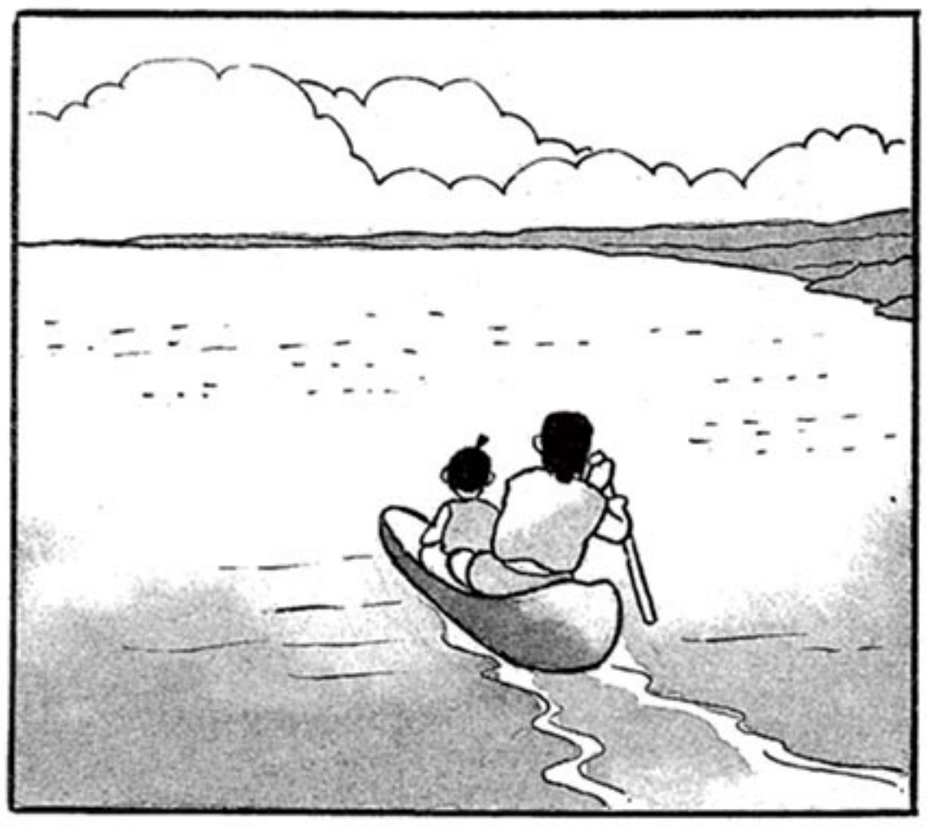
命びろいしただけでもよかったぞ。

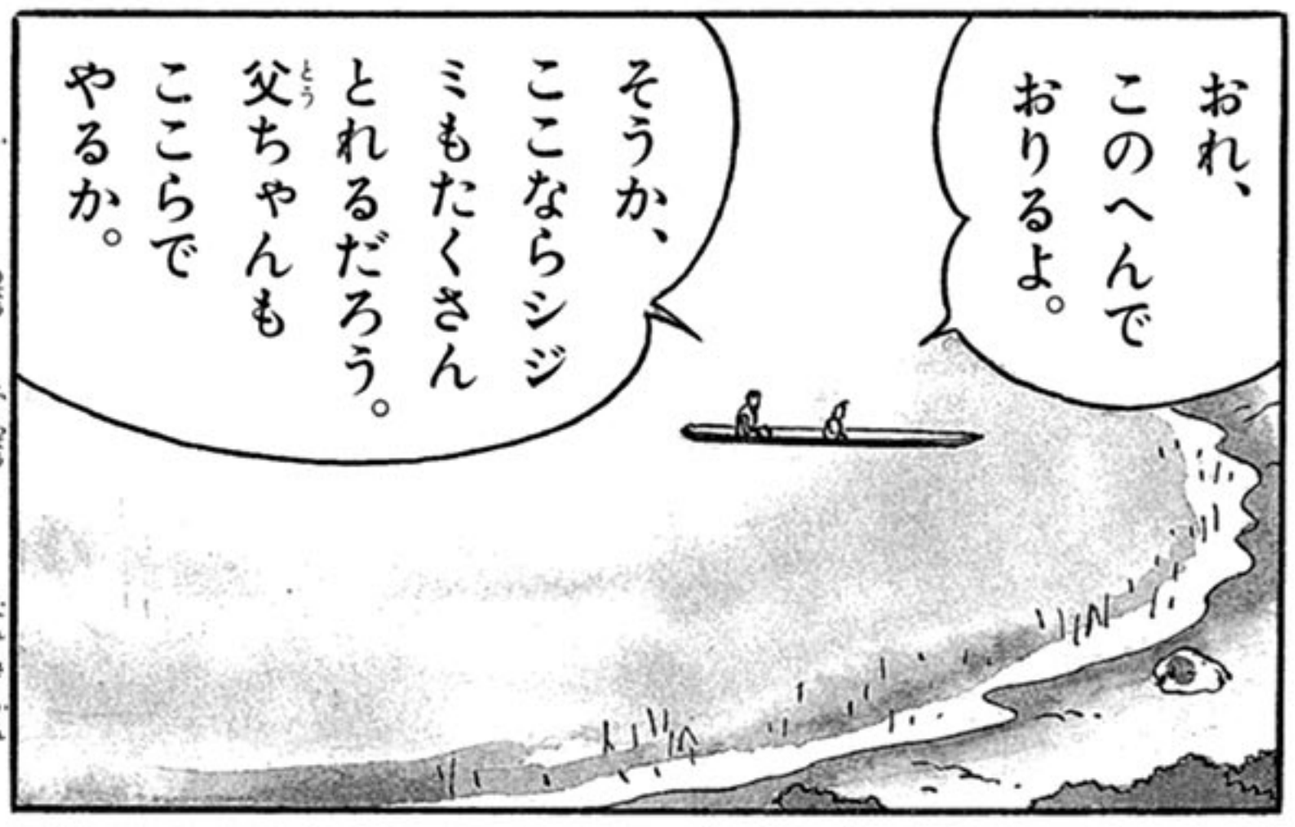
ほんと。

このへんじゃあイノシシやシカならいるが、クマが出るなんてことはあんまりないからな。びっくりしたよ。



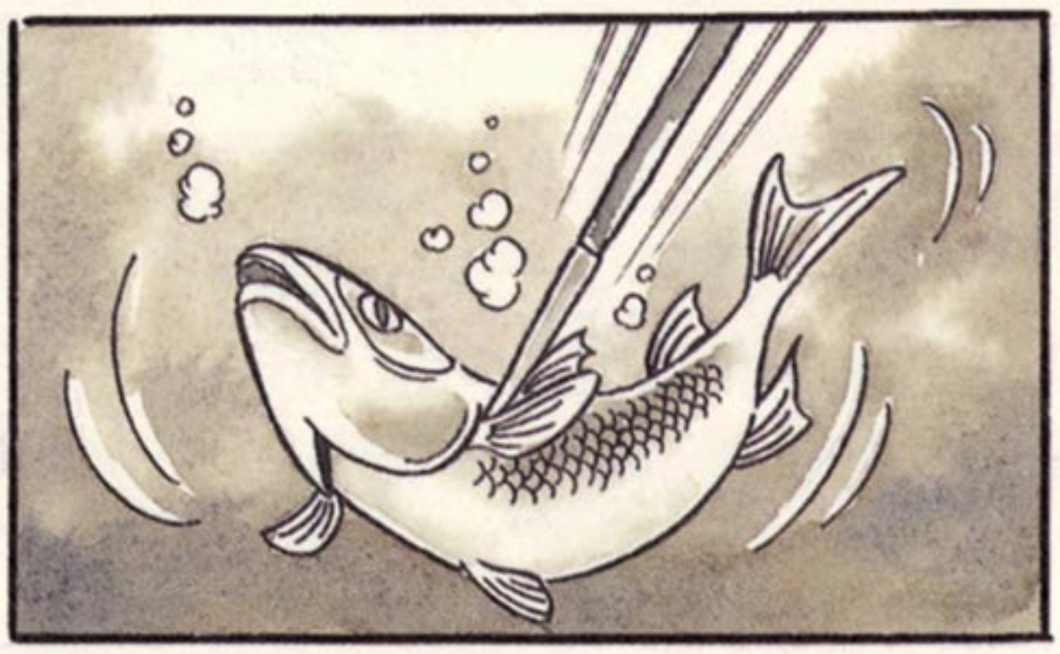






*なーんだ、〜〜…縄文時代は、従来思われてきたよりも豊かで、食糧の貯えもあり、狩りや漁が不調でも、短期間なら十分しのげたと考えられています。

よおし、きたぞ、きたぞ。



どうじゃ！こいつはでっけえぞ。
ピチ
ピチ

さて、タロのほうはどうかな？

父ちゃーん、こんなにとれたよ。
おう！

ああ腹へった！

たまにはこの大きなの食ってみようかな。
ガチッ

そいつは うまく ないぞ。
ツルル

ん!?

ポロッ

なんだ ろうね。 こんな もんが ついて いたよ。
なんだ それ?

ほう、 ふつうの 石にしちゃ きれいだな。
白くて 輝いてる。

父ちゃん、 今まで 見たこと ないの?
ないなあ。 めずらしいから もってかえって 母ちゃんに 見せてやるが いい。

シロ、 ただい ま!
ワン ワン

ギュッ
ギュッ

粘土がほど よい固さに こねあがっ たわ。
ちょっと ここで 縄文土器の 作り方を お見せ するわね。

まず、土器の底の部分を作っておいて……。

ふちに合わせて粘土のひもをのせ、一周したらちぎります。そのひもをつぶして底に固定し、またその上へ同じように…。

うまくね。

積みあがったら、形をととのえて表面を平らにしましょう。

よりひもを表面に転がしながら押しつけていくと、縄目の紋様ができる。だから縄文土器という名がついた。

このあと、日かげでかんそうさせるんだよね。

そう、水分が完全に蒸発するまでね。

最後に枯木などを組んで、土器全体に熱が回るように焼くと、やっと完成よ。

ゴホン

母ちゃーん。
お帰り。漁はどうだった？
やあ ブチ
おう シロ

貝のうらにこんなもんがついていたんだ。
まあ、きれい！なにかしら？

父ちゃんも見たことないって……。
ふしぎな石ね。ムラ長のじっさまならわかるかもしれないよ。

じっさまに見てもらってくるよ。

母ちゃん、一ぱいだけ飲ませてくれや。
こんちは！
しかたないわね。また飲みすぎないでよ。

ヤマブドウの酒もまんざらでもないわい。

あんたタロがなにか用だろ！

あ！

ちょっとまって。この時代には酒はなかったのです。

監修者・佐原真

いやいや！

酒はあったはず！

まんが家・あおむら純

作家・たかしよいち

このように酒が好きな研究者は酒があったといい、

わたしのように酒を飲まない研究者は酒はなかったと考えています。

うるさい。飲む者の考えが正しい！

どちらかといえば、なかったという説のほうが有力……フガフガ。

ズルズル

いいから飲みなさい！ジャンジャン。

わしになに用じゃ。

ウェイ

じっさまに見てもらいたいもんがあるんで、もってきたんだ。

これいったいなんだろうね。

そりゃ石じゃないか。

んっ!? まてよ。こんなきれいなやつを見るのはじめてはじめてじゃぞ。

こんなもんどこで見つけた？

貝の中から出てきたんだ。

*ドングリパン…ドングリやクルミを粉にし、肉をまぜるなどして作ったことがわかっています。

なに用じゃ！わしゃ、今お祈りのまっさい中じゃ！

ババさま、こんなもん見たことある？

うーむ！

おれな、貝の中から見つけたんだ。
貝じゃと…。

それにしてもきれいな玉よのう。
どうれ、こっちによこしてみい！

ふむふむ。
なんとあやしい光をもった玉じゃ。

……。

これはな、湖にすむ魚どもの魂が宿る大事なもの。
おまえら子どもがもつものではないぞ！

えっ！
だって、そ、そんな、そんな…。

昨日わしに神さまからお告げがあったんじゃ。

タロが近くこの玉をとどけにくるから、受けとるようにとな！

ウソォー！

ばかたれめ！わしにむかってなんたる言葉づかいじゃ！

ゴツ！

くそっ、返せ！

な、なにをする！

てっ、またんか！

だれかその あくたれ小僧めをつかまえてくださっしゃれ！

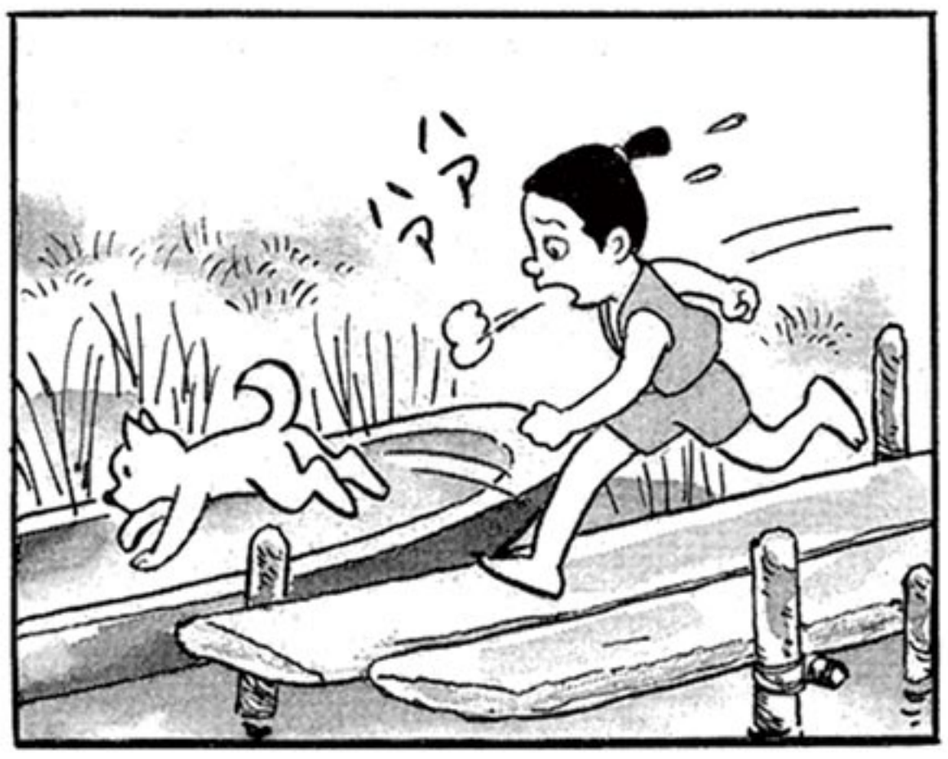
ダンダダーン！

なんだ、なんだ！

ババさまの悲鳴だ！

どろぼうか!?

まてー！
つかまえろー！
うそつきババアめ。これはおれが貝の中から見つけたんだぞ！
だからおれのもんだーっ!!



流れが速くなったぞ！

いけない！岸にもどらなくちゃ。

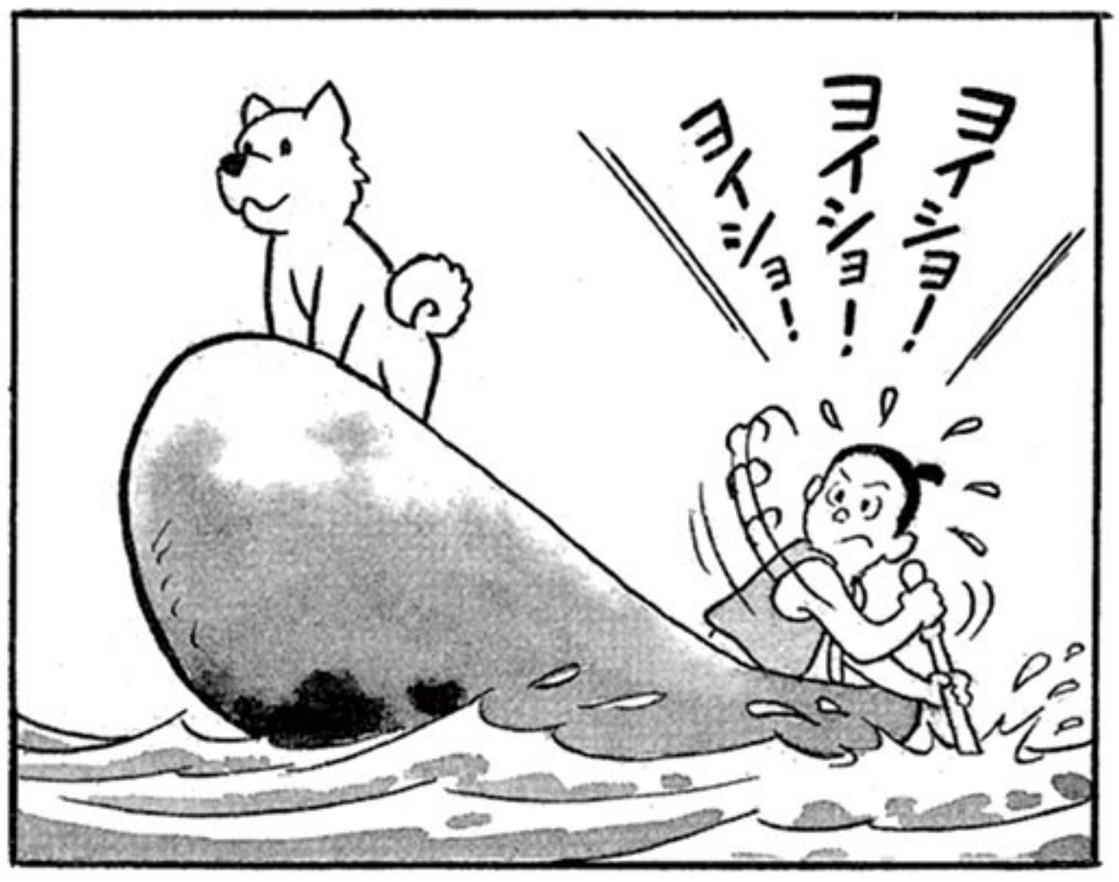
だめだ。遠くへ流されるばかりだ。
フー

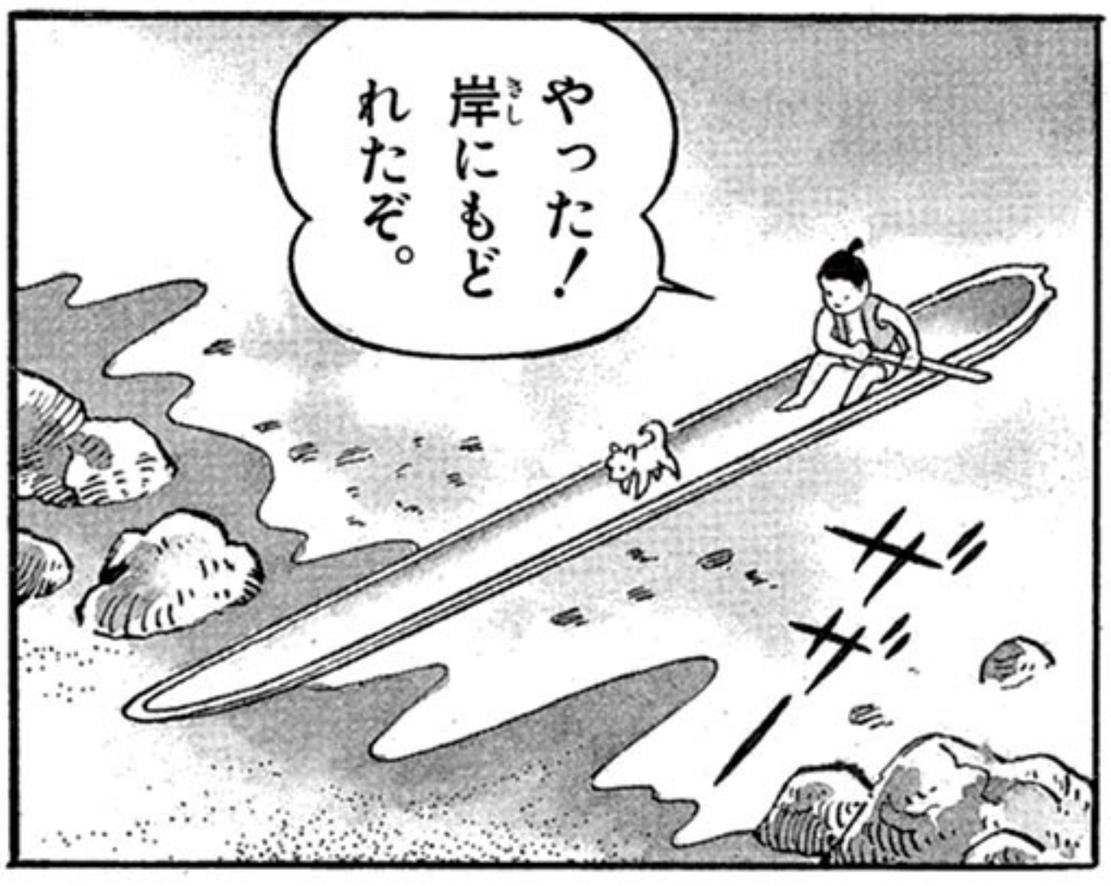
沖へ出すぎたら帰れないって父ちゃんがいってたとおりだ。

もう父ちゃんにも母ちゃんにも会えないのかな。
グスン

数時間のち

あっ、陸が近いぞ。あそこなら。こいでいけるかもしれない。


ヨイショ！ヨイショ！ヨイショ！


やった！岸にもどれたぞ。

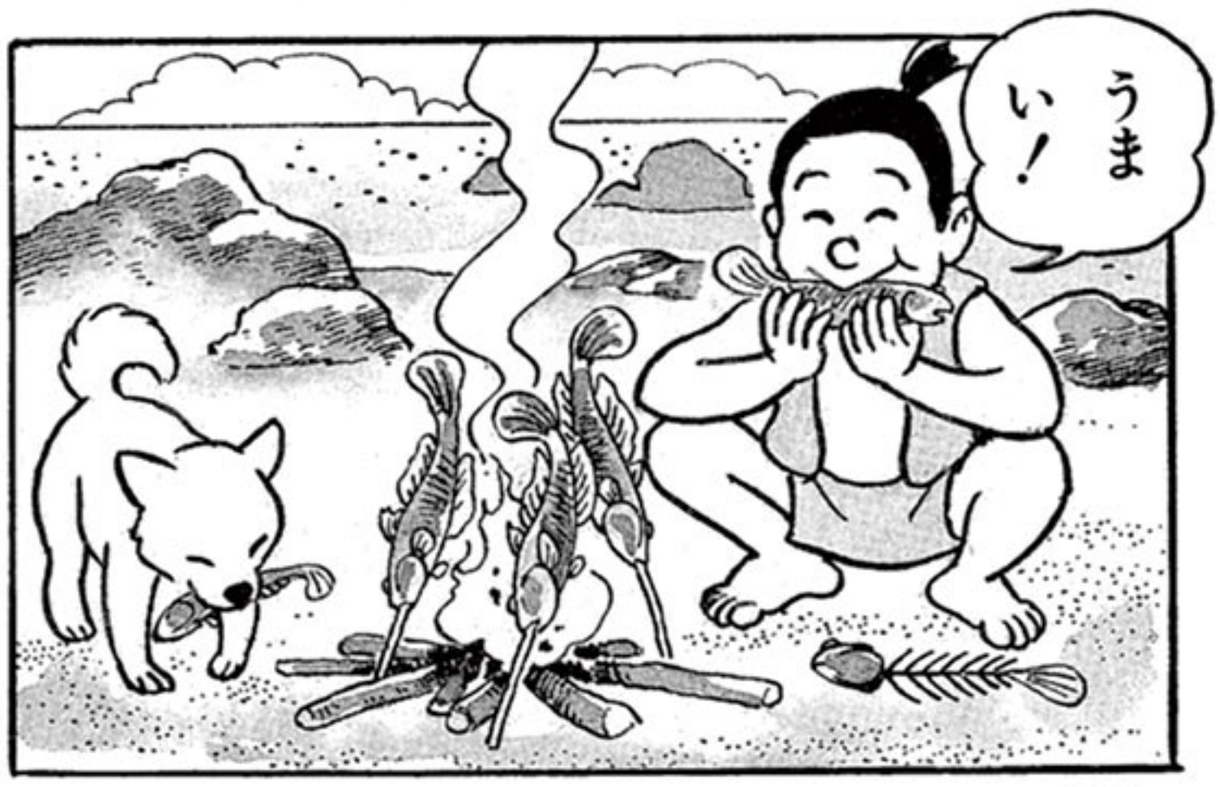
でも、ここはいったいどこだろう。
少しのあいだにずいぶん遠くまできたようだ。

シロ、今夜はこの木の下でねようぜ。

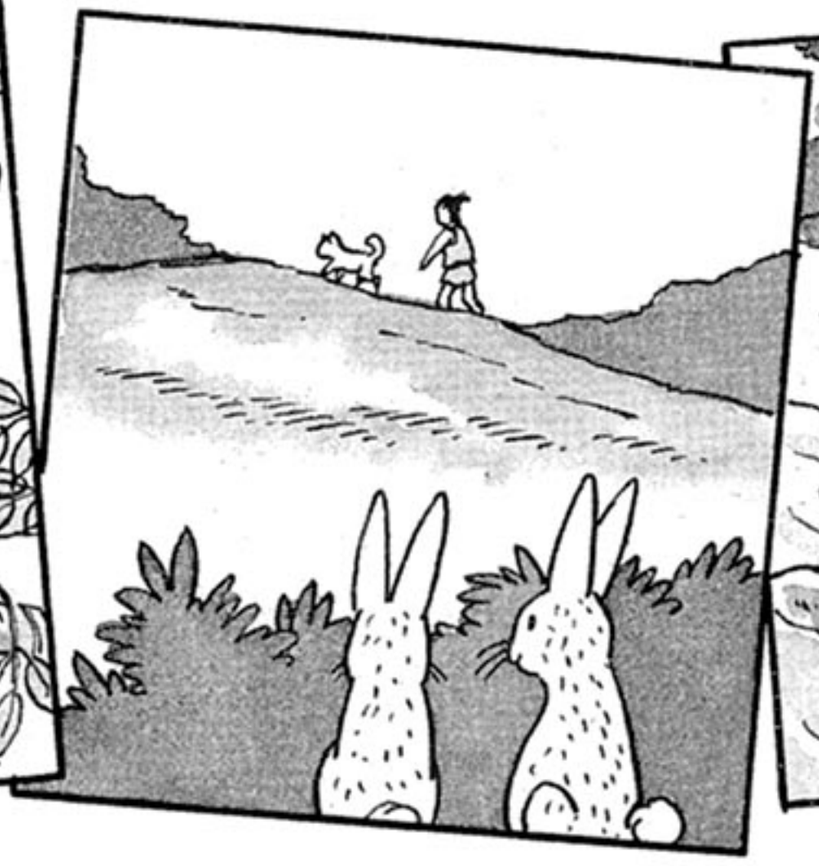
朝——
チチチ

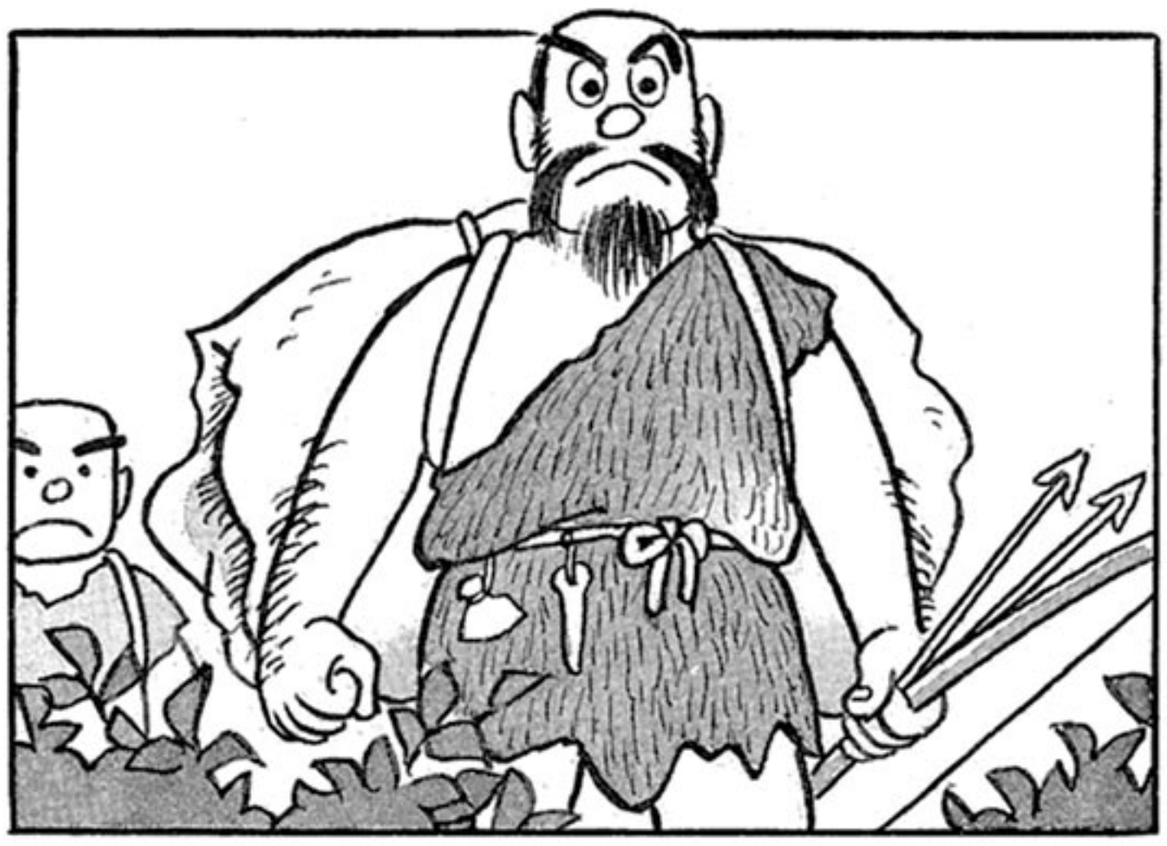
ああ、腹がペコペコだ。シロ、なにかさがしに行こう。

ほら、朝めしとれたぞ！
ワンワン


うまい！

この山をこせば母ちゃんのムラへ帰れるかも…。





ガサガサ

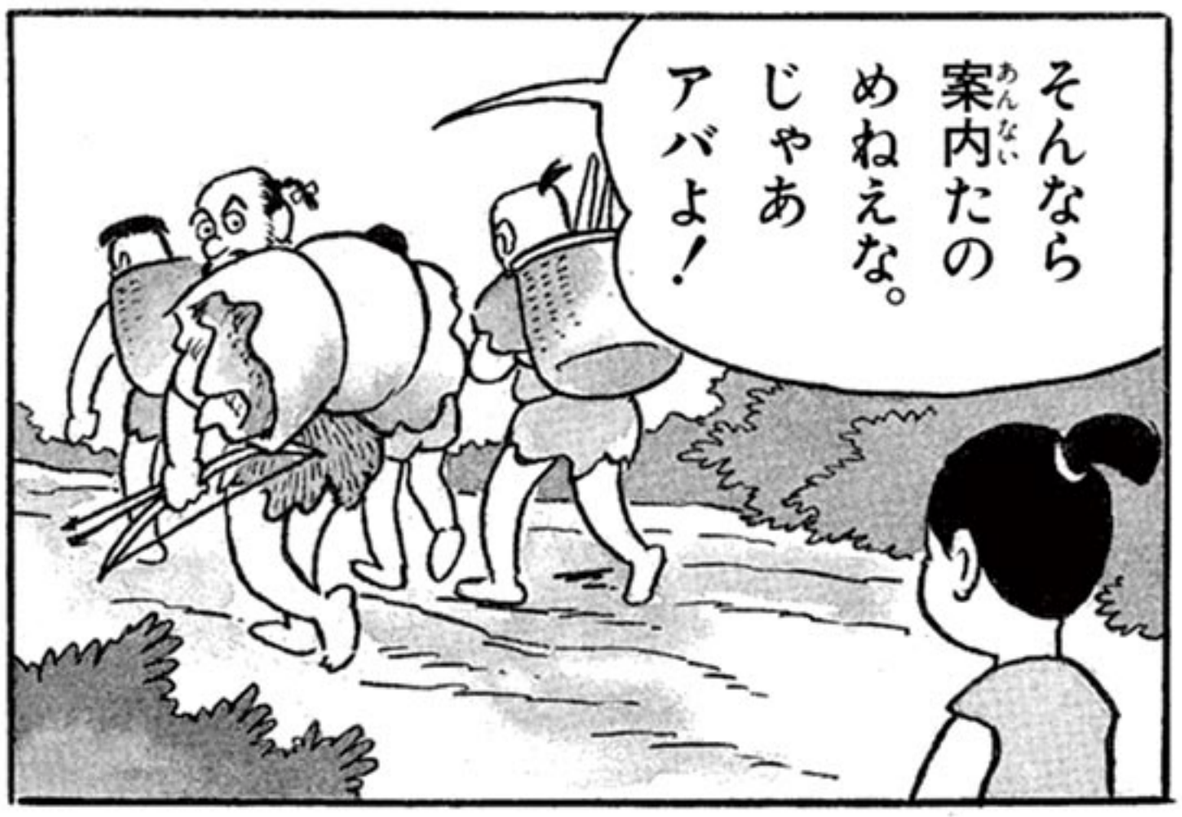
ウ

あ、おまえらだれだ！
そっちこそだれだ。

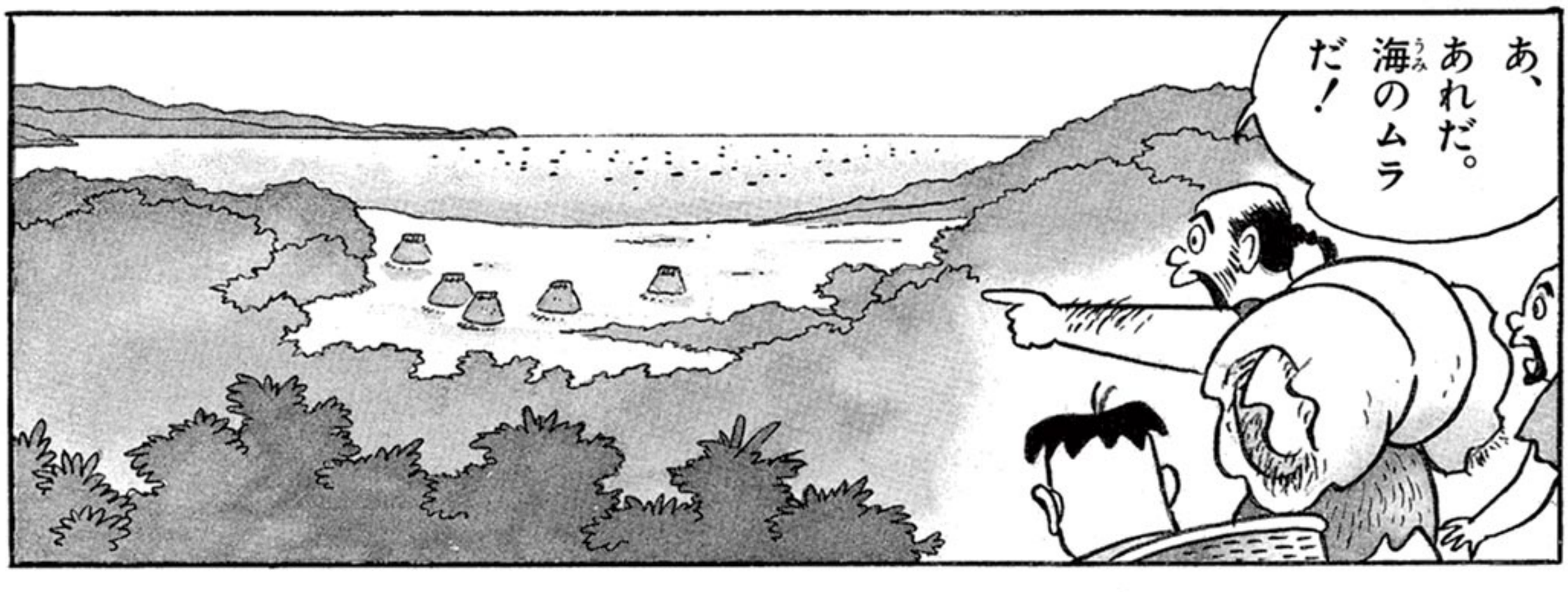
おれはタロだ。
クマオ
タロ？ふうん、おもしろい名前だな。

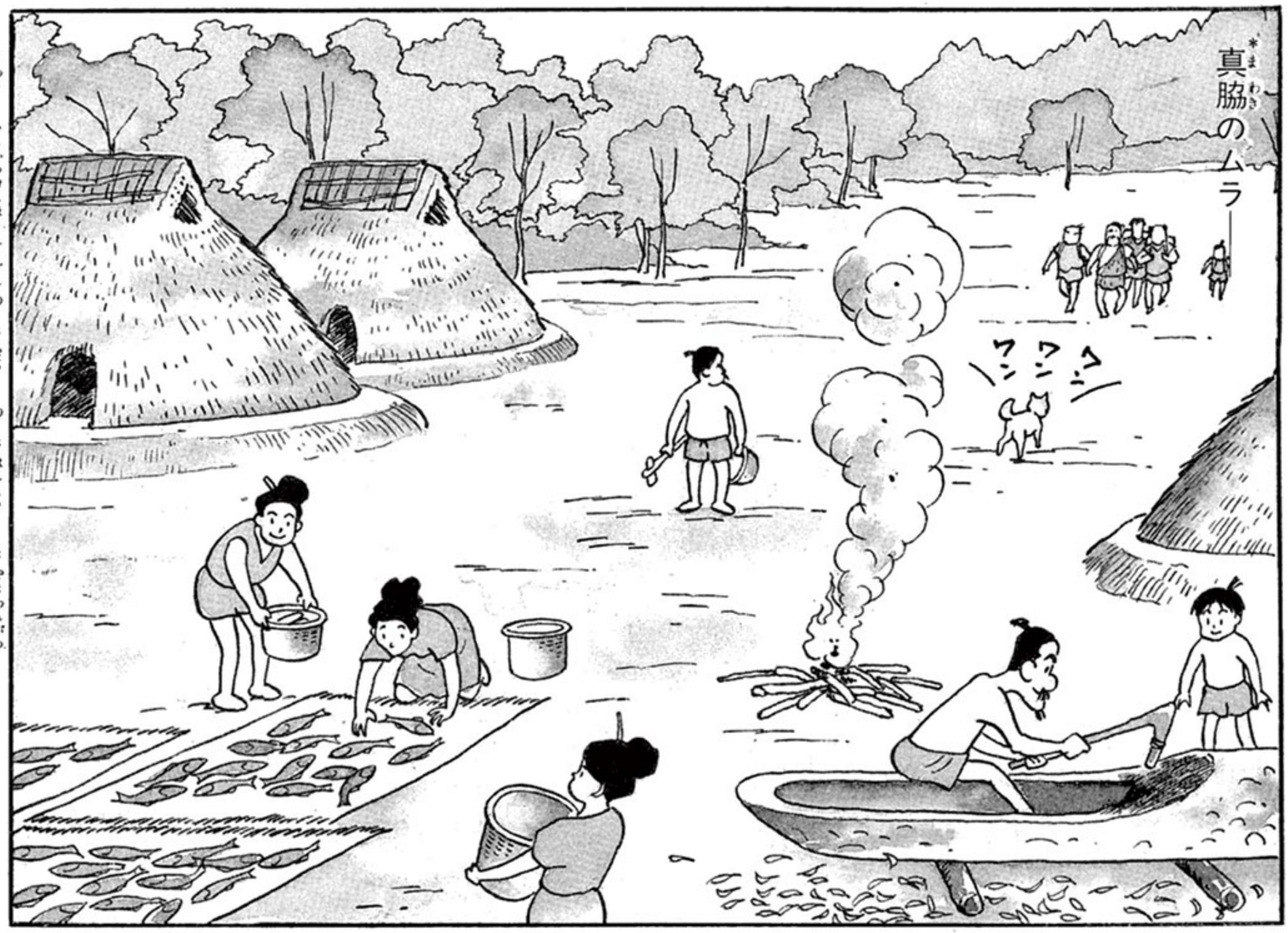
おらたち山のムラからクマやシカの毛皮を交換にきたんだ。

おまえ海のムラのもんだべ。ムラへ案内してくれねえか。
海のムラ？おれ、このへんのもんじゃないんだ。


そんなら案内たのめねえな。じゃあアバよ！

ま、まってよ。おれもいっしょに行く。





＊真脇…石川県鳳珠郡能都町。能登半島の富山湾側にある。

へえーっ、山のムラからとは珍客だ。ひとまずムラ長の家へこい。

ほう、山のムラからなあ。
それにしてもでっけえクマだな。毛皮見ただけでもびっくりだ。

ああ、敷物にしたら最高だよ。
ほかにクマの肉、シカの肉、イノシシの肉もある。みんな上等の干し肉だ。

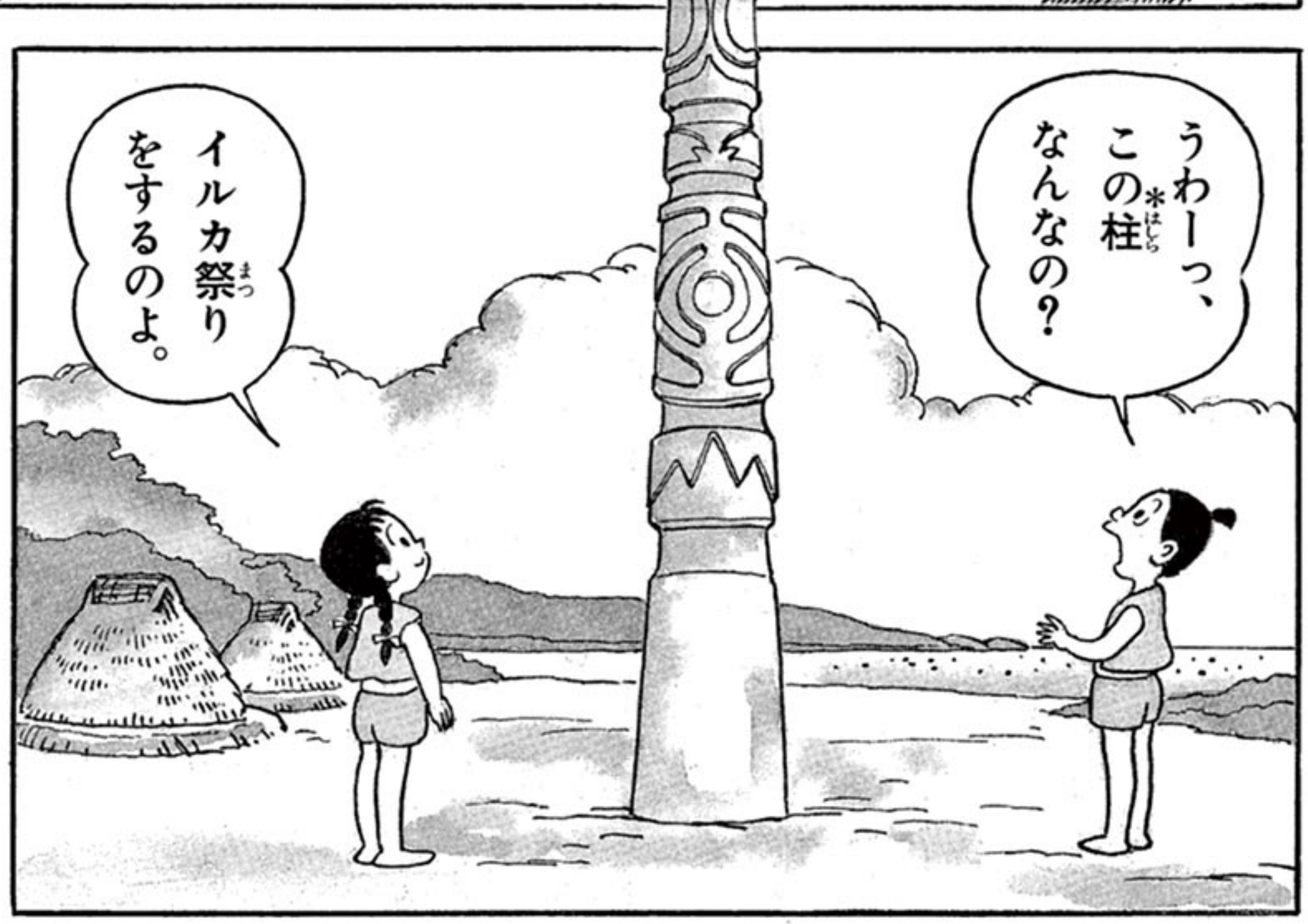
食べてみなされ。
どうれ。

おっ、うめえ！
そうだべ。

石オノなんぞどうかな、おらのムラで作ったもんだ。
そんなものいらん。こっちにもある。

このムラは今日から三日間、イルカ祭りだ。

イルカってなんだべな？
海にいる生きものだ。ゆっくり祭りでも見ていけ。

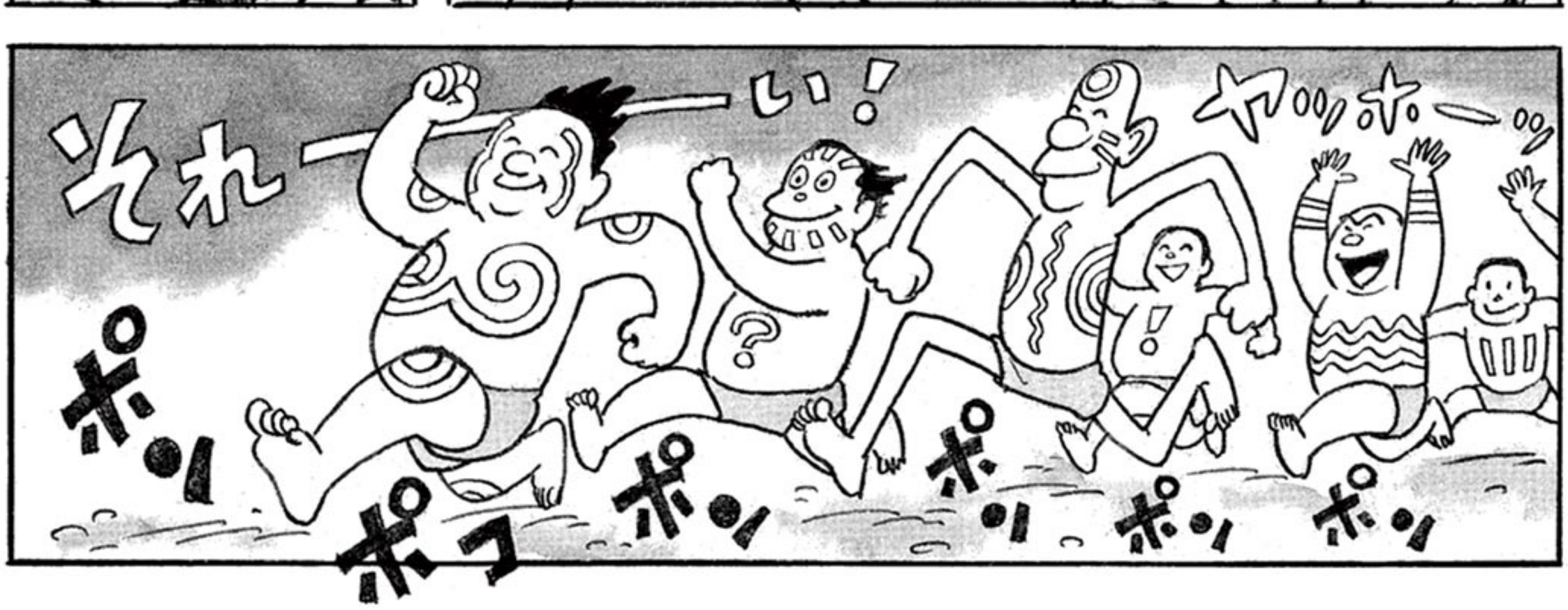


＊柱……真脇遺跡の約五千年前の地層から発見されたクリの木の彫刻をした柱（高さ約2.5メートル）をもとに、大きめに推定しました。

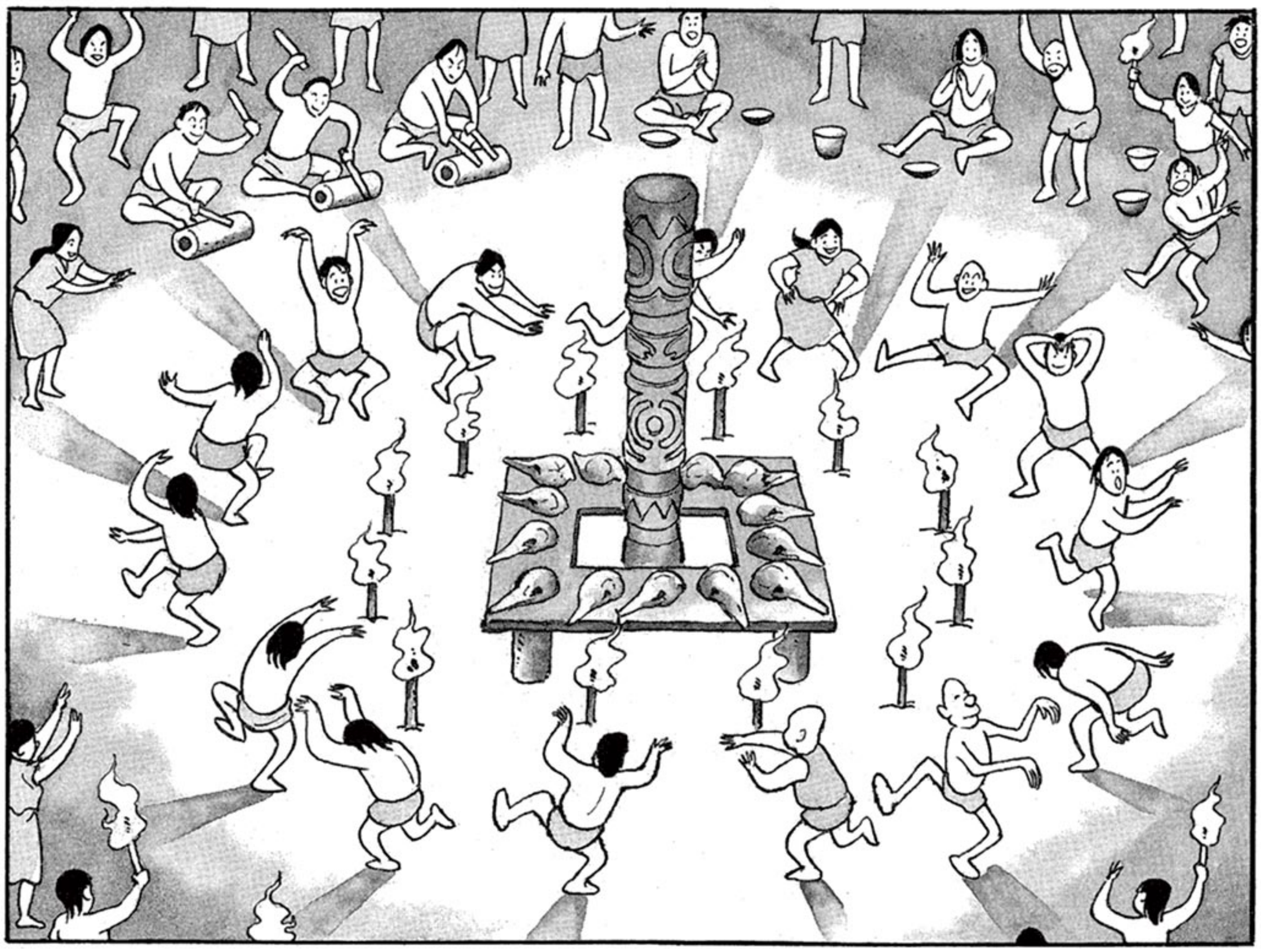
ファ
ファ
ガヤ
ガヤ
オホン。

あれは
イルカの
頭の骨よ。
へえー。
おらたちの
ムラじゃぜったい
見られねえ
祭りだそ。

さあ、
今宵は
われらが
ムラの
イルカ祭り
じゃ！
いせい
よく
やって
くれ！
ポン
ポン


それーーーい！
ポン
ポン
ポン
ポン
ポン
ポン

海でとったイルカの魂をしずめるために、毎年今ごろやるのよ。
ふふっ
イルカの魂が静かに海へ帰るようにって……。
ほう！



たのしいな！
ねっ、ゆかいでしょ。
わはは

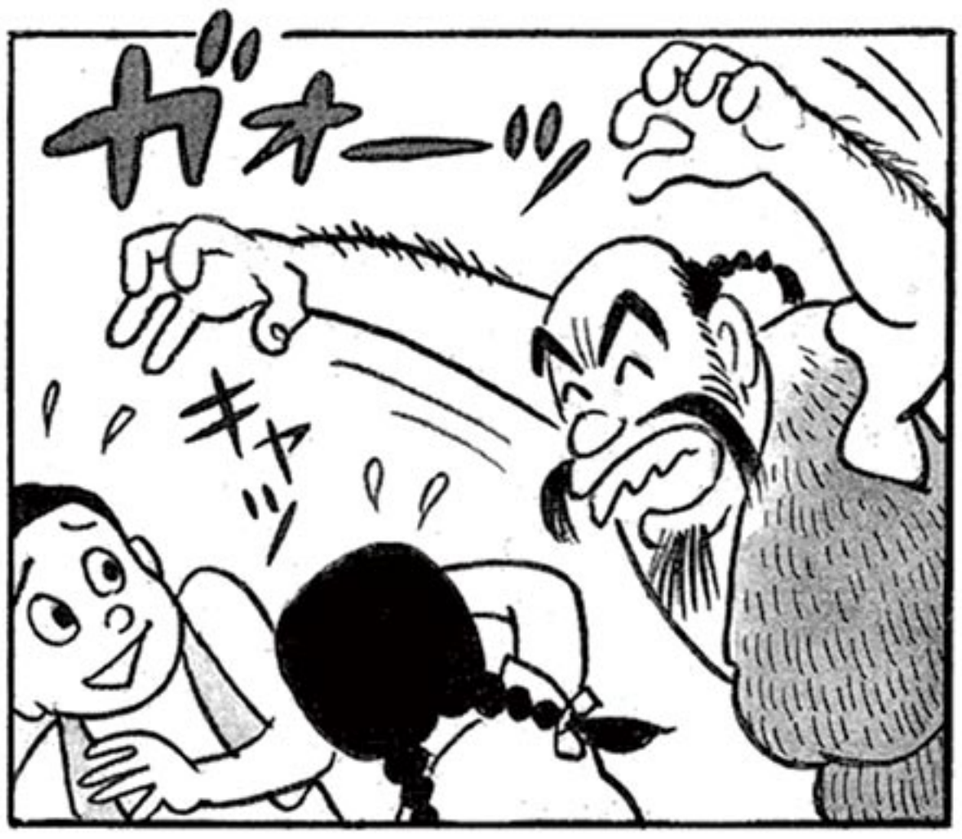
おらたち山のムラじゃクマ祭りやるだぞ。
おらたちの祭りはこんなもんじゃねえ。

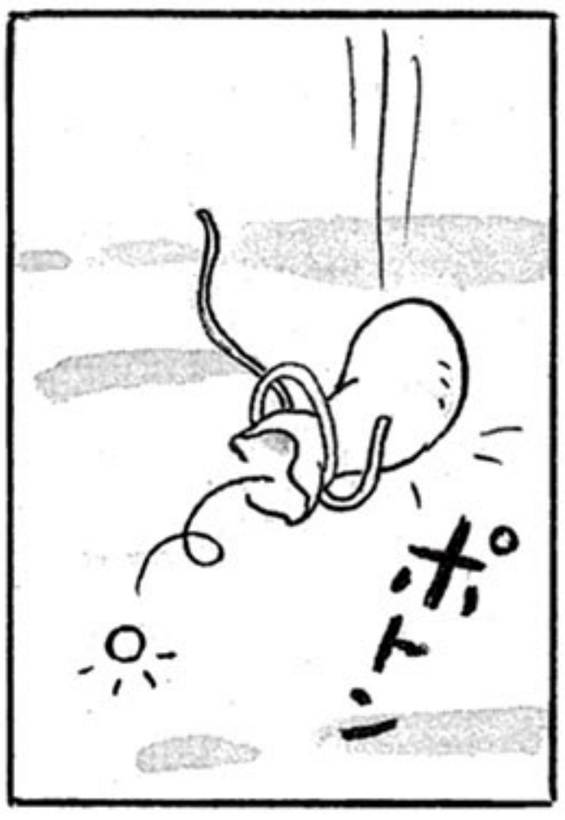
クマの毛皮つけた若い衆がムラ人にとびかかる、おっかねえ祭りだぞい。

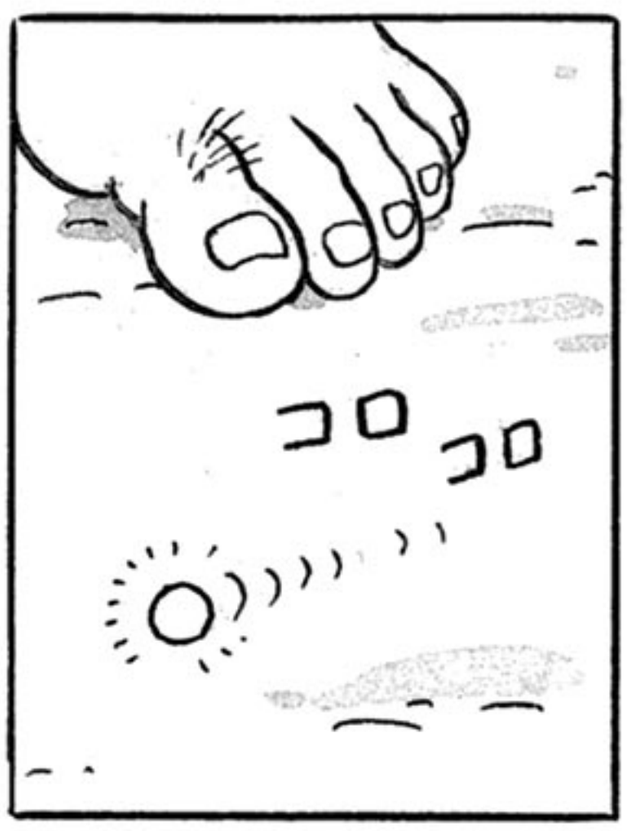
えっ！

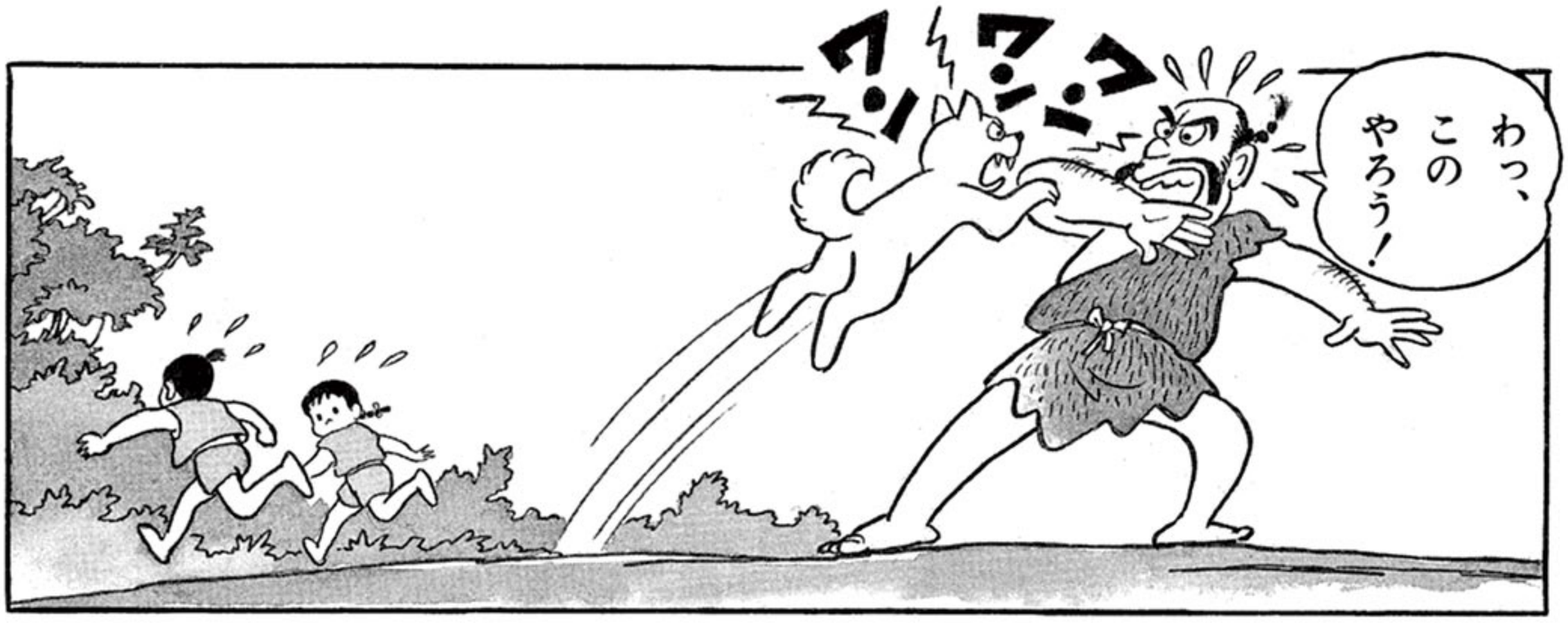
ガオ

というのは、じょうだんさ。やっぱり狩りでとったクマの魂に、感謝の気持ちをこめて、ムラ人のおどりをささげるのさ。








わっ、このやろう！

くそーっ、まてーっ！

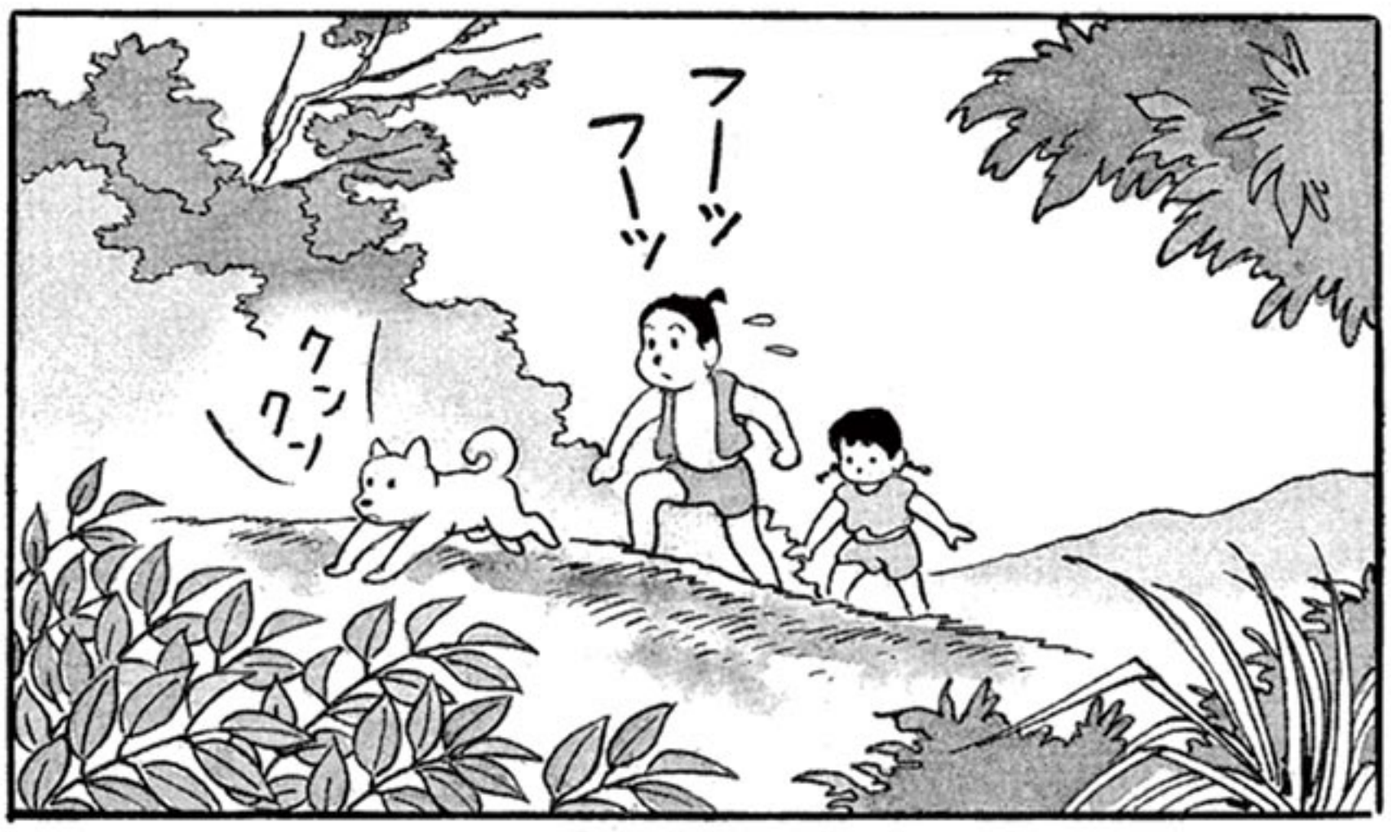
あんなやつにつかまってたまるか。

朝——

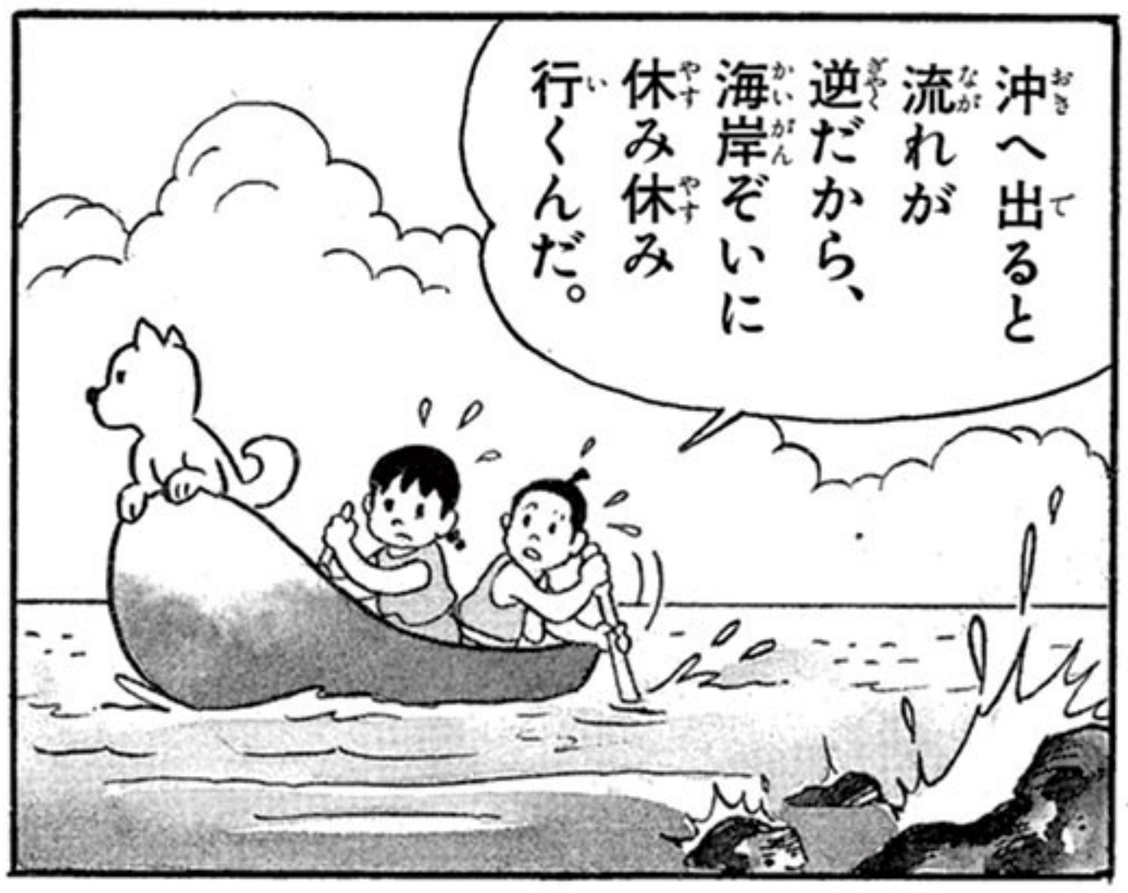
弱ったなあ、海のムラへ帰ったらクマオのやつにつかまってしまうし…。

ね、あんたのムラへ行こう。わたし遠くへ行ってみたい！

きたとおり逆に行けば、きっとあんたのムラへたどりつけるわよ。
クンクンもあるし…


フーッ
フーッ
クンクン

あった。あの舟できたんだ。
ワンワン


沖へ出ると流れが逆だから、海岸ぞいに休み休み行くんだ。

今日はこの入江で休もう。

何日かして——
おっ！むこうに舟が……。

もしや……。

シロだ！タロもいるぞ。
ワンワン

タローッ！
ハッ

父ちゃーん！

無事でよかった！
ワンワン

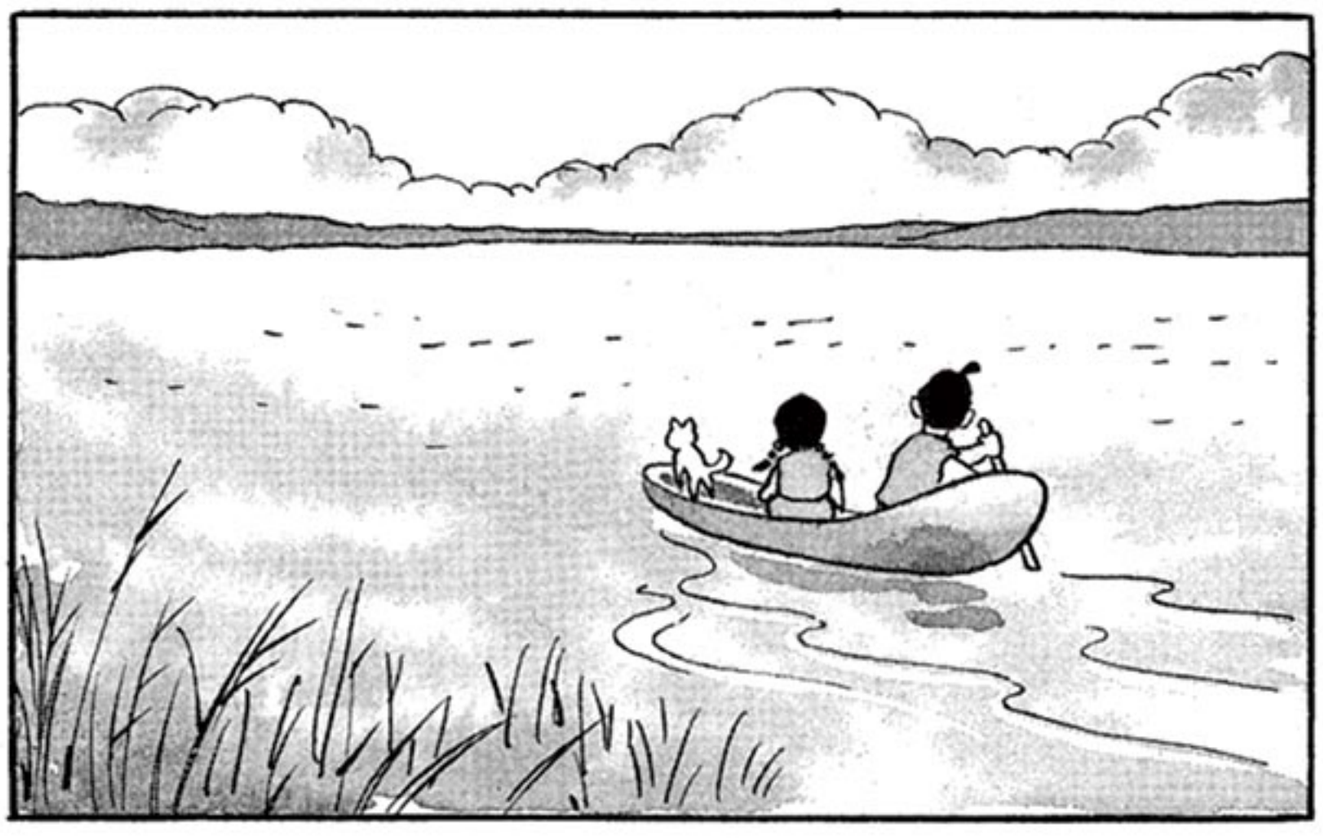
この子は？
海のムラにすむハナ。おれにとってもよくしてくれたんだ。
わたしタロのムラにすごくあこがれていたの。

さあうちへ帰ろう。
父ちゃん、おれ、まじないババさまがこわい。

安心しろ。ババさまはあの翌日ポックリ死んじまったよ。
え！
よくばりなババさまだったがもう、この世にはいない。なんにも心配しなくてもよい。
タロじゃないか！
タロが帰ってきたぞ！

母ちゃーん。
タローッ！

心配したよ。



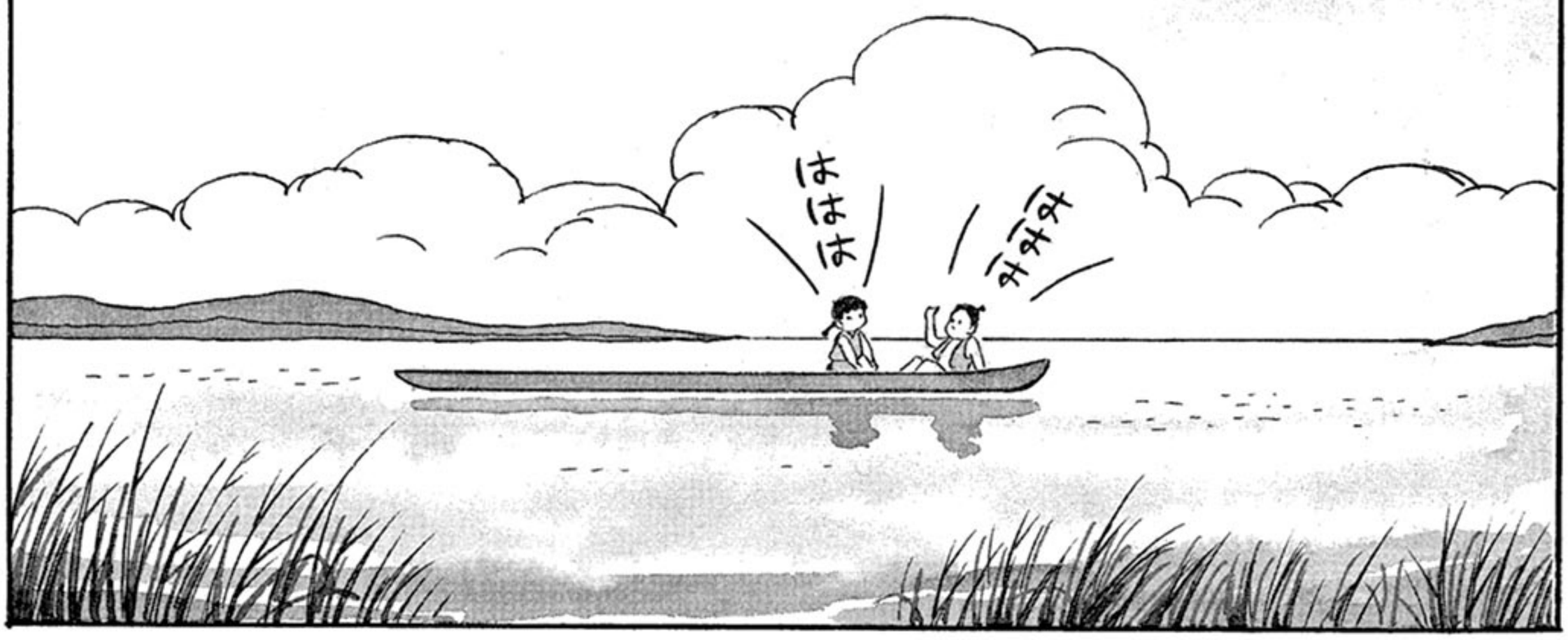
タロは、ハナをつれて無事に鳥浜のムラへ帰ることができました。

縄文時代、人びとは海の幸、山の幸のめぐみを受けながら、野山では木の実をとったり、シカやイノシシなどのけものをとったりして暮らしを立てていました。一方、川や湖や浜辺では貝をとり、魚をとったりしていました。

タロは、鳥浜のムラからにげだし、真脇の海辺のムラに迷いこみました。山のムラの人びとにも出会いました。

そして、タロは自分たちのムラのほかにも、暮らし方のちがったいろいろな人たちがいることを知りました。

タロやハナがおとなになったとき、さらにもっと広い地域とのまじわりができ、さまざまなことを学んで、それを生活のなかに生かしていったにちがいありません。



小学館 eBooks

第三章（だいしょう）

戦（たたか）いのムラ

――弥生時代中期（やよいじだいちゅうき）――

紀元前
一世紀ごろの
吉野ケ里だよ。

物見やぐら

作業場

＊この章のムラの復元やウンチクは、吉野ケ里遺跡発掘調査事務所の七田忠昭さん、吉本健一さんに指導していただきました。

大きな盛土の墓

柵

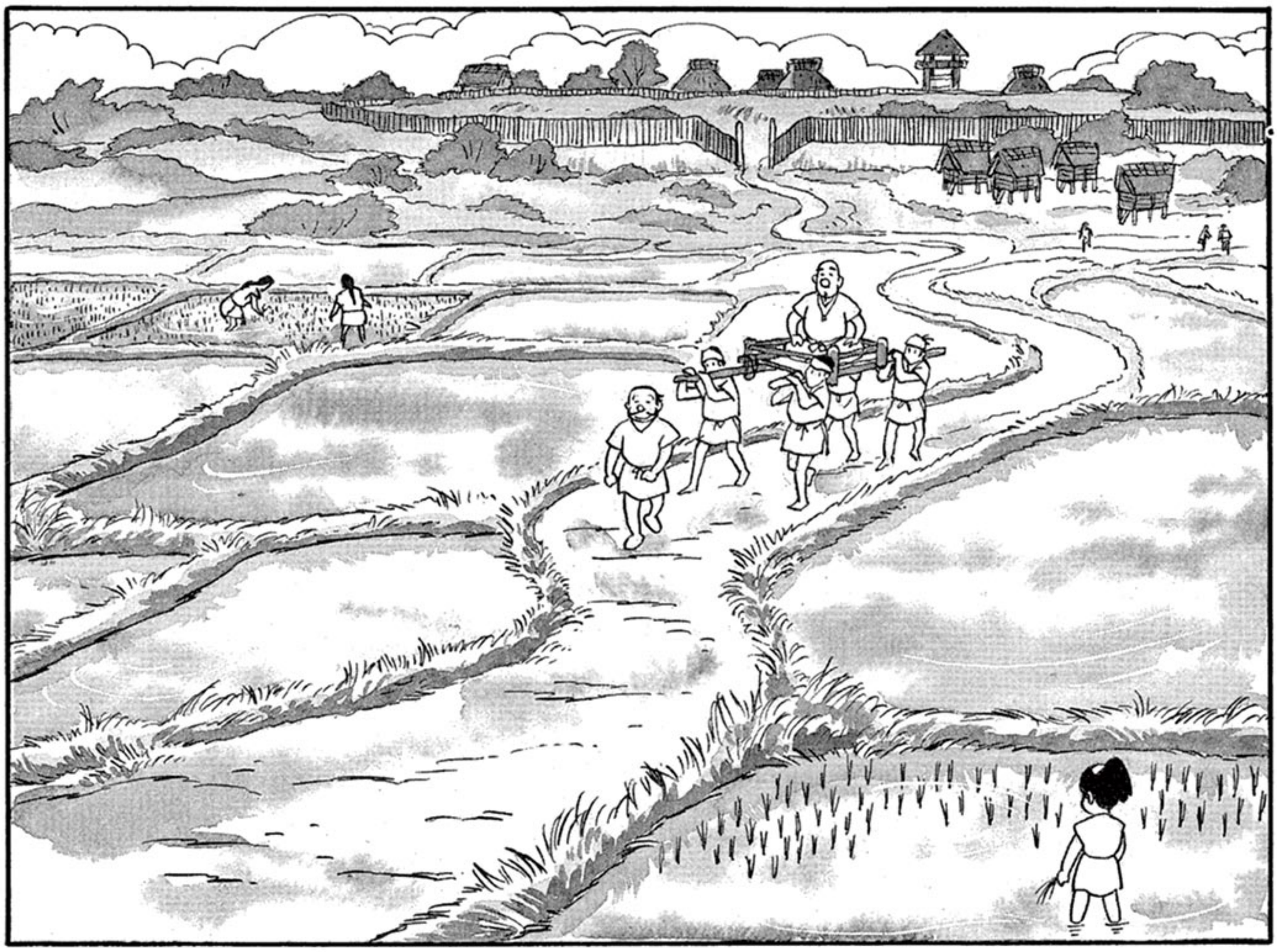
物見やぐら

水田

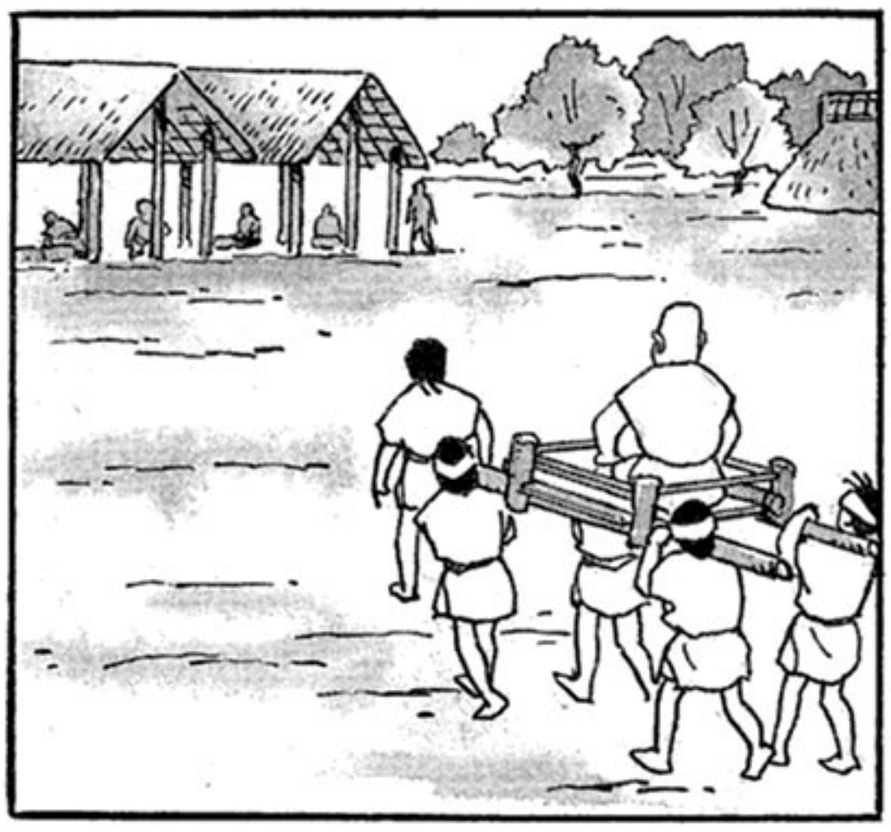
壕

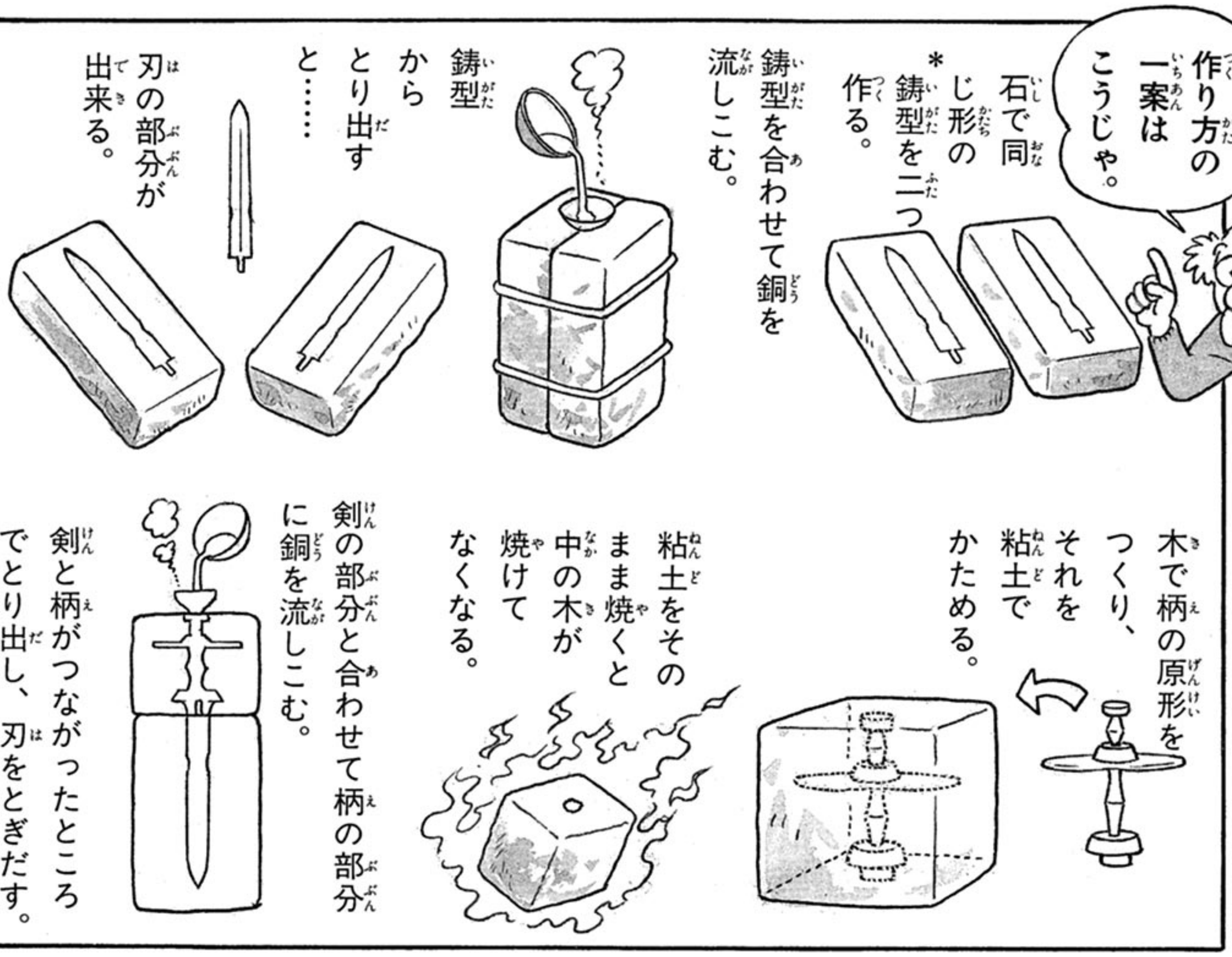
大きな倉庫

*国…この章に出てくる国は、ムラが10とか20とか、政治的にまとまったもので、国家として整ったものではない。

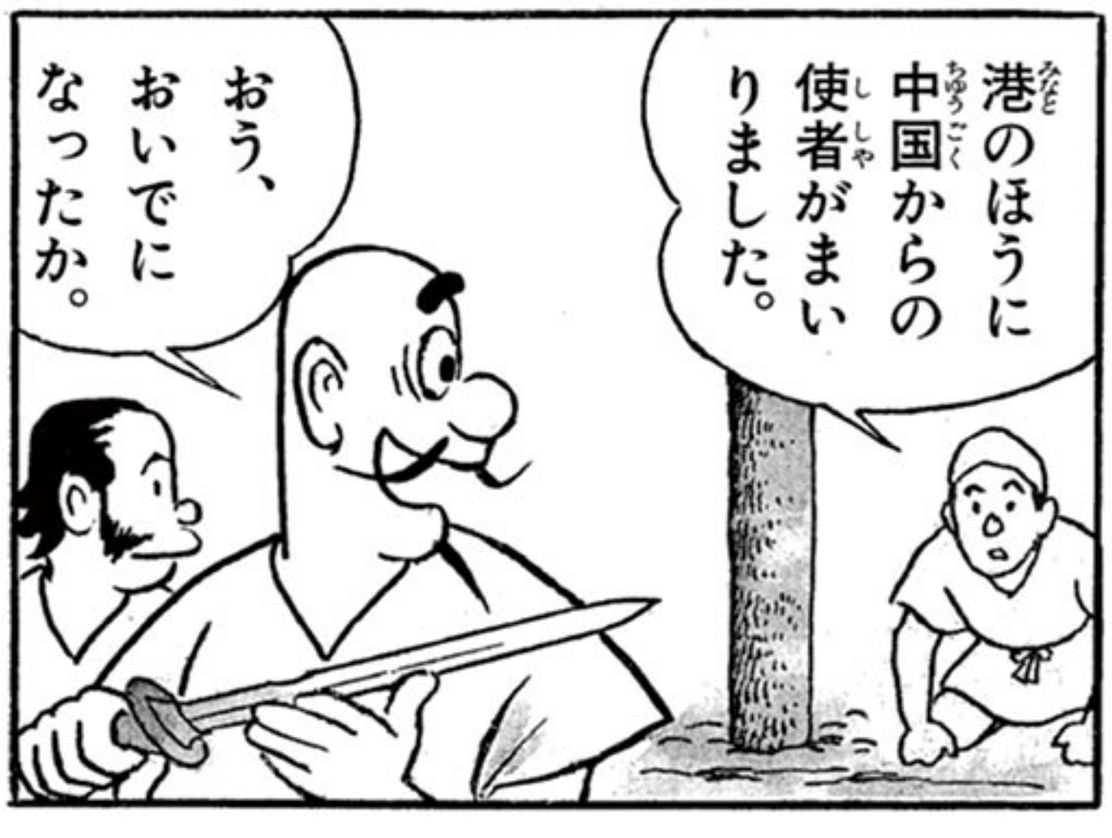


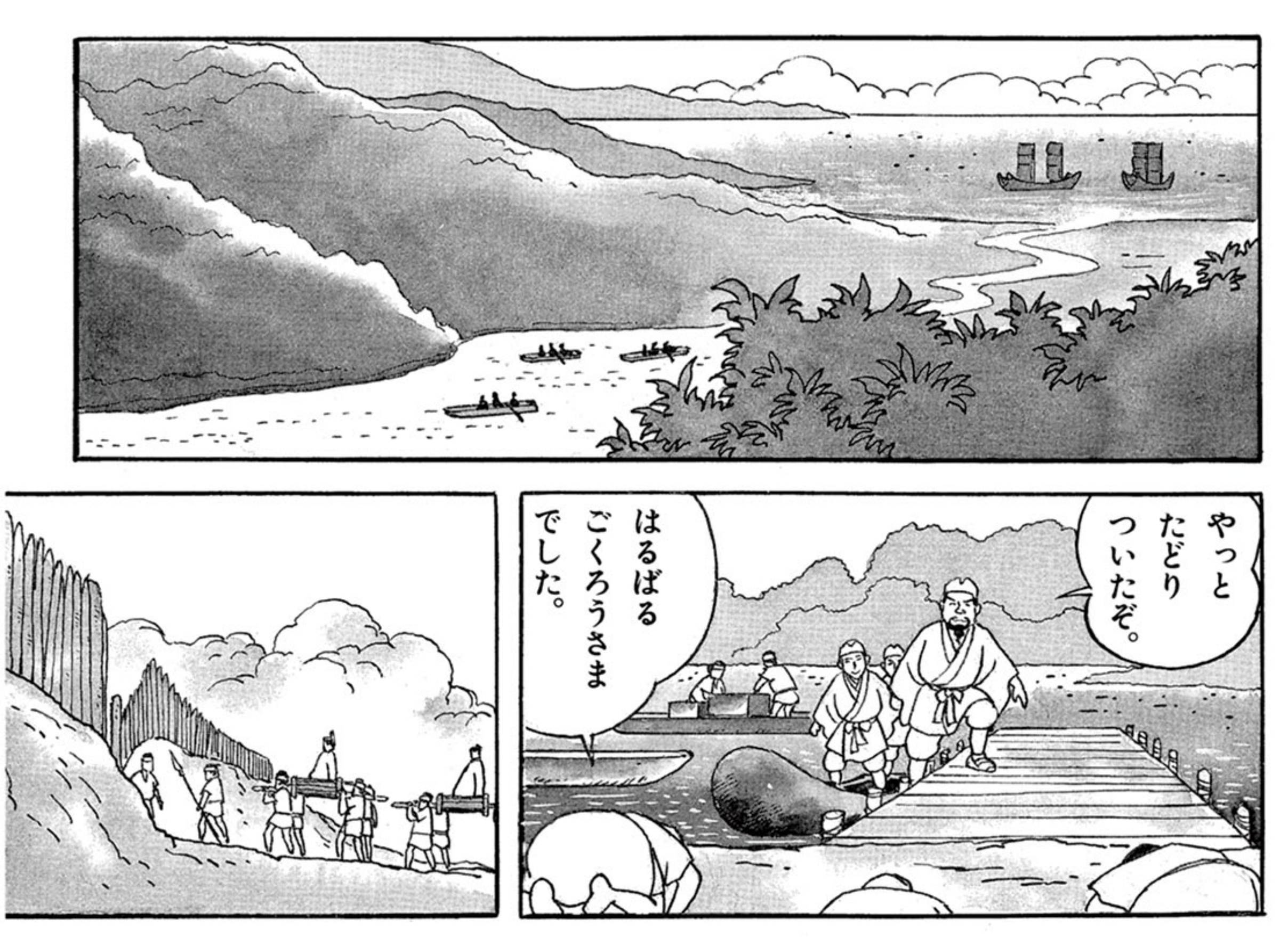
*青銅器…銅にすずを加えた合金で作った道具。武器や祭りのベルなど。ただし銅鐸とか銅像・銅章というように青銅のことも銅という。

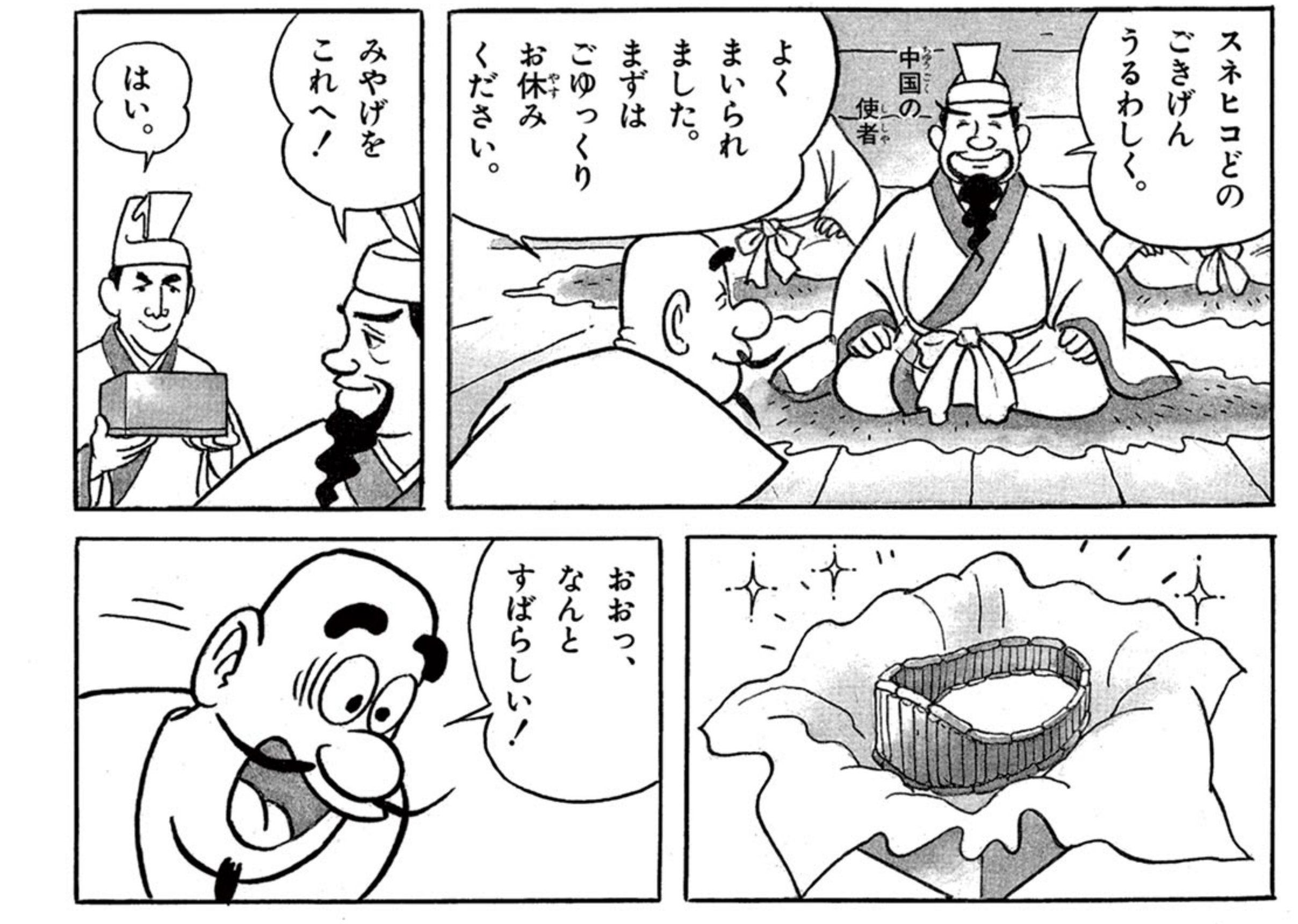




*鋳型…タイ焼きを作る型を思い出そう。鋳物を作るためにとかした、熱い金属を流しこむ型。

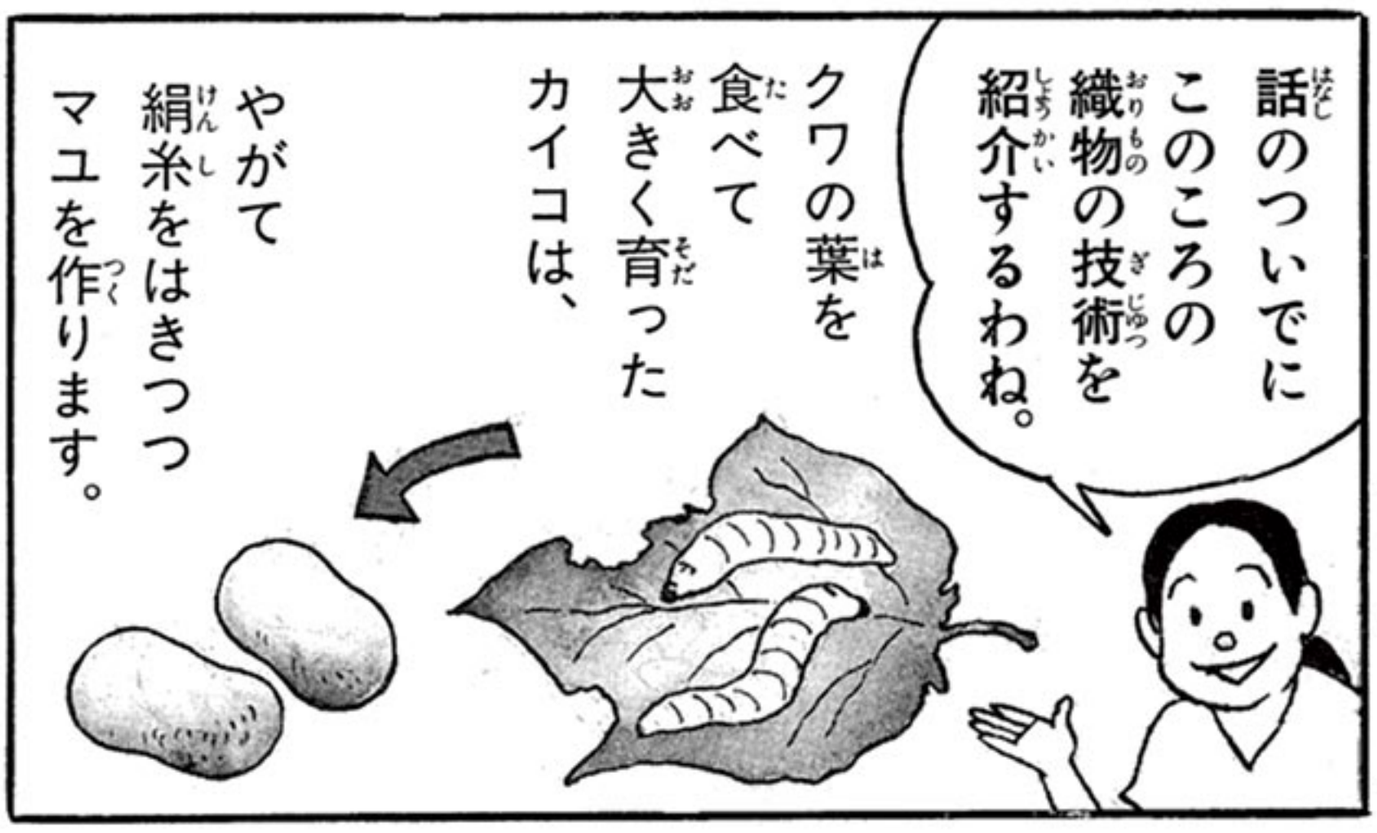


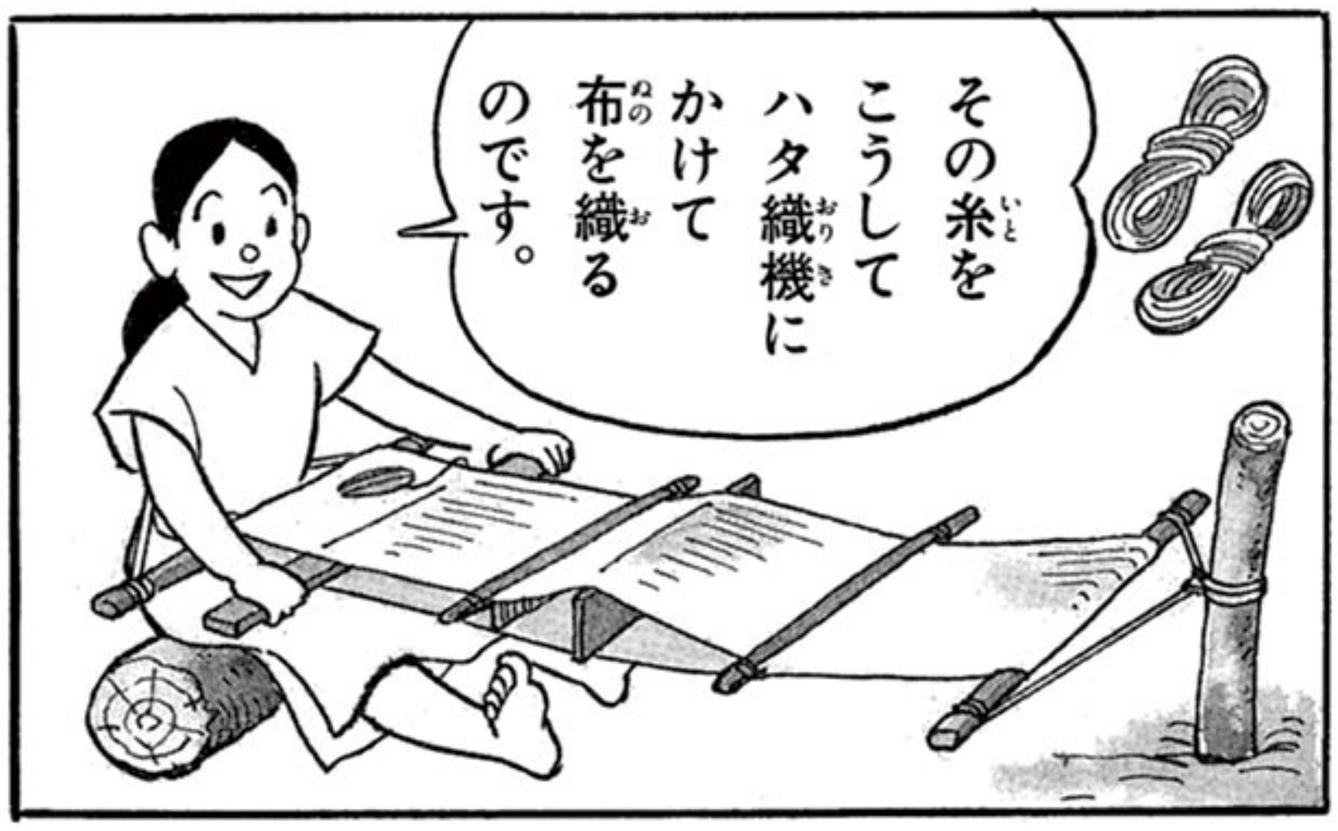

やっと
たどり
ついたぞ。
はるばる
ごくろうさま
でした。

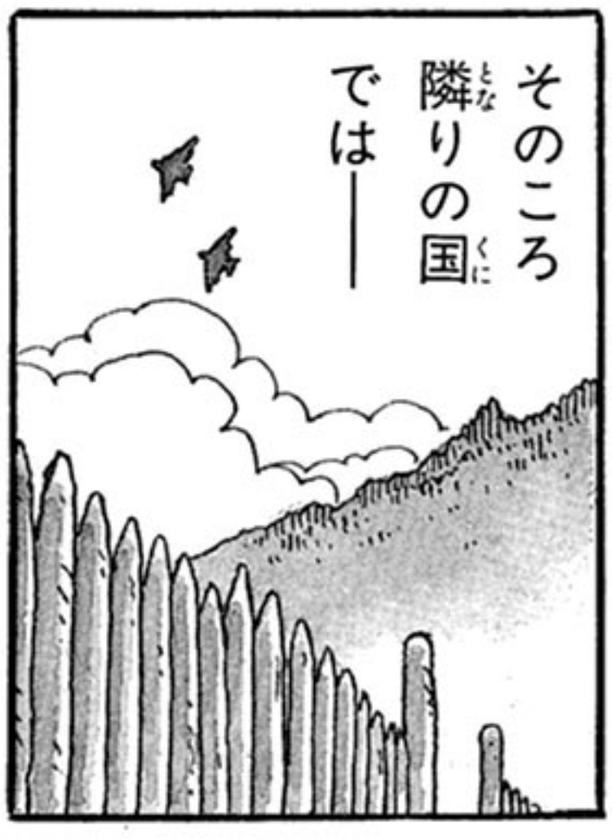

スネヒコどの
ごきげん
うるわしく。
中国の使者
よく
まいられ
ました。
まずは
ごゆっくり
お休み
ください。
みやげを
これへ！
はい。
おおっ、
なんと
すばらしい！

＊管玉…管状のガラス玉。碧玉という緑色の石でも作る。＊長沙…中国湖南省にあり、ガラスの材料の産地。

＊絹の織物…弥生遺跡からは、中国・朝鮮半島の古代の絹とは顕微鏡で見分けることのできる日本特有の絹がみつかっており、日本製と認められている。







*吉野ケ里でみつかった絹は、アカネやカイイムラサキを使って色を染めていたことがわかっている。

さよう！
まずもってすばらしい
青銅器を作る技術…。

つぎには
織物。

そして
コメや野菜
などの
農作物。

どこをどうみても
豊かなものばかり
じゃ。

せっかくだが、無いものは無い！

そんなこと言って、ひそかに自分たちの剣は作っているのであろう…。

なんとぶれいな！

じょうだん、じょうだん。

おう、ここからの見はらしはなかなかよいなあ。

二つの川にはさまれて守りも堅いようだのう。

用件がおすみであれば、さっさとお帰り願いたい。

そんなにつっけんどんにおっしゃらずとも隣りの国どうしの仲ではないか。

ムッ

あの者たちあやしい気配…。取り引きをよそおった偵察のものにちがいない。

なあに！あんな
ヘナチョコたちに
乗っとられるような
ことはぜったいに
ありません。

フフフッ
いまにみてろ！
このクニのものは、
すべてわれらのもの
にしてみせるぞ。

シー！
声が大き
いぞ。

なんだか
気味悪い
人たちね。

やがて中国の
使者は
帰って行き
ました。

しばらくして——

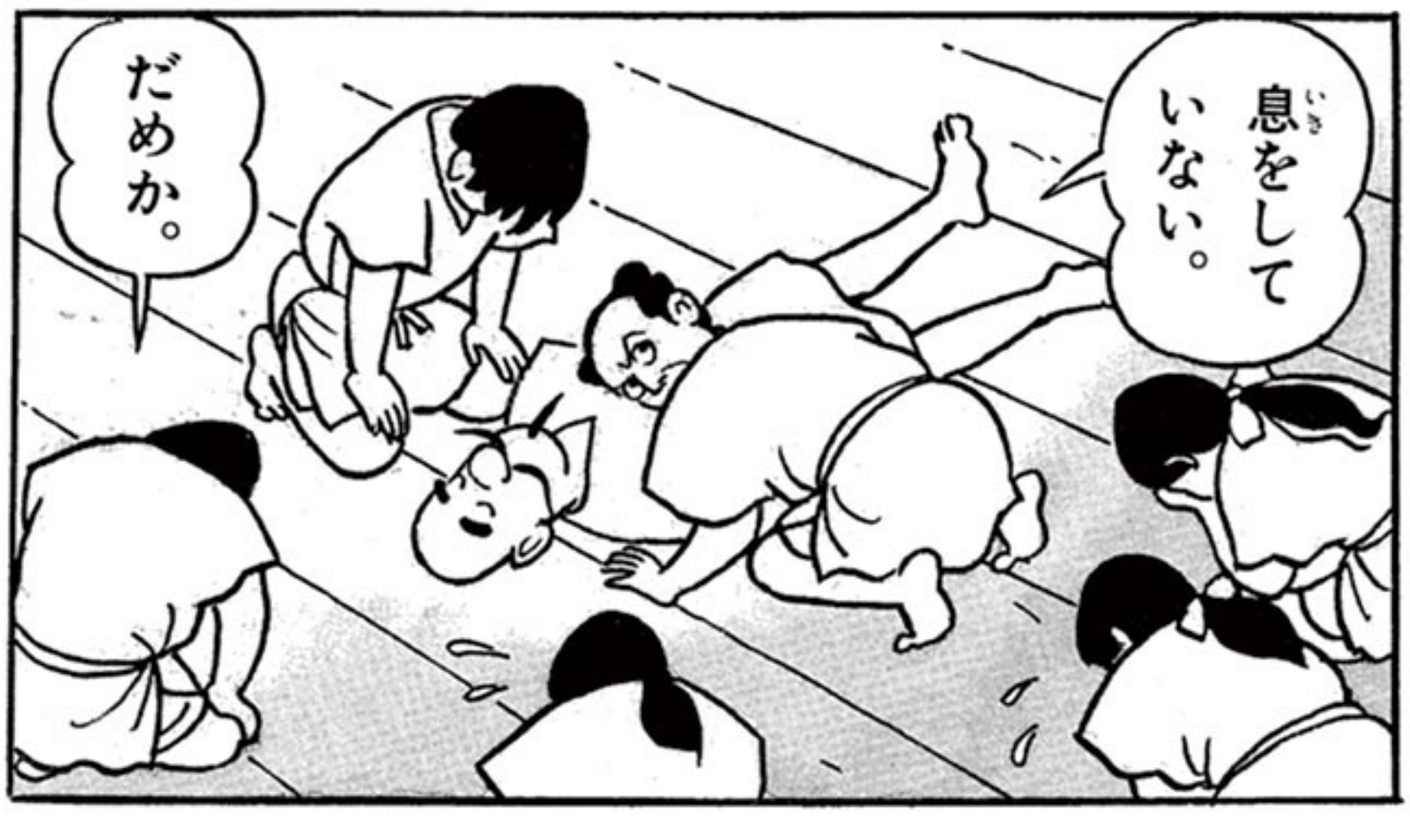
だれか！
だれかきてーっ
スネヒコさまが！
スネヒコさまが…。

なんだと
……。

スネヒコ
さまが…。

スネヒコ
さまあ！

これは
いかん。


息をしていない。
だめか。

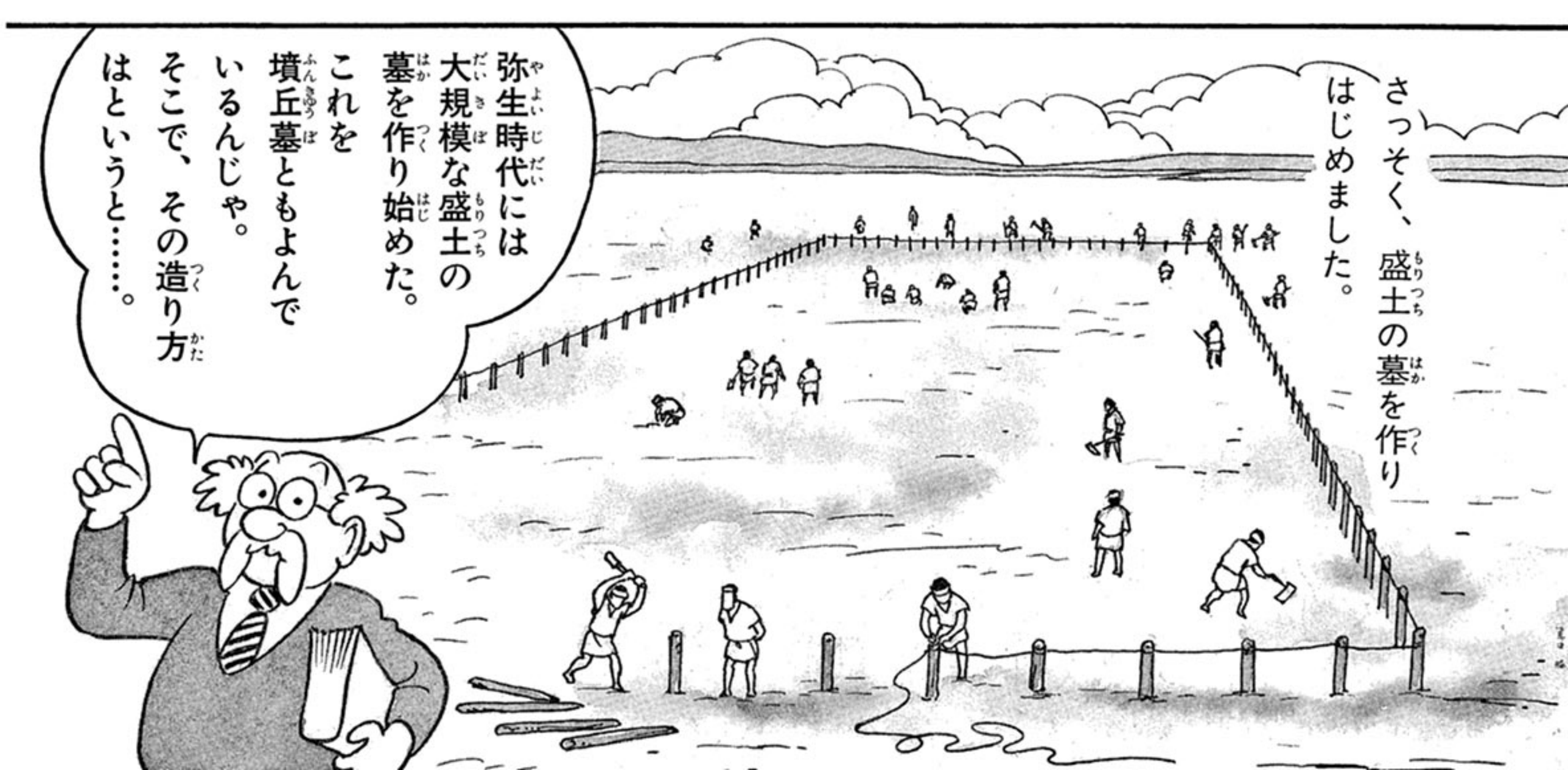
急いで国じゅうの者にしらせろ！
はっ！

なんということを！
きのうまであんなにお元気だったのに……。

人の命はわからぬものよ！
ほんと。

このあとこのクニはだれがおさめるんじゃ…。
長老たちの会議によって決まるじゃろう。

さっそくとむらいの準備をはじめねば……。

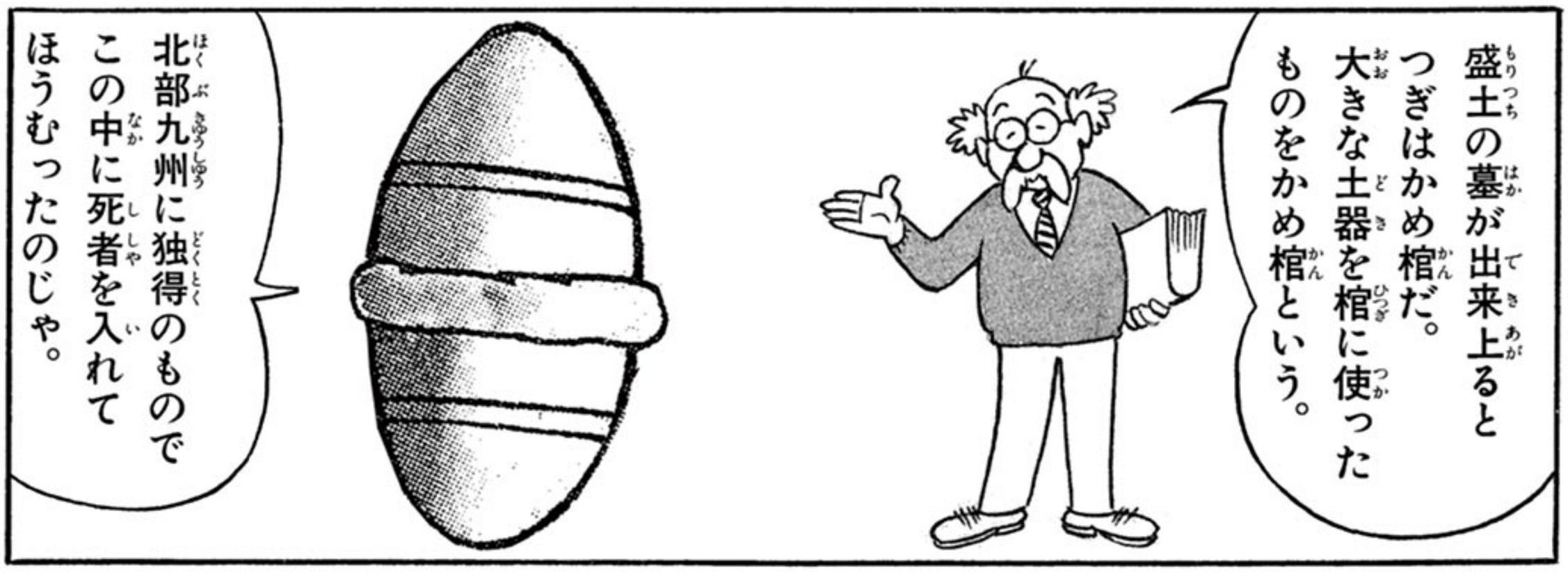

さっそく、盛土の墓を作りはじめました。
弥生時代には大規模な盛土の墓を作り始めた。これを墳丘墓ともよんでいるんじゃ。そこで、その造り方はというと……。

決められた広さの中で、まず周囲に土まんじゅうをつくる。

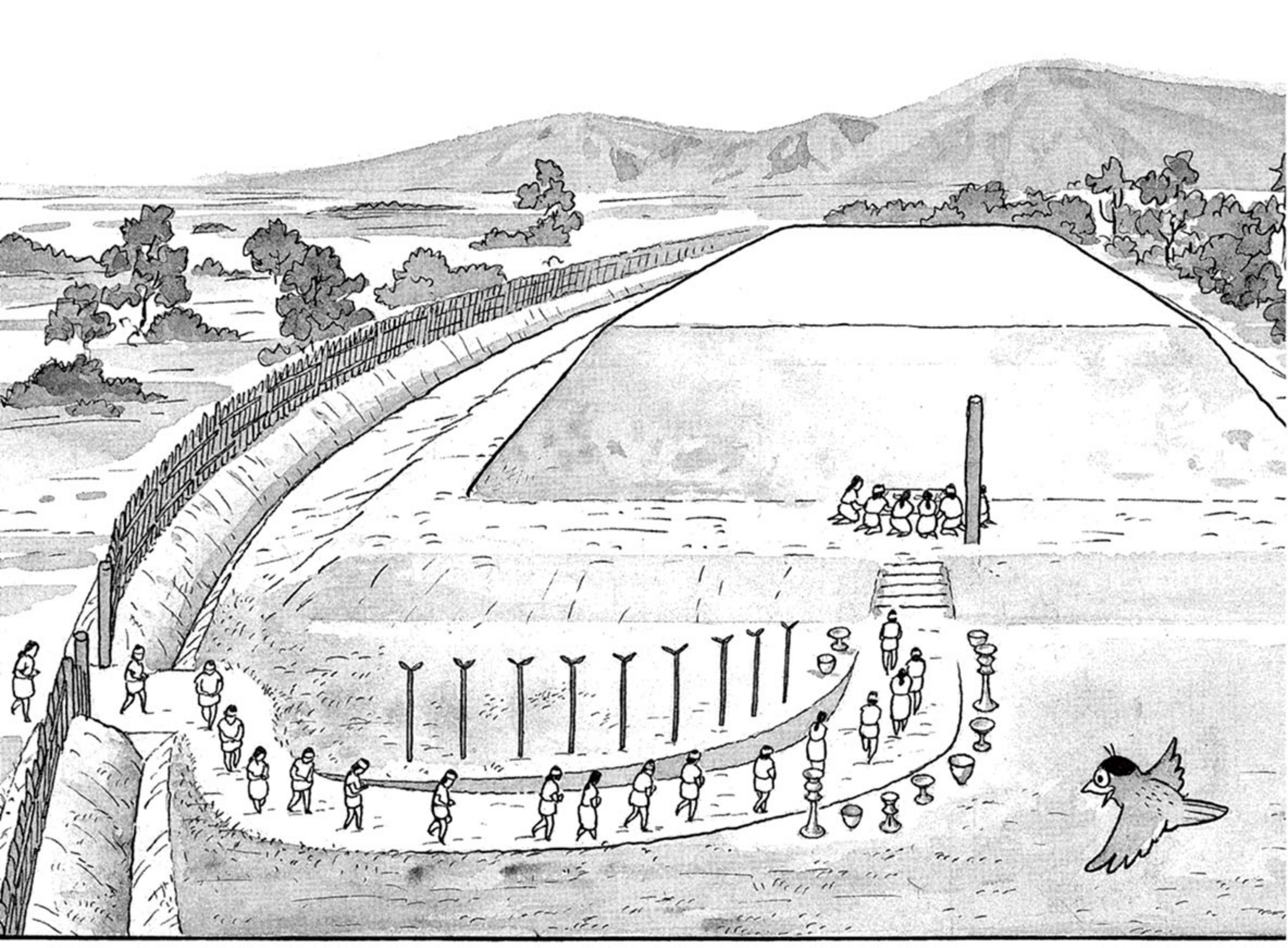
周囲の土まんじゅうをつなぎ、内側に土まんじゅうをつくる。

形を整えたら、その上にさらに土まんじゅうをつくる。

土まんじゅうをつき固めながら、一定の高さまでこれをくりかえす。



＊盛土の墓も、ふつうの人の墓も、かめ棺のほうむり方は同じですが、盛土の墓は固くつき固めてあるため、穴をほるのが大変でした。



まわりのムラムラからも大勢の人たちが葬儀に参列しました。

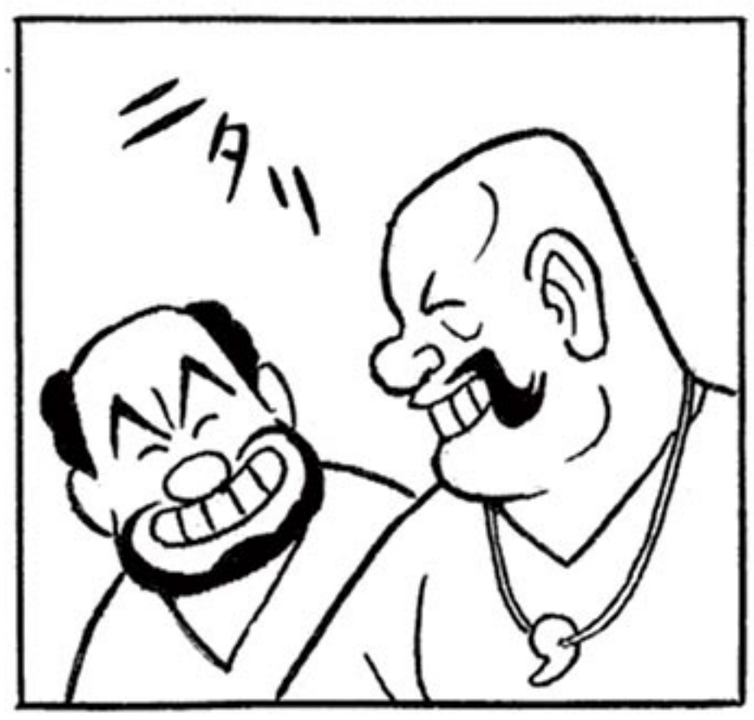
あれは隣の国のサネヒコ王だ。

だいじな方がなくなられさぞお悲しみであろう。
おそれいります。

これからこのクニもたいへんでござろう。おさっしします。
お困りのことがあれば何でもお手伝いいたしますぞ。
……。

ムニャムニャ

それではこれにておいとまいたそう。


ニタリ

ホー
ガサ

夜の吉野ケ里

ボッ
ヒュー
ッ
ウッ
ヒュン
ヒュン
ヒュン
ギャッ！
敵襲！
敵襲！
くそっ、隣りの国のやつらだっ！
とうちゃーん！
女と子どもは南の方へ逃げろ！

柵をやぶられたぞ！

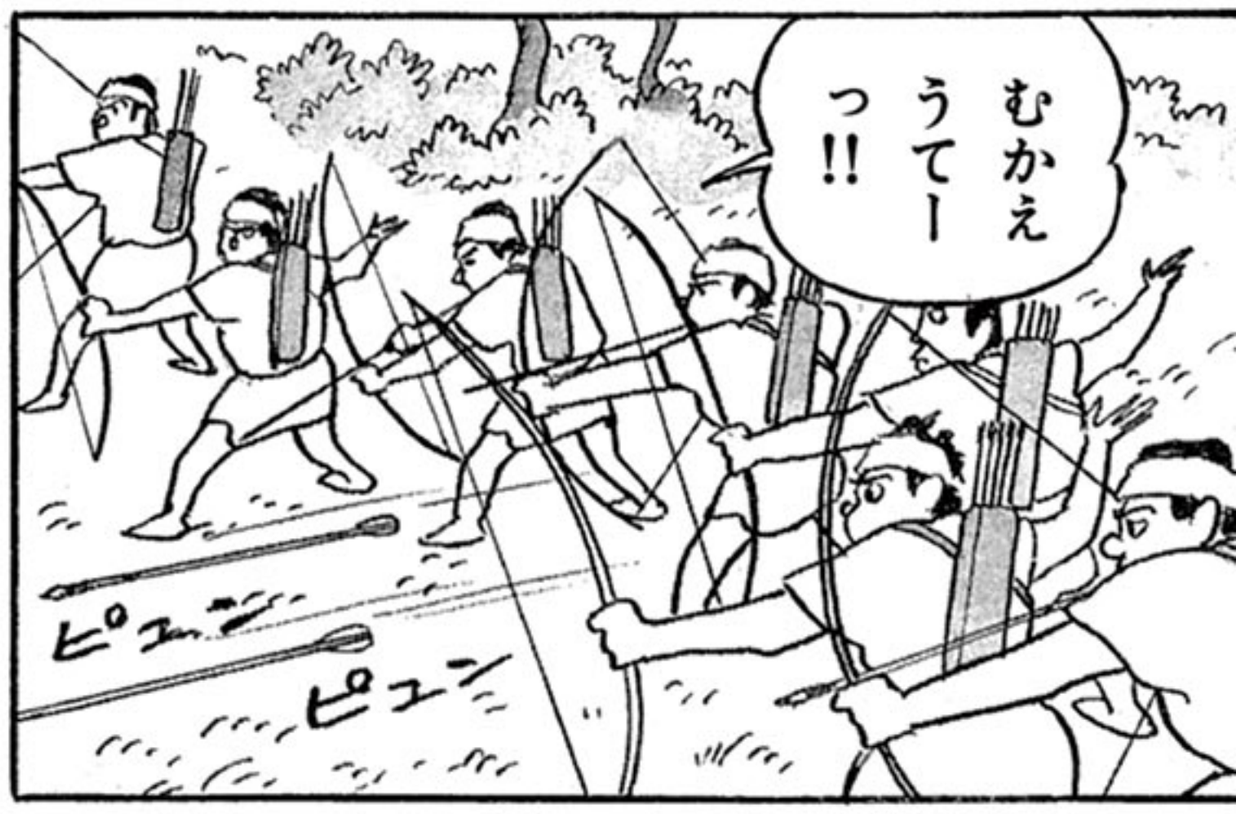
そりゃ！

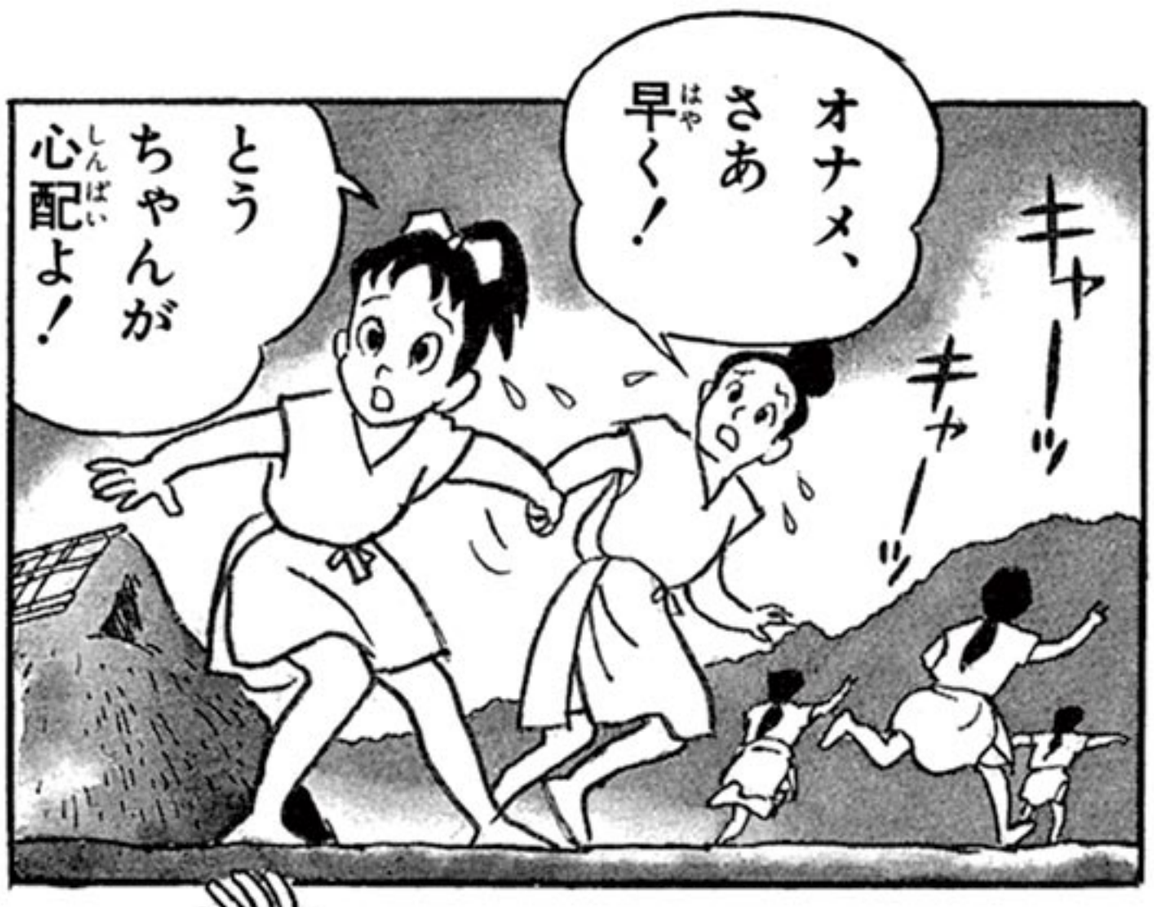
ワーワーワー

せめろー！

皆殺しだーっ!!

やきうちしろ！


むかえうてーっ!!
ピュン
ピュン


オナメ、さあ早く!
とうちゃんが心配よ!
キャーッ
キャーッ

オナメーッ!

ウッ!
ワーッ
ビビビ

とうちゃーん!

とうちゃん……
ばかっ、早く行けっ、逃げるんだ!

しっかり。
おれにかまわず早く逃げろ!

ガキッ

うわっ！
えーい！

このガキめ！

ポカ
ポカ
ポカ
ポカ

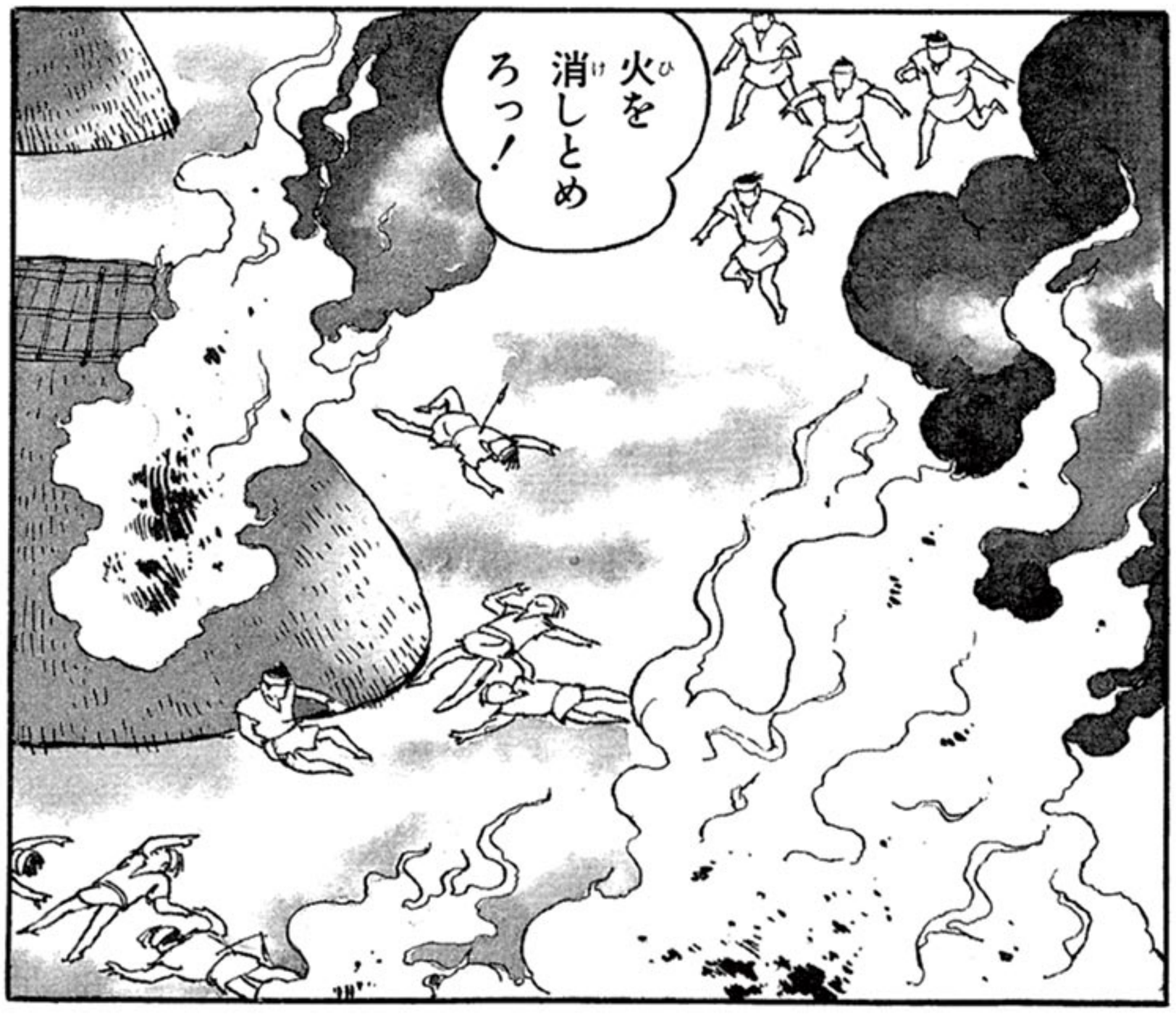
ゲッ！
ズーン

ウヒャー…
うて！うて！
ヒュン
ヒュン
ヒュン

引けー！引けー！

逃げろ！
ヒュン
ヒュン
ヒュン

くそ！
追うな！深追いはするな。


火を消しとめろっ！

とうちゃん！
オナメよくやった！

一夜あけて

ふつうの者は盛土の墓ではなくふつうの人たちの墓地にほうむられたんじゃ。

吉野ケ里の発掘では何千というふつうの人のかめ棺が発見された。

その中には体にたくさんの矢をうけた者や首のない人骨も見つかっておる。

*奴国…福岡県春日市あたりにあった国。

やがて、吉野ケ里では長老たちが集まり、新しい王がえらばれました。

ウデヒコさま！

バンザーイ

バンザーイ

バンザーイ

これからみんなで力を合わせてこのクニを豊かにしていくのじゃ。

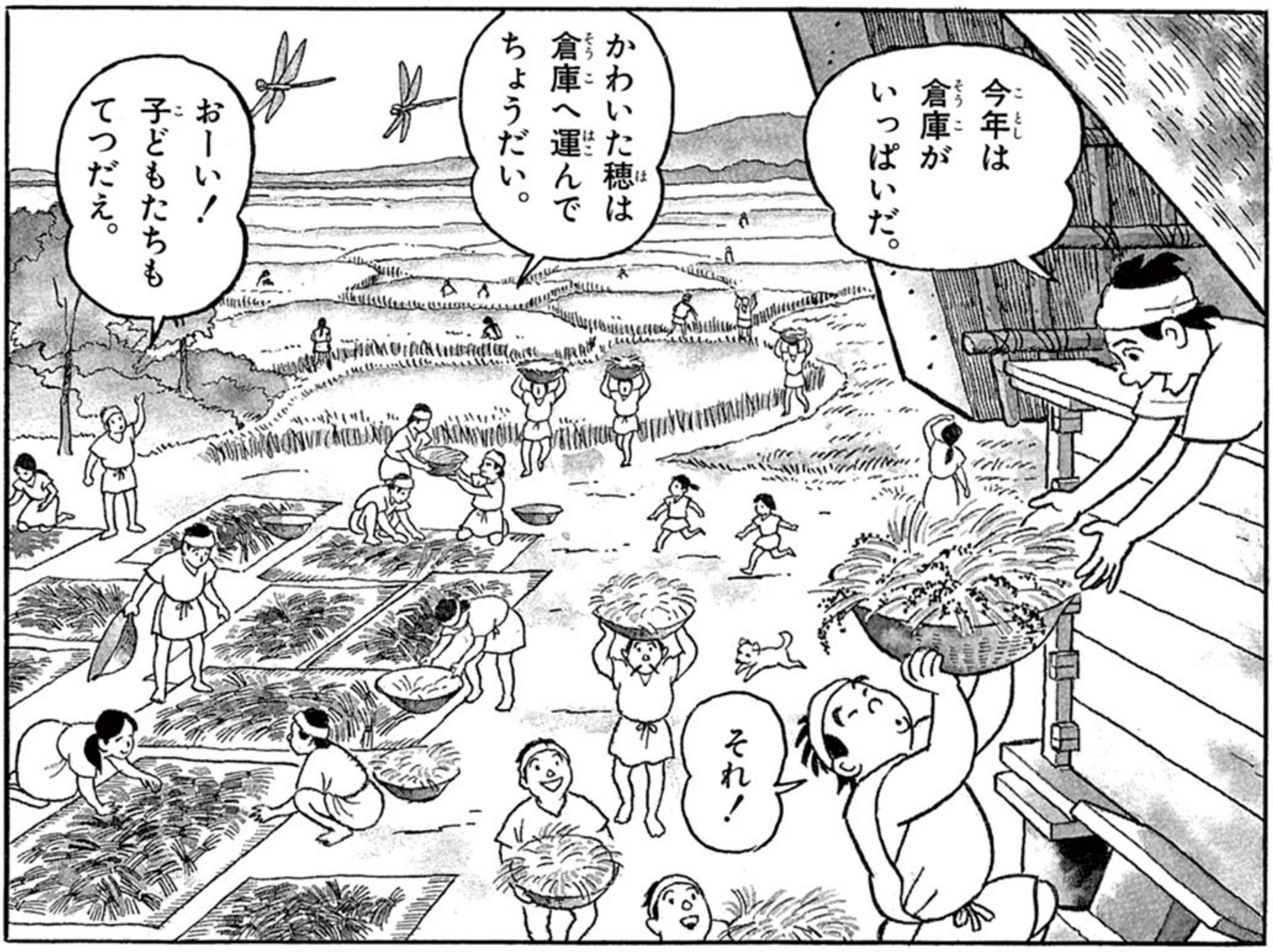
チュン

チュン

おう、今年は豊作だ。

＊輿は想像で描きました。

*石包丁…稲の穂などを摘みとる石器。



*今の稲とはちがい、みのりの時期が違っていたので、黄色い熟した穂だけをつみとり、ひとつの田を何週間もかけて収穫しました。

やがて、豊作を祝う秋祭りが行なわれました。

食え！

さあ、今宵は大いに飲め！

踊れ！

歌え！

そうれ、そうれ。

ハハハ

ヤッホー！

キャッ キャッ

ポンポコポンポン

ビンビンビン

＊琴は福岡県辻田遺跡出土のものを参考にしました。

しばらくして——

かあちゃんずいぶん織ったね。

冬にそなえておまえの服も作っておかなくちゃね。

まあ、うれしい！

絹織物の作り方は前に紹介したが、ここではふつうの人たちが着ていた服（貫頭衣）について*一案をお話ししよう。

*カラムシという草の茎を、水につけてやわらかくする。

茎をおって、皮をはぐ。

ポキ

かわかして、せんいをさき、つないで糸をつくる。

*最近では、それぞれの布を肩から互いちがいにかけて、後ろだけをぬい合わせたのではないか、という考えがある。

この糸を織った布は*幅が三十センチメートル以下だったと思われます。

30cm以下

まん中をのこしてぬいあわせる。

穴に頭を通せばこうなります。

ひもでしばれば弥生時代の服のできあがり。

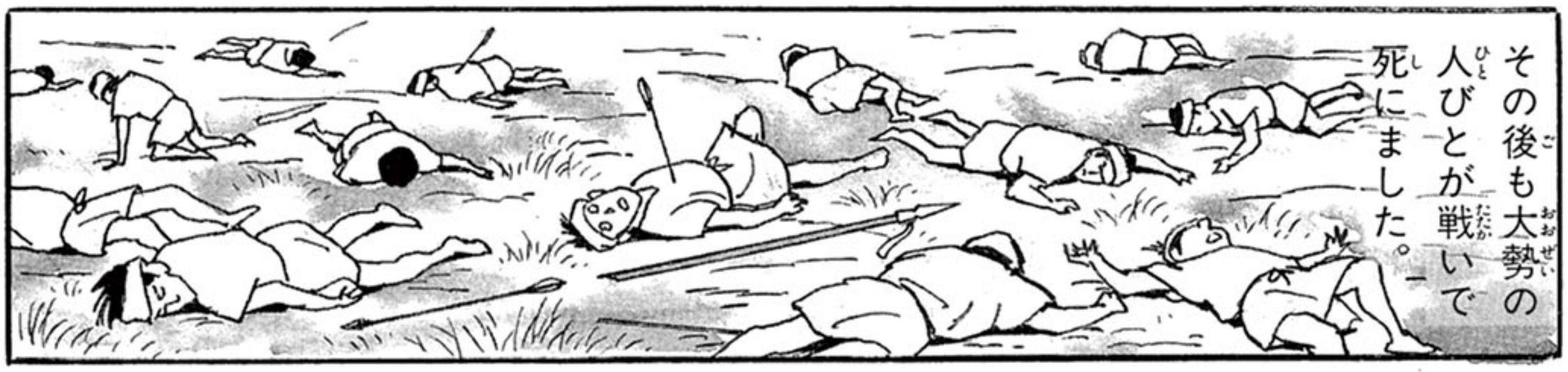
腰巻きは二枚ぬいあわせたものだよ。

*カラムシ…イラクサ科の植物。ほかにクワ科のアサのせんいも使った可能性がある。

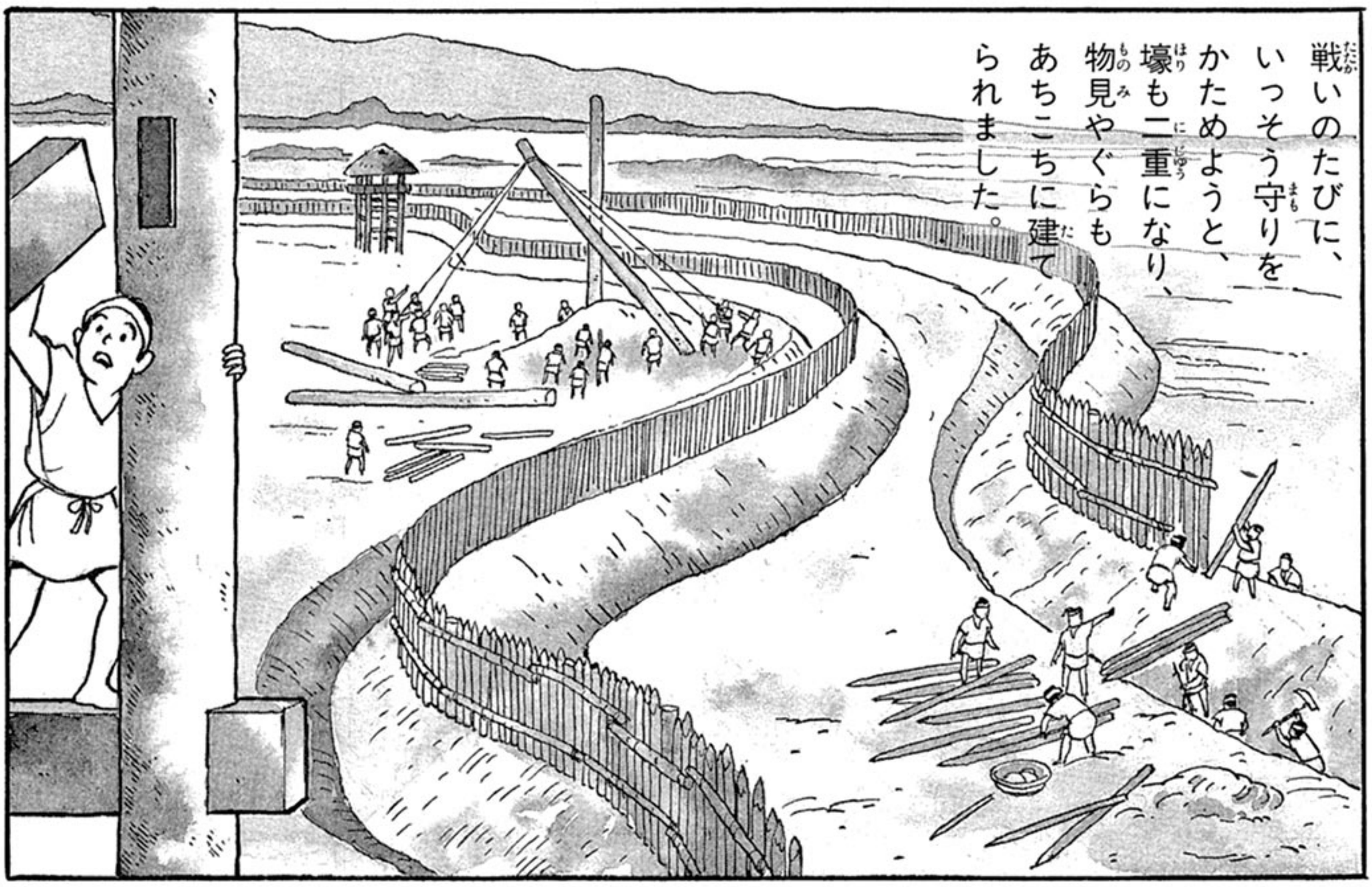
しかし、隣国ではひそかに戦争の準備が……。

*遺跡から出土するこのころの織機から、布の幅は30センチメートル以下と考えられています。

オナメたちの平和への願いもむなしく、戦乱は続きました。そのたびごとに壕は深く広くなり、紀元一、二世紀には戦いはもっと激しくなりました。



その後も大勢の人びとが戦いで死にました。



戦いのたびに、いっそう守りをかためようと、壕も二重になり、物見やぐらもあちこちに建てられました。

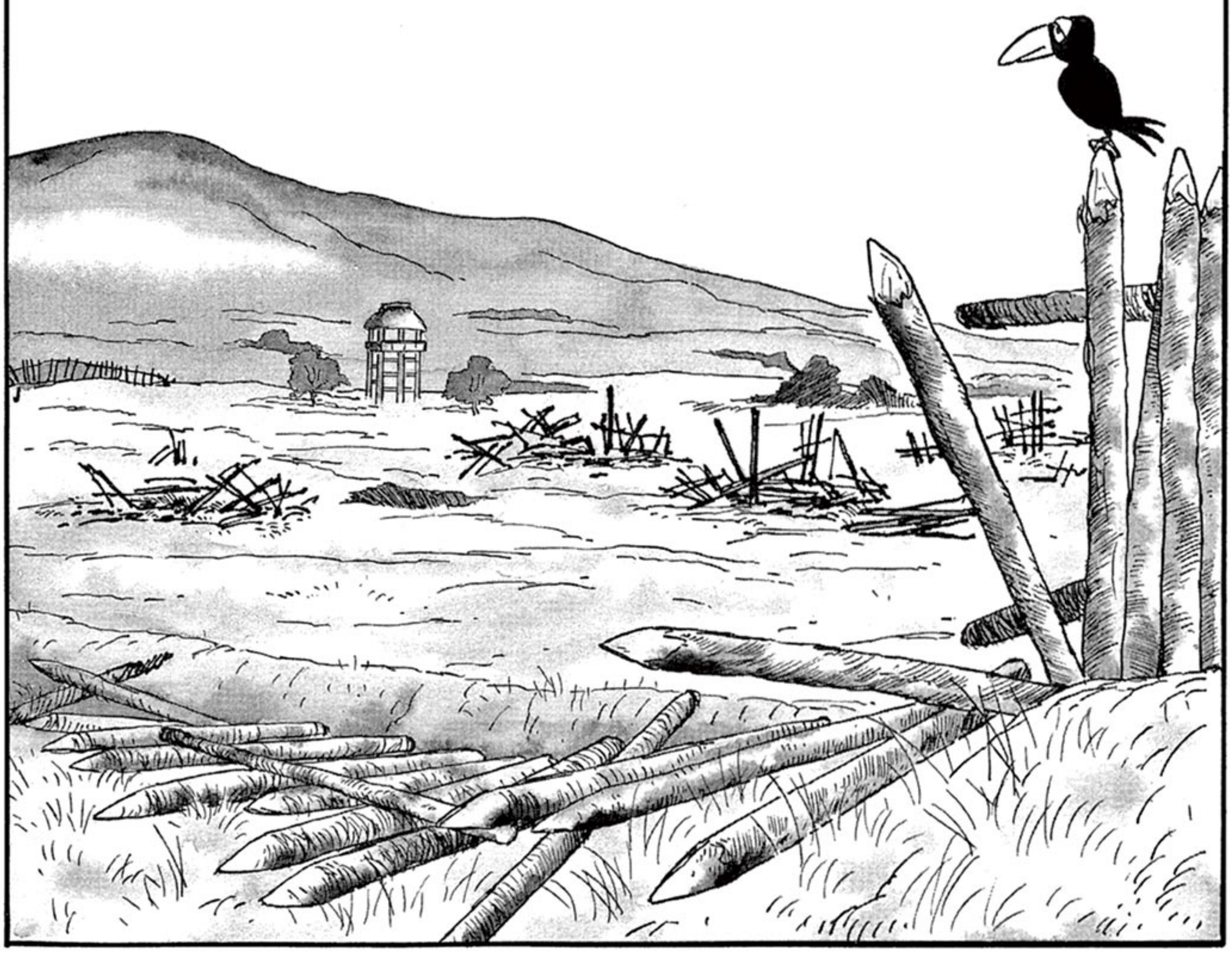
戦いにあけくれた吉野ケ里の国。ようやく平和がおとずれても、また新しい敵がこの国を襲いました。

紀元二世紀の終わりごろになると、倭の国ぐにはたがいに争いあい、長い間戦乱が続きました。

吉野ケ里の国もその戦乱に巻きこまれ、深い壕をめぐらした堅固なとりでも、強力な敵の攻撃にあい、建物は焼け落ち、大勢の人びとが死んだり傷ついたりしました。

しかし、吉野ケ里は完全に消滅したわけではありません。焼けあとの中から、ふたたび人びとの生活が始まりました。

紀元三世紀ごろの吉野ケ里の人びとの暮らしのあとも、その後の遺跡も、考古学者の発掘によって明らかになっているのですから……。



小学館 eBooks

第四章

女王ヒミコ

――弥生時代後期――

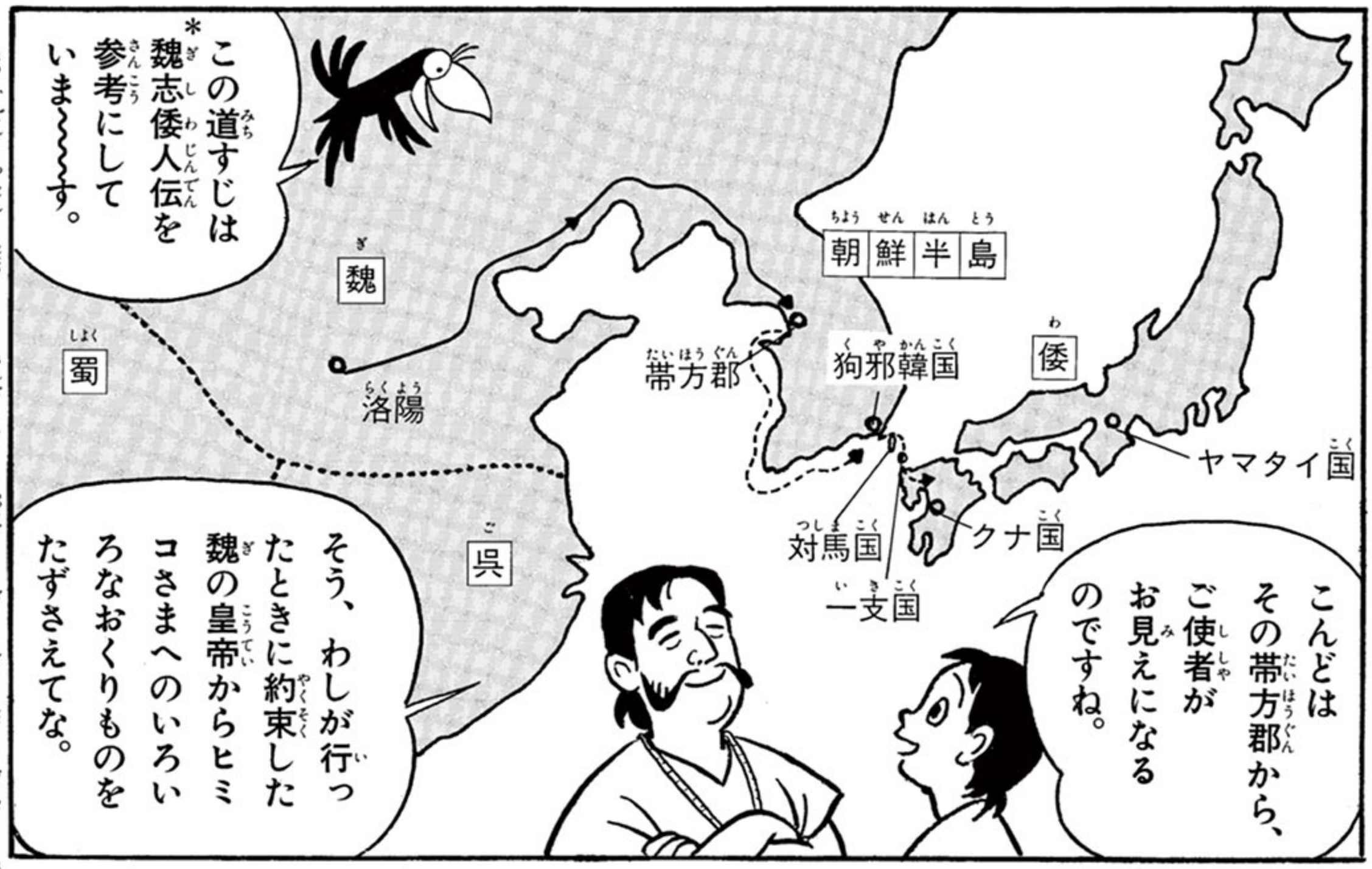
*ブタ…各地の弥生遺跡からブタの骨がみつかっている。*魏…中国の王朝のひとつ（二二〇年～二六五年）。

*倭…古代の中国では日本を倭とよんだ。*市…物の売り買いをする場所。

そういえば、そろそろ*帯方郡からのご使者が港へ着いてもよいころ…。

帯方郡は父上も行かれたんでしょう。どんなところですか。

帯方郡は魏の都洛陽へ行く途中にあり、魏の国の役所がある。



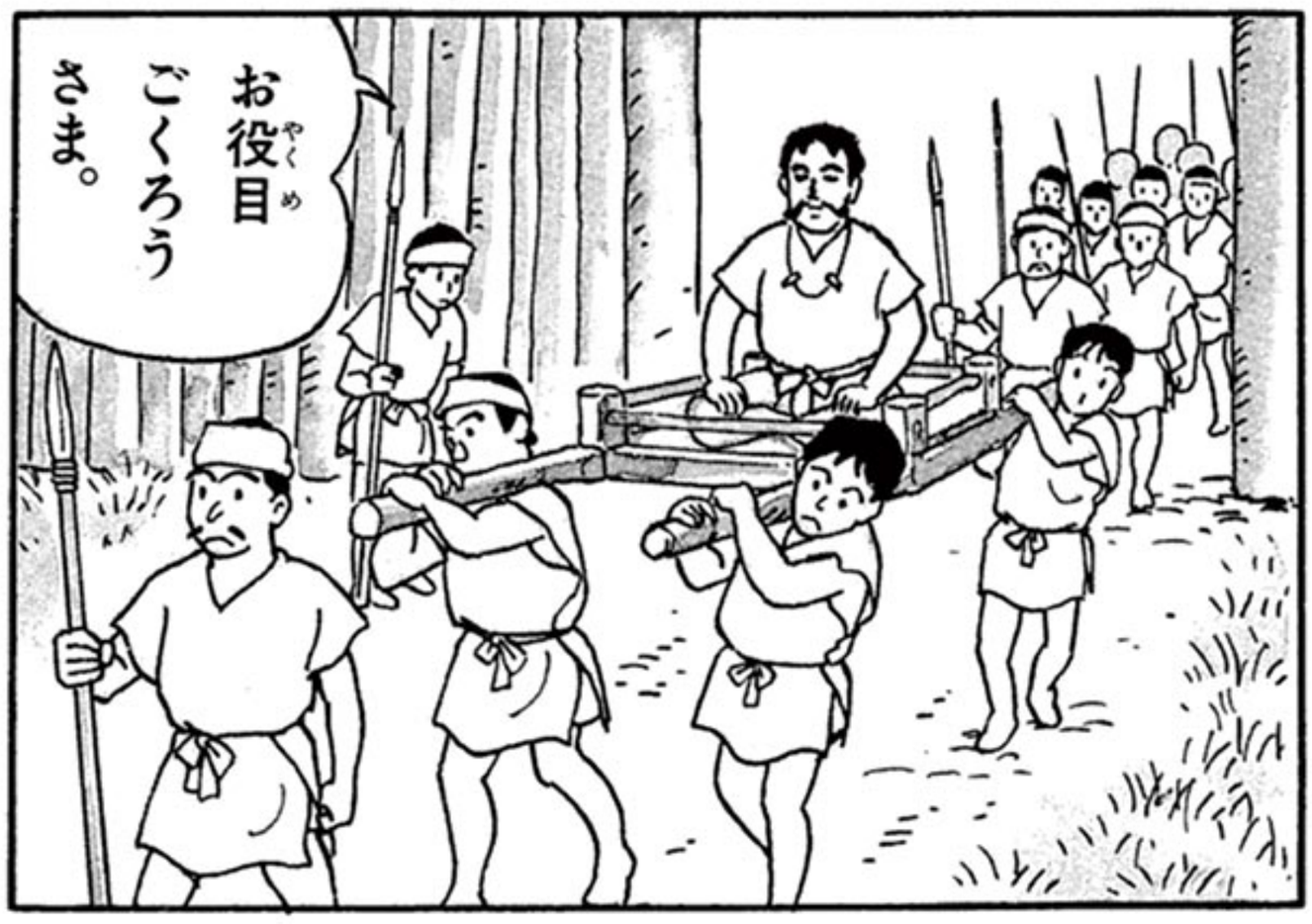
魏志倭人伝とは今から千七百年ほど前にまとめられた中国の歴史書「*三国志」の一部なんじゃ。このうち、魏の国の歴史をまとめた「魏書」には、約千七百五十年前の日本の様子が書かれておる。

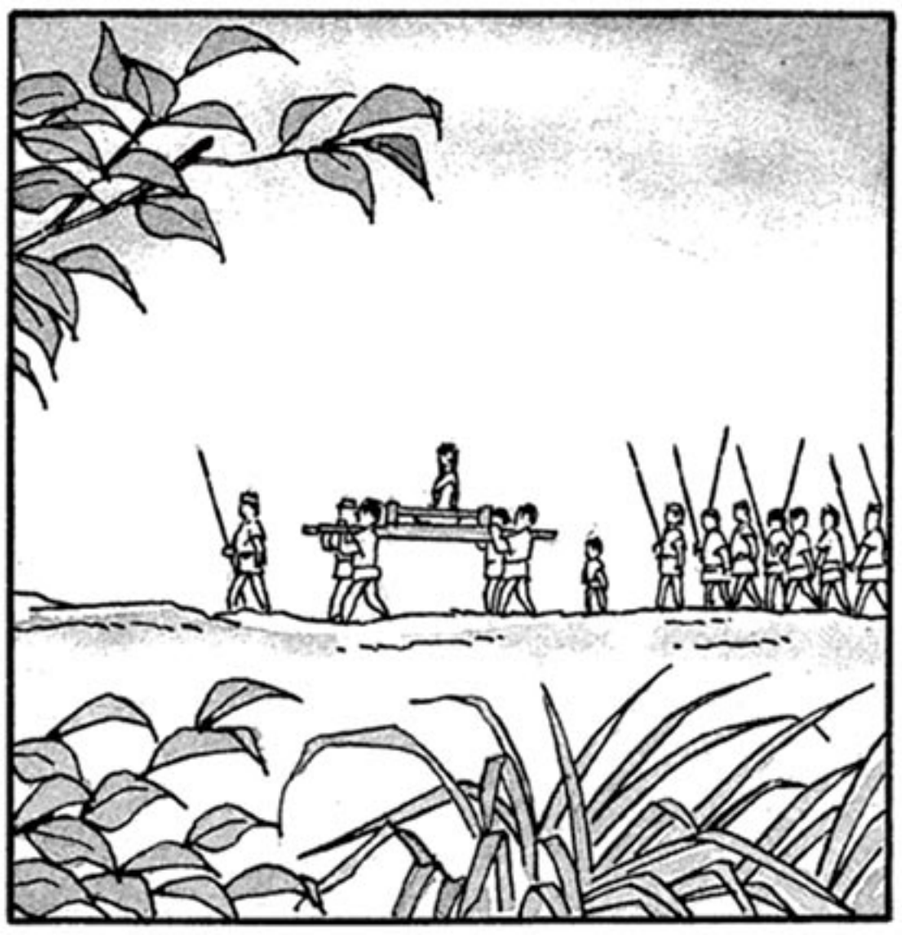
*帯方郡…三世紀はじめごろ、中国が朝鮮半島の今のソウル付近においた郡。

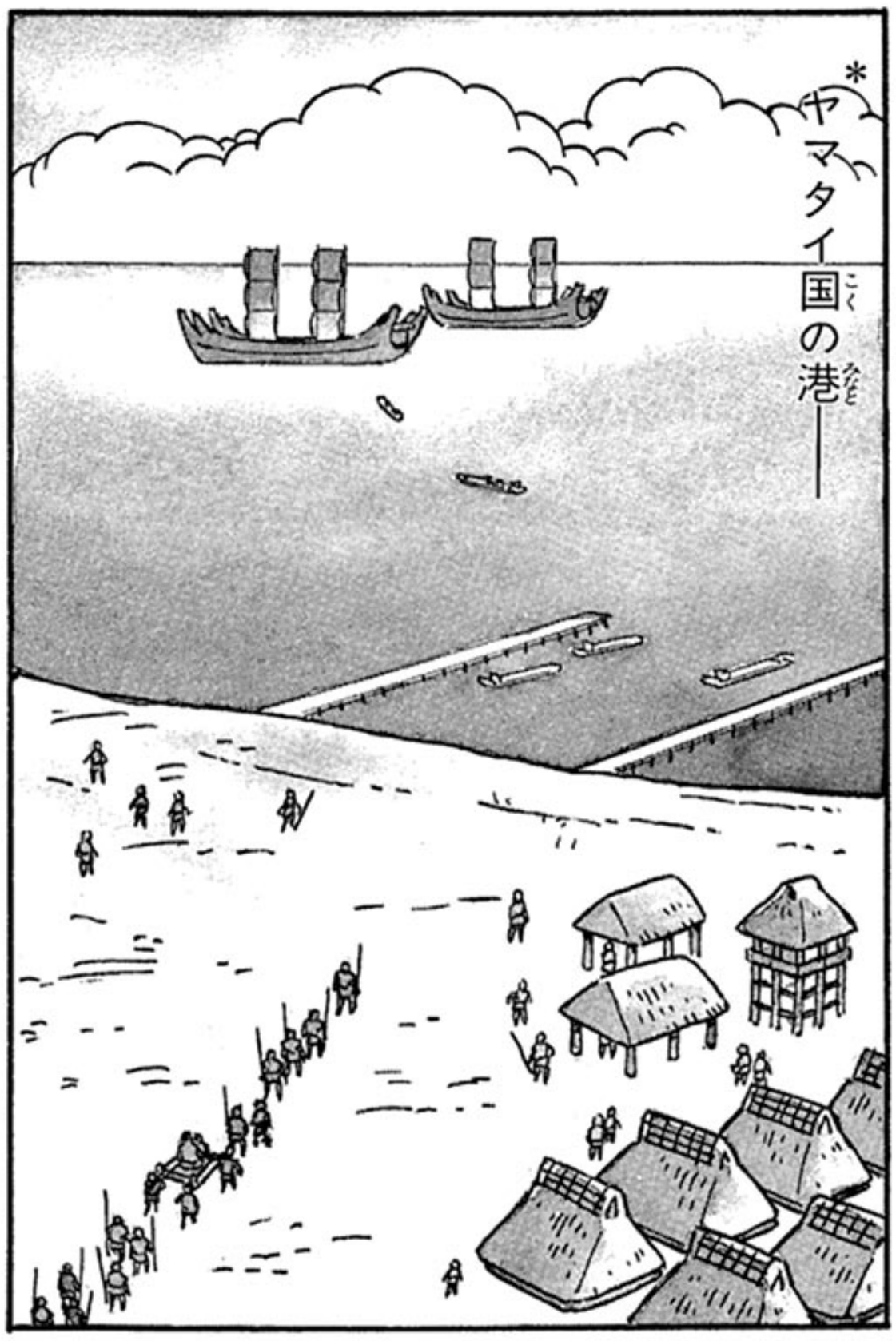
*魏志倭人伝…「三国志」のうち「魏書」の「東夷伝」倭人の条。

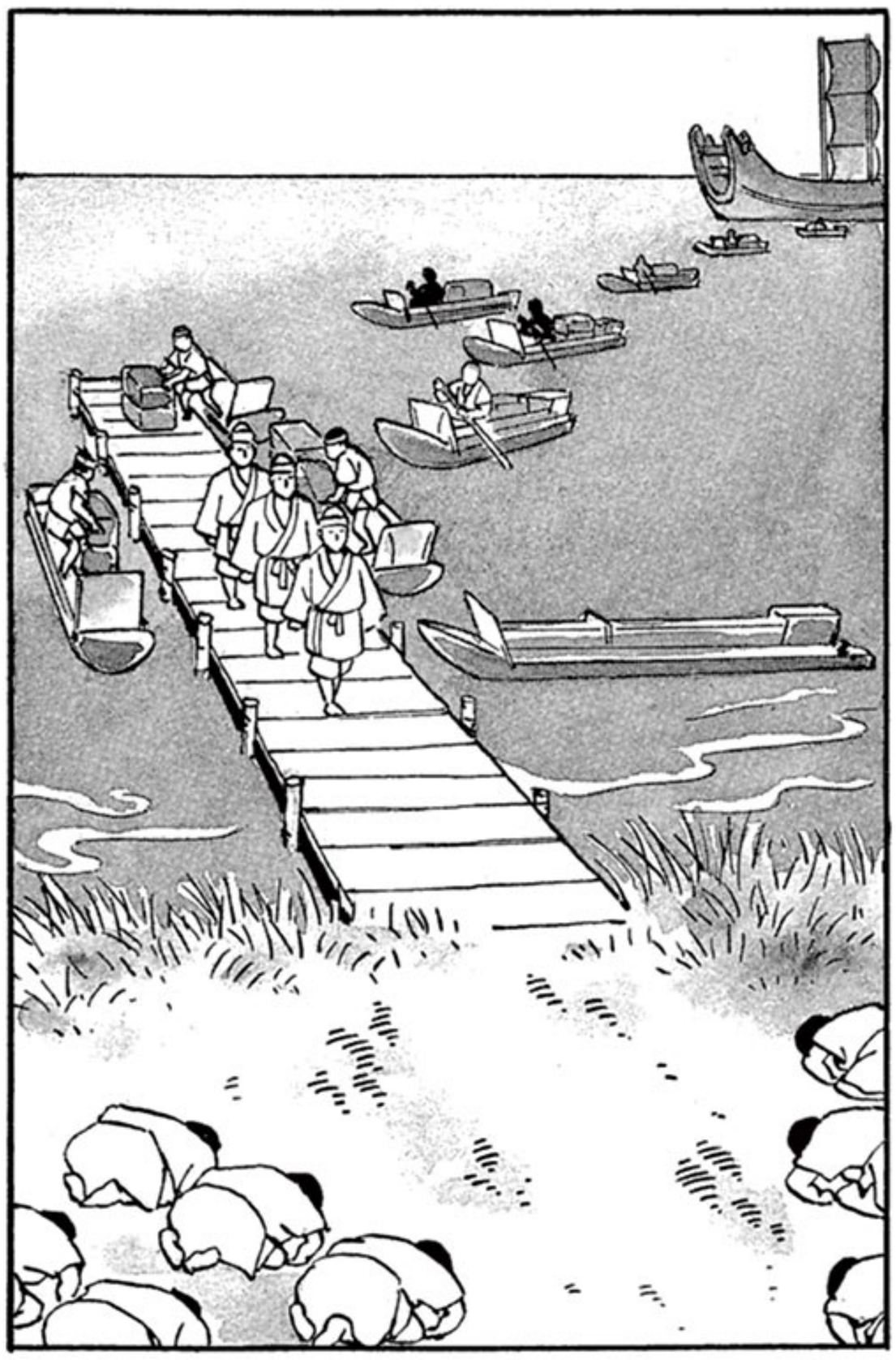
*「三国志」…中国の魏、呉、蜀三王朝の歴史をまとめた書。

*この章では、仮に邪馬台国を奈良県、狗奴国を熊本県にあったものとして、それぞれの考古資料を使い作画しました。









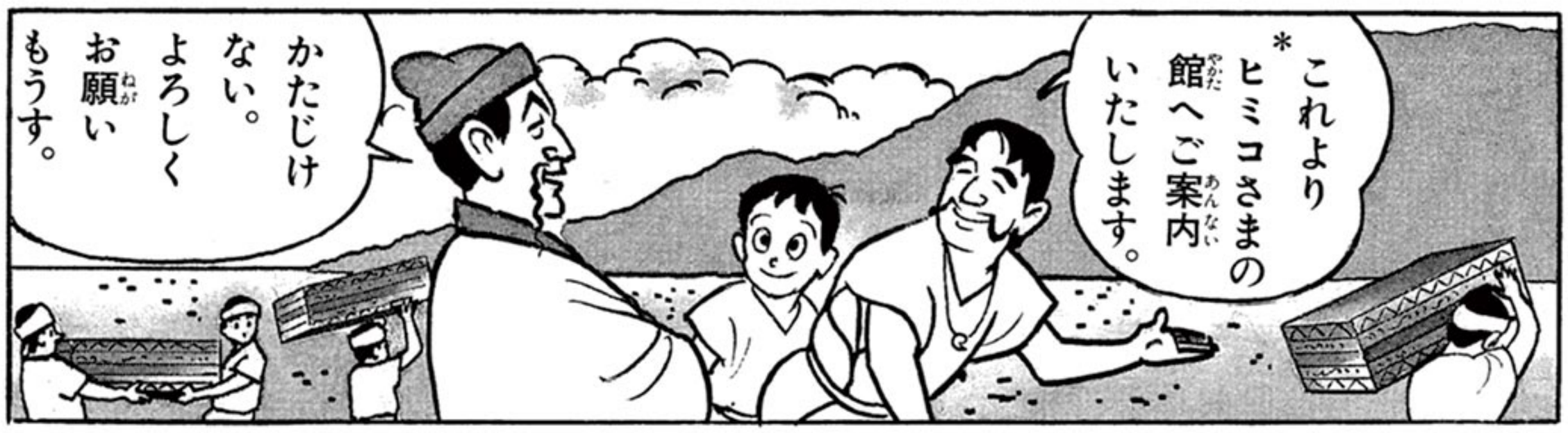
*ヤマタイ国…邪馬台国。所在地については、九州説、畿内説などたくさんの説がある。

はるばるようこそ。おつかれでございましょう。
魏の使者
これはこれはナシメどの。わざわざお迎えとは、おそれいる。

ここにおりますのはわたしの息子サチヒコにございます。
父がおせわになりました。

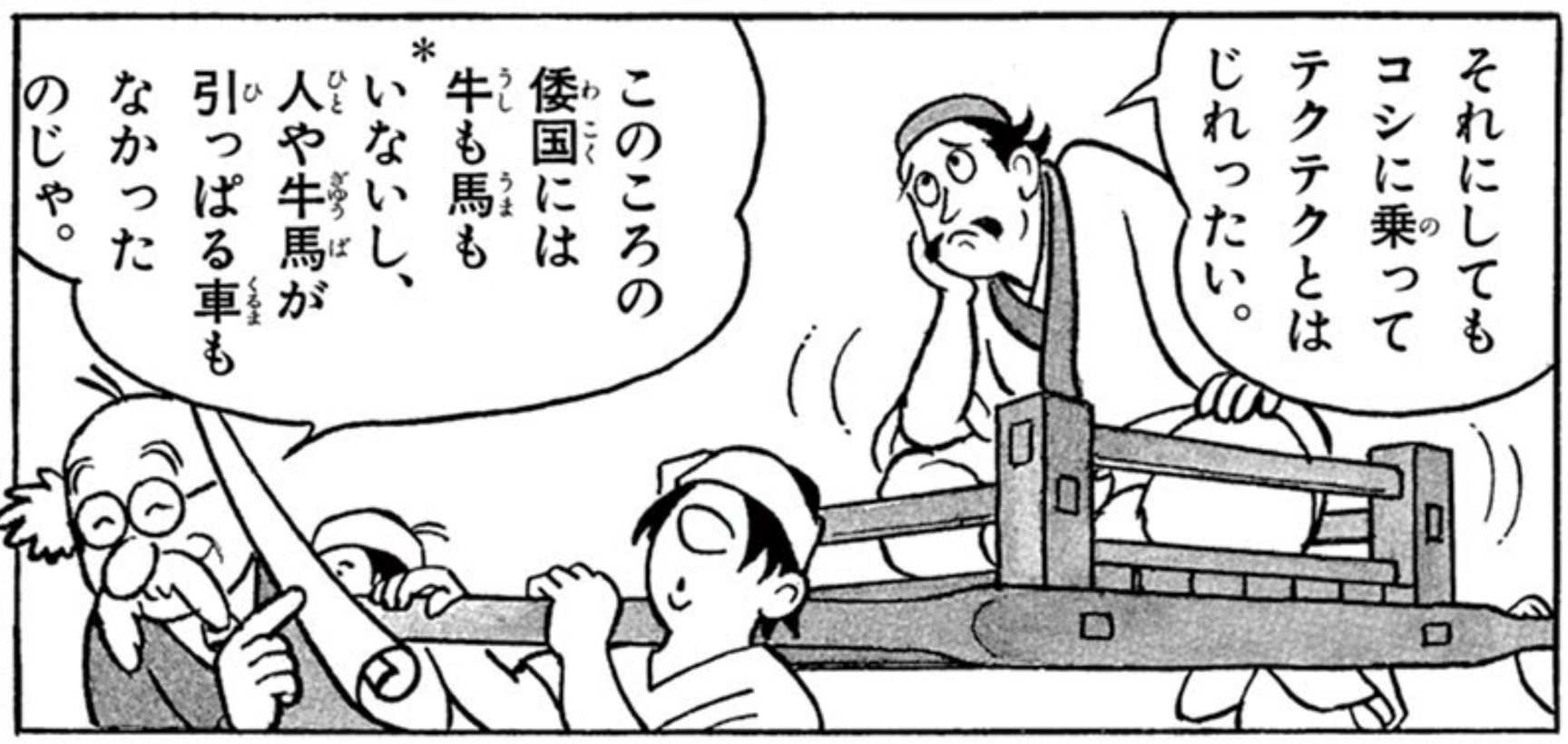
ほう、かしこそうなお子じゃな。
将来は帯方郡や洛陽へも行きたいとおりますが。

それはたいしたお志だ。ぜひお出かけなさるとよい。

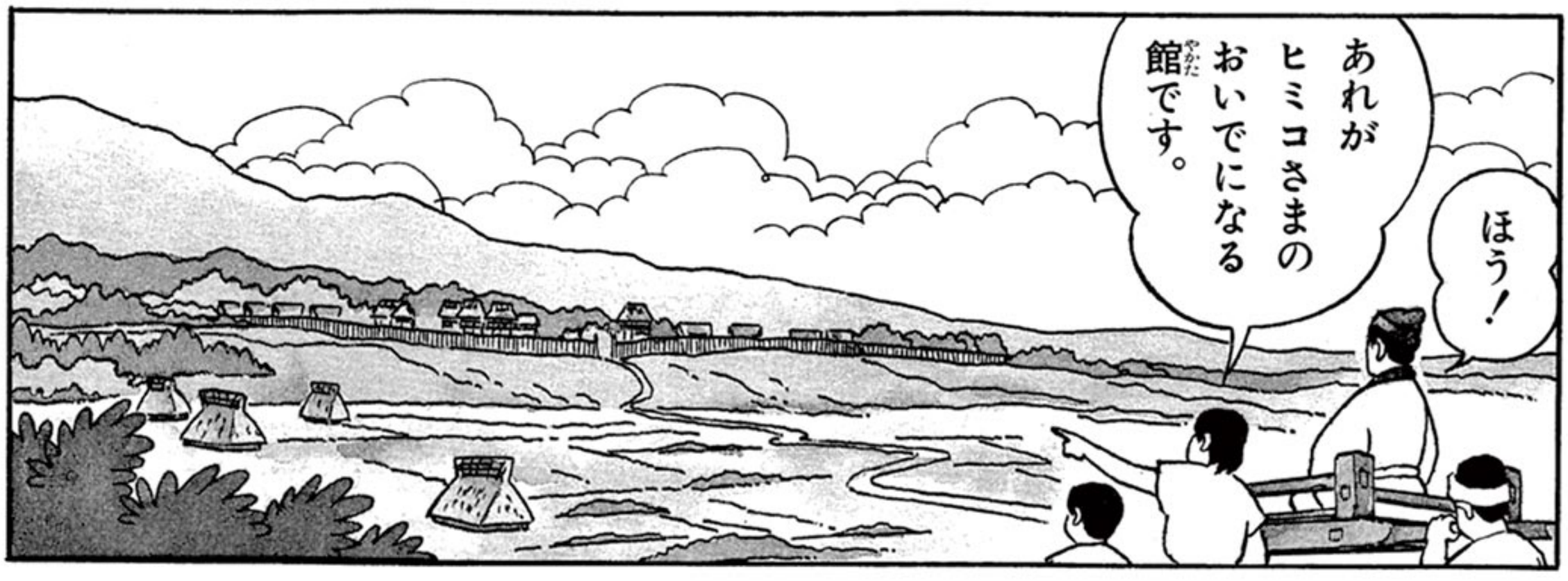

これより*ヒミコさまの館へご案内いたします。
かたじけない。よろしくお願いもうす。

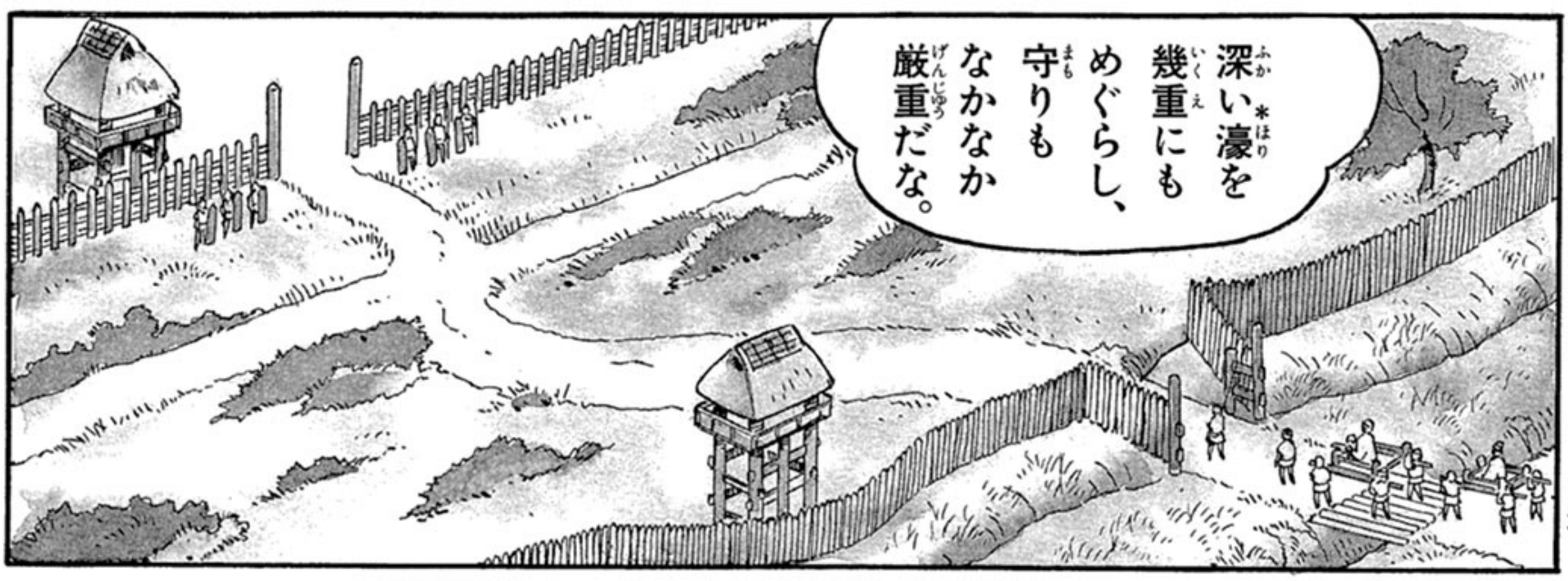
*ヒミコ…卑弥呼。

*「道ばた」「冬も夏も」など、魏志倭人伝の中に、倭人の特ちょうとして書いてある。



*「倭国には牛も馬もいない」と魏志倭人伝に書いてあります。縄文、弥生遺跡でみつかった牛馬の骨は、最近の研究ではずっと新しい時代のものという。





＊濠…ムラの周囲にめぐらした堀。

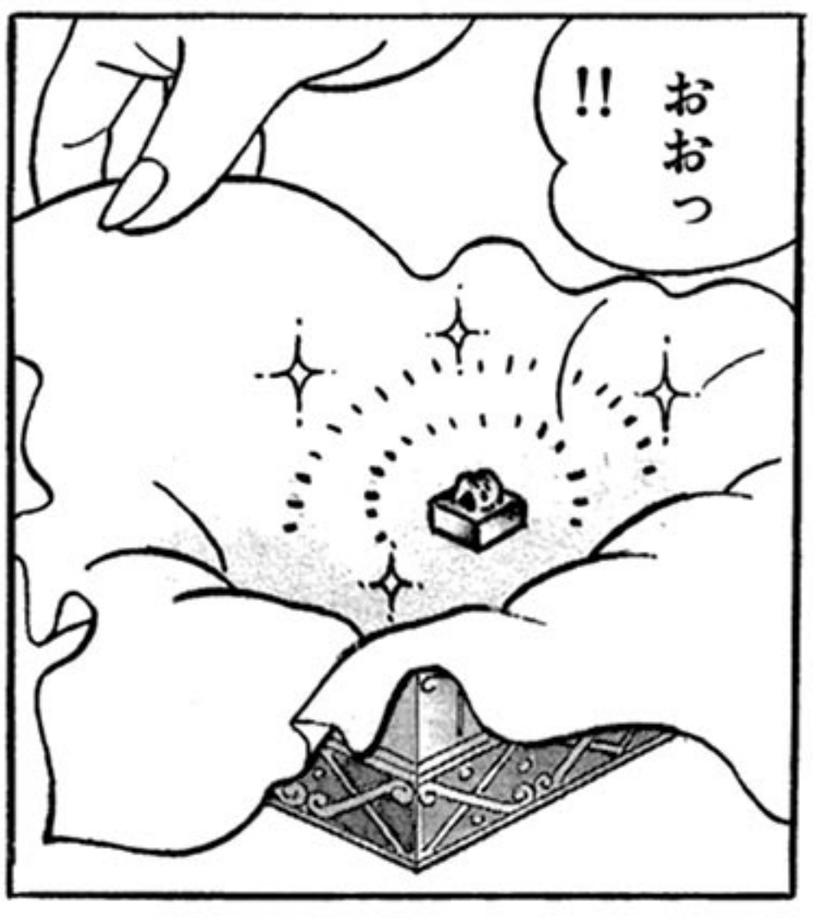
しばらく休けいした使者たちは、正装してヒミコの宮殿へむかいました。

＊高殿…高床の建物。この場合ヒミコが日常、政治を行ったところ。

魏志倭人伝にはでてこない。

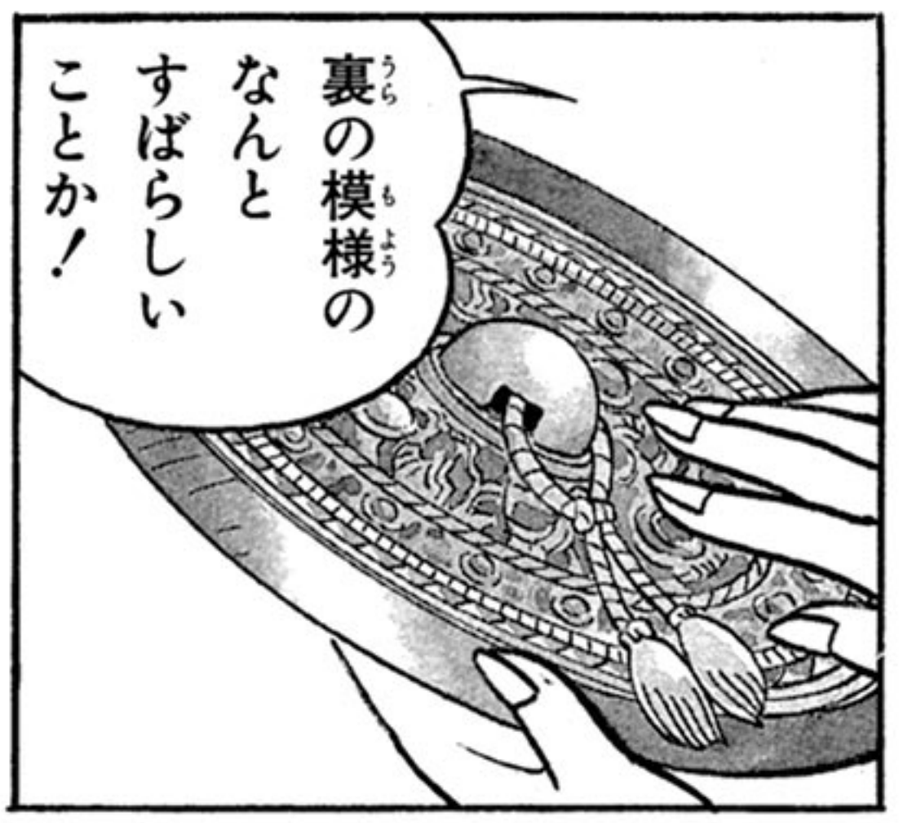
*鏡…青銅製だけれども銅鏡とよぶ。

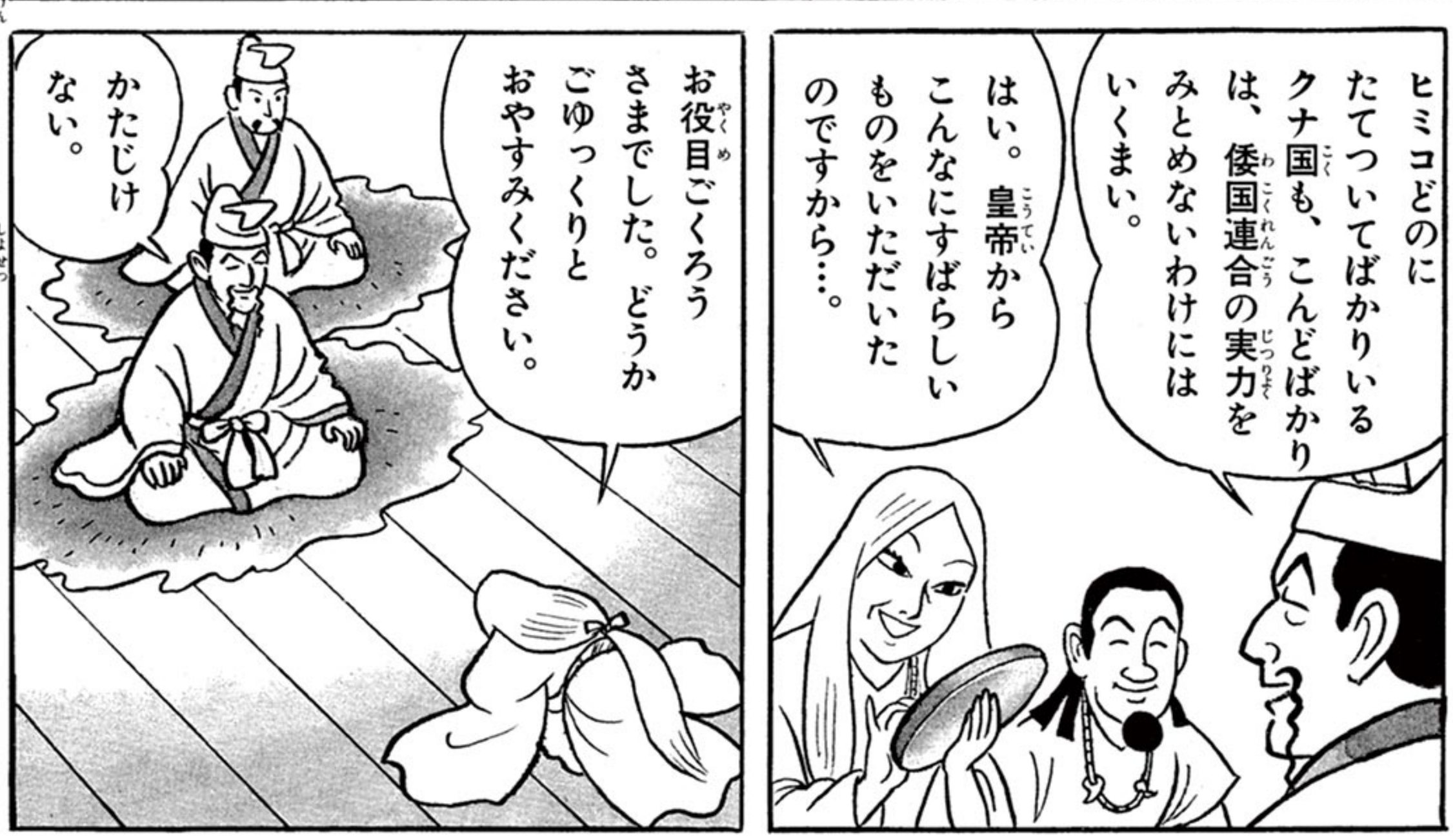
*錦…きれいな模様を織りこんだ高級な絹織物。



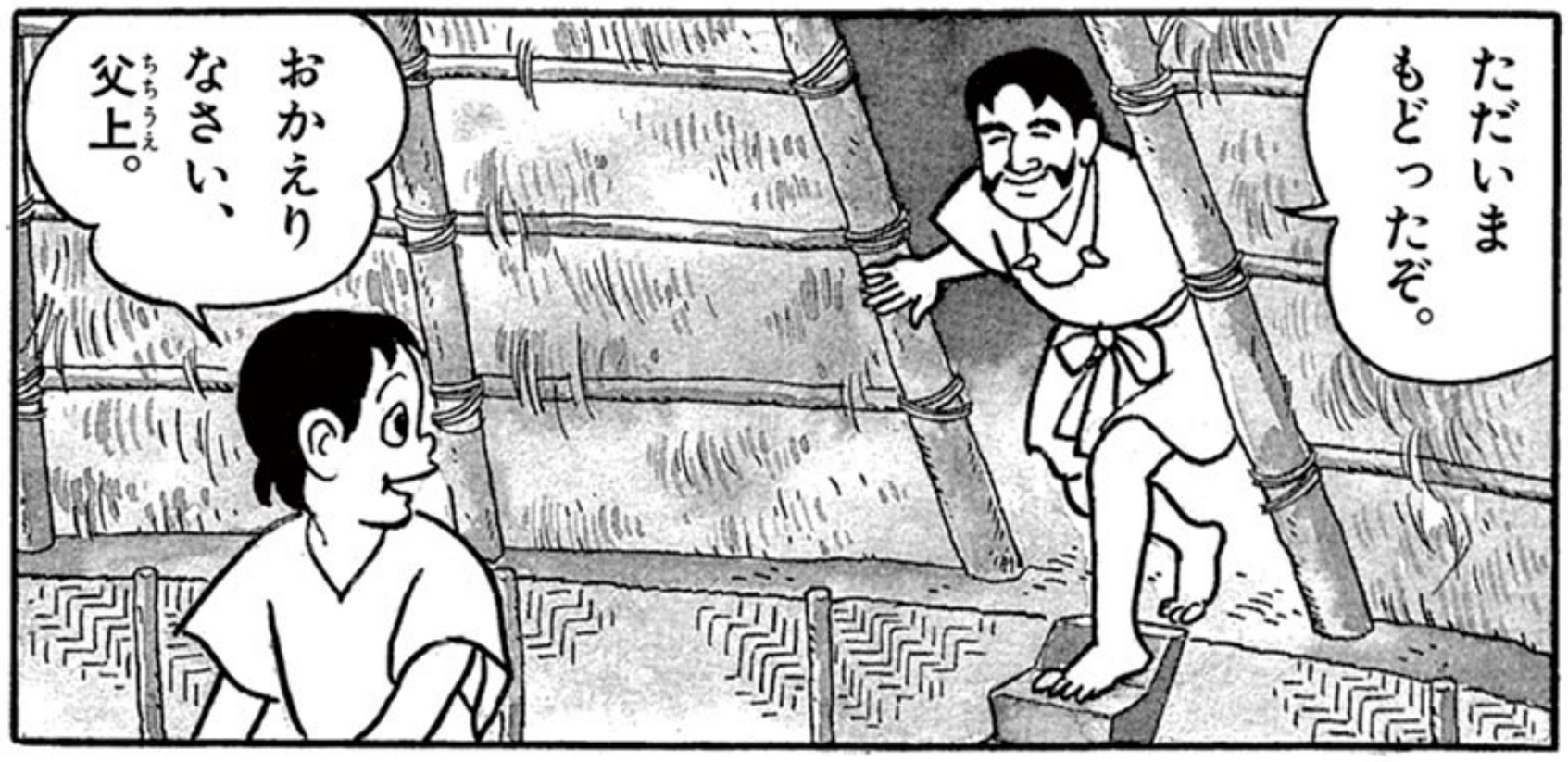
*鏡…全国各地の古墳から発掘されている三角縁神獣鏡が、魏からさずかった鏡ではないかとみられている。しかし反対説もある。

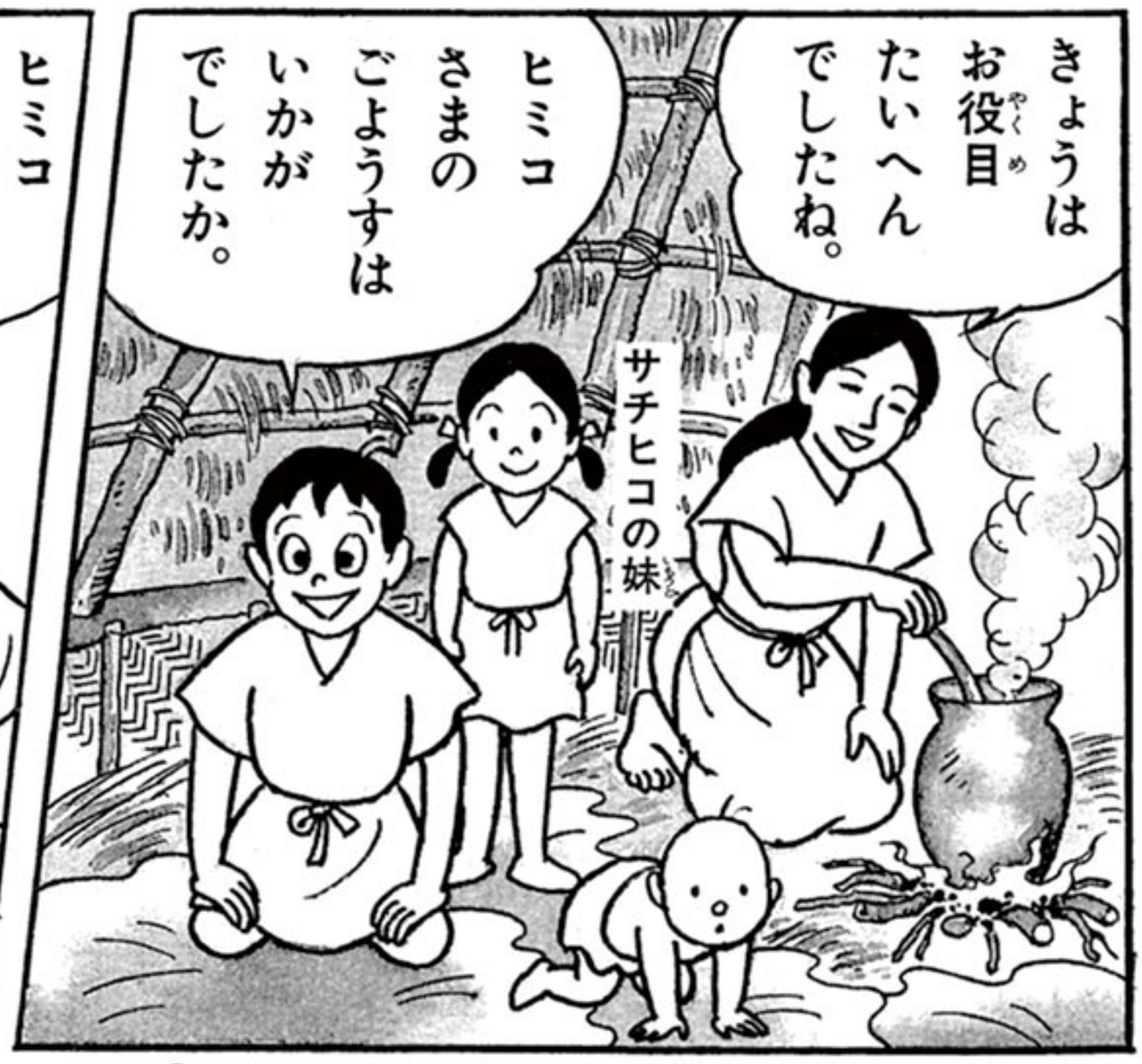
*魏志倭人伝では三十の小さな「国」全体のまとまりも、倭の「国」とよんでいる。倭国連合とよんでもよい。





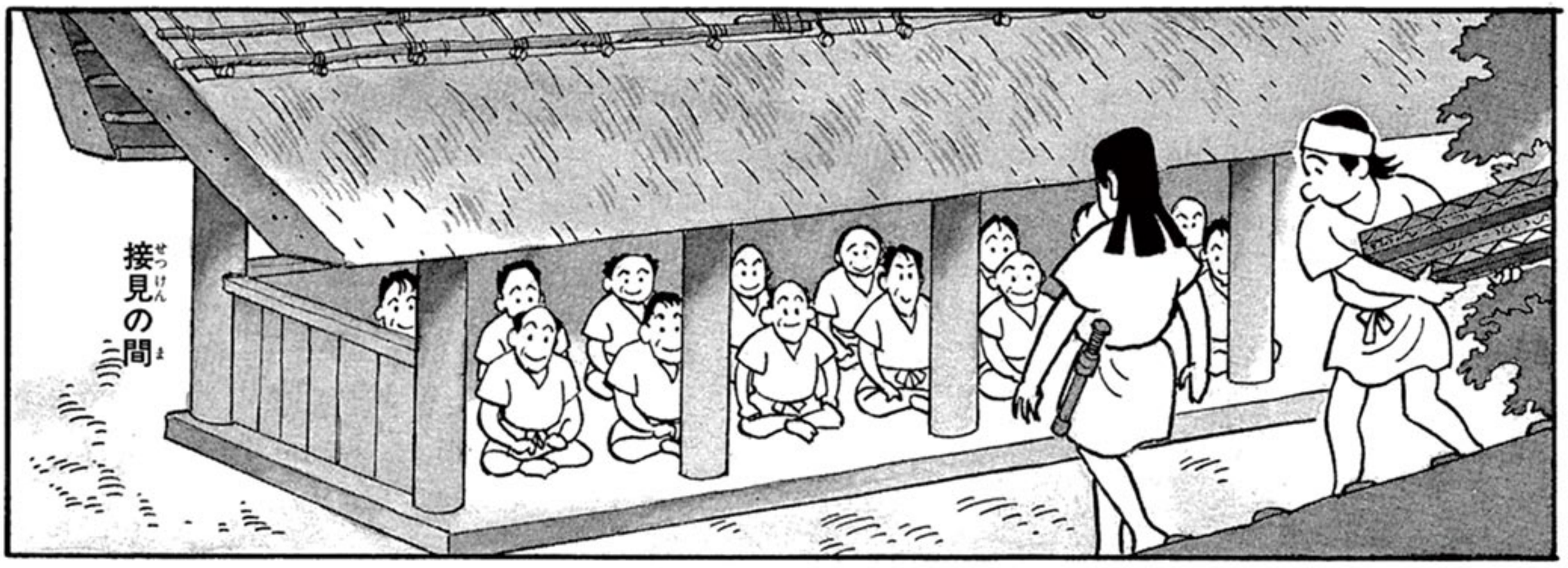
*クナ国…狗奴国。現在の熊本県にあったとか、愛知県にあったとか諸説がある。





*金印…魏王がヒミコにあたえた「親魏倭王」の印。実物はみつかっていない。

その二十日あとに
ヒミコの館には
倭国連合の国ぐにの
王たちが集まって
きました。

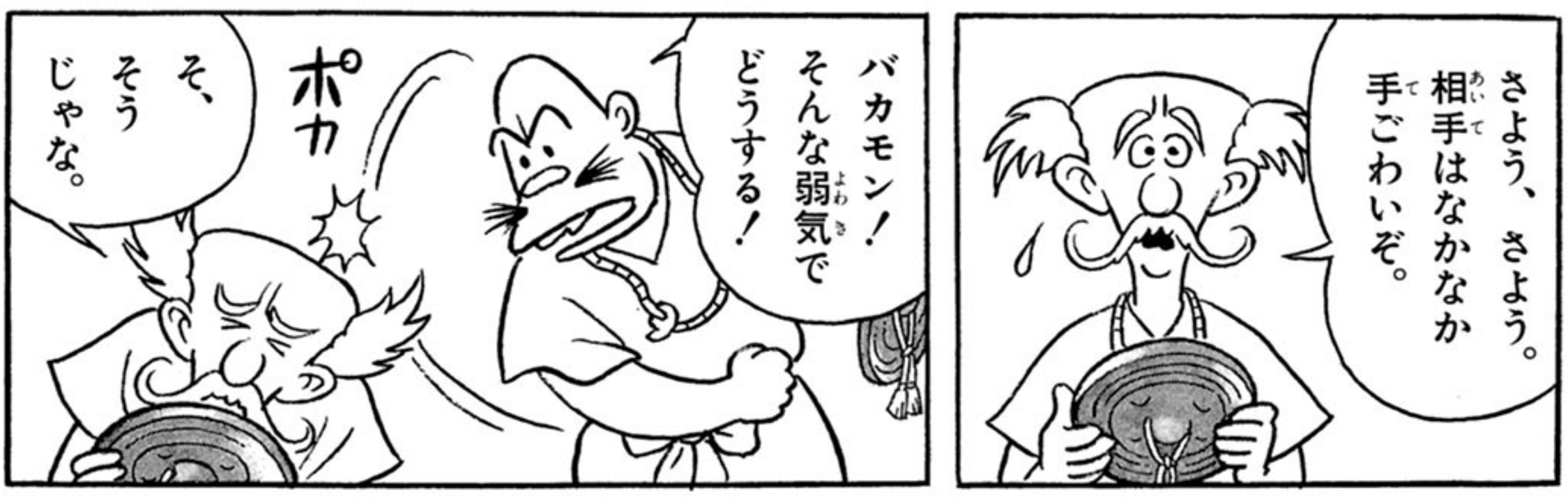


なんと
すばらしい
鏡の
かがやき！

この鏡は
われら
倭国連合の
ちかいの
しるし！

みんなが
力を合わせて
ヒミコさまを
もりたてて
いくのじゃ。
われらが
団結すれば
クナ国ごとき
ものの数では
ない。
倭の中には、
クナ国のように
ヒミコさまに
したがわぬ国も
あるのでな！
アリャ
リャ！
コロ
コロ

だが、
けっして
ゆだんは
できんぞ。
なにしろ
やつらは
奇襲に
たけておる
のでな。


さよう、さよう。
相手はなかなか
手ごわいぞ。
バカモン！
そんな弱気で
どうする！
ポカ
そ、
そう
じゃな。

そのころ
クナ国では――

もうしあげます。
魏の皇帝からの
おくり物を持った
帯方郡の使者が
ヤマタイ国の
港へはいった
ようです。

クコチヒコ

ヒミコめ、
皇帝にちやほやして
ものごいでもした
のであろう。
バカモンが…！

クナ国王
ヒコミコ

しかし、
うまいこと
やりおったな。
うらやましい。

ひとあわ
ふかせて
やります
か！

うーむ！

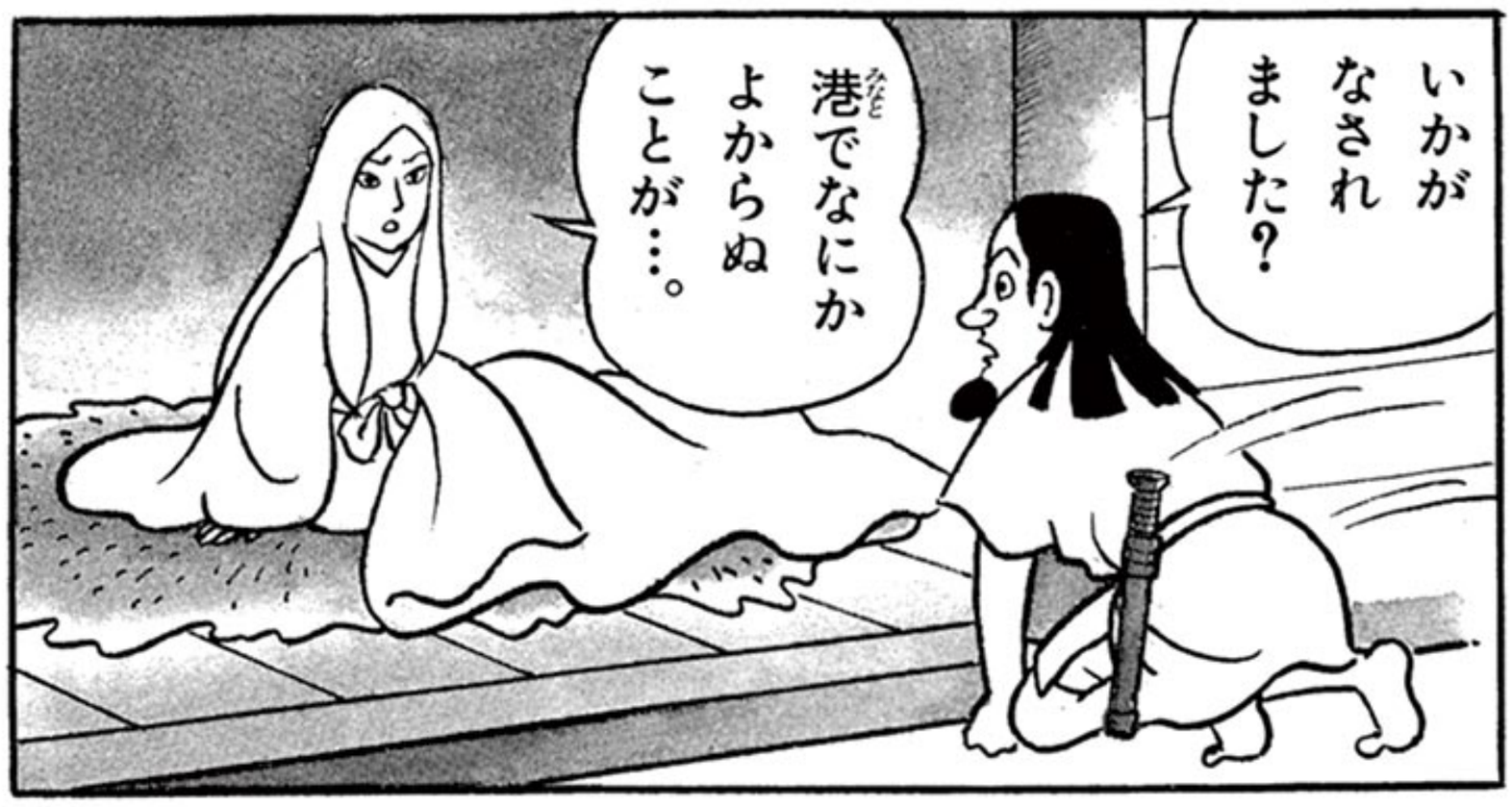
ヒソヒソ

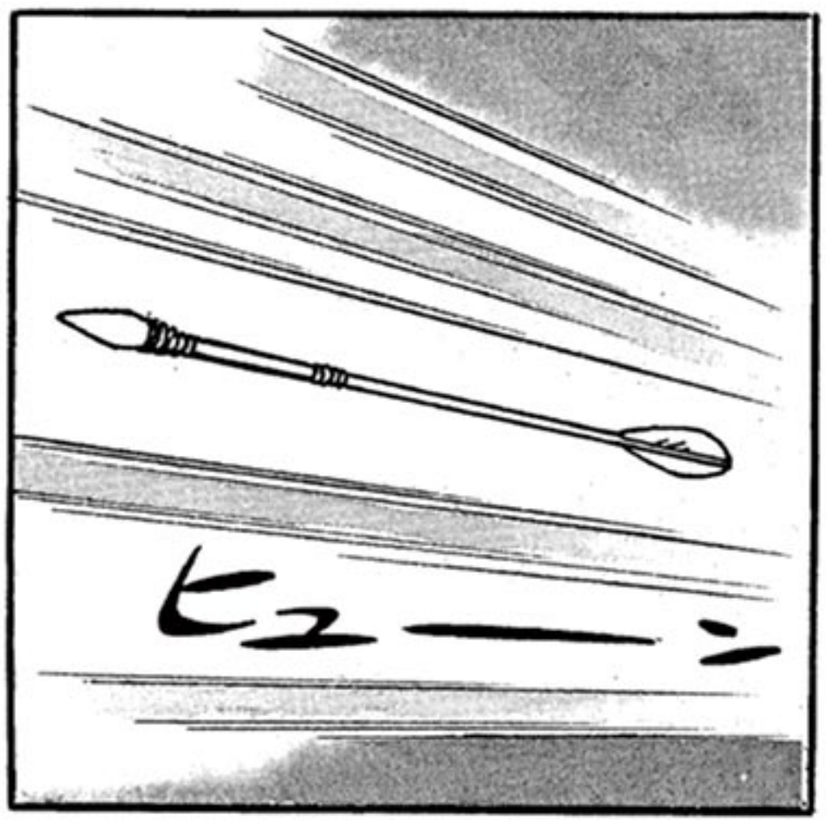
ほほう。
それは
名案じゃ。
さっそく
準備に
かかれ。

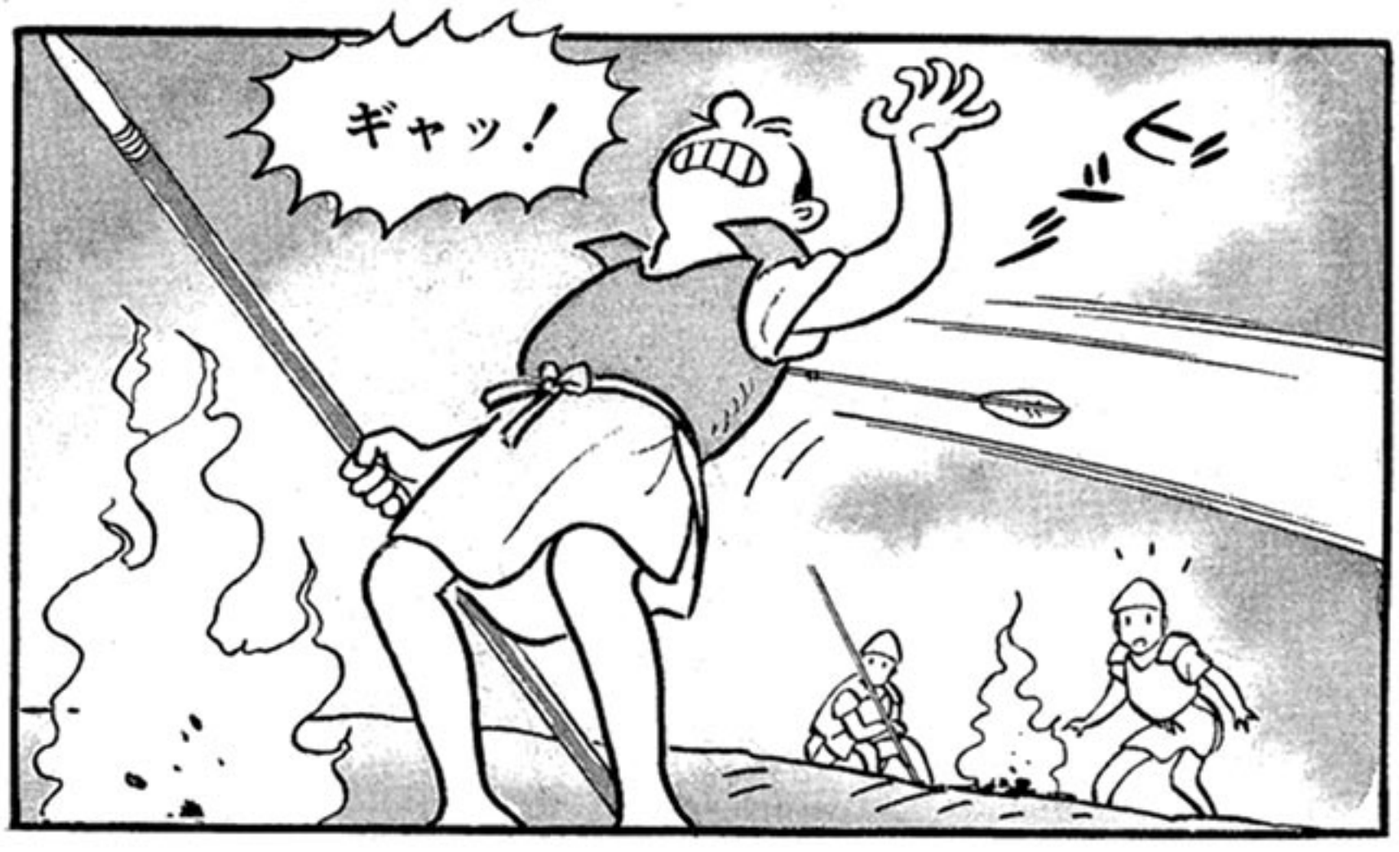
ヒッヒッ

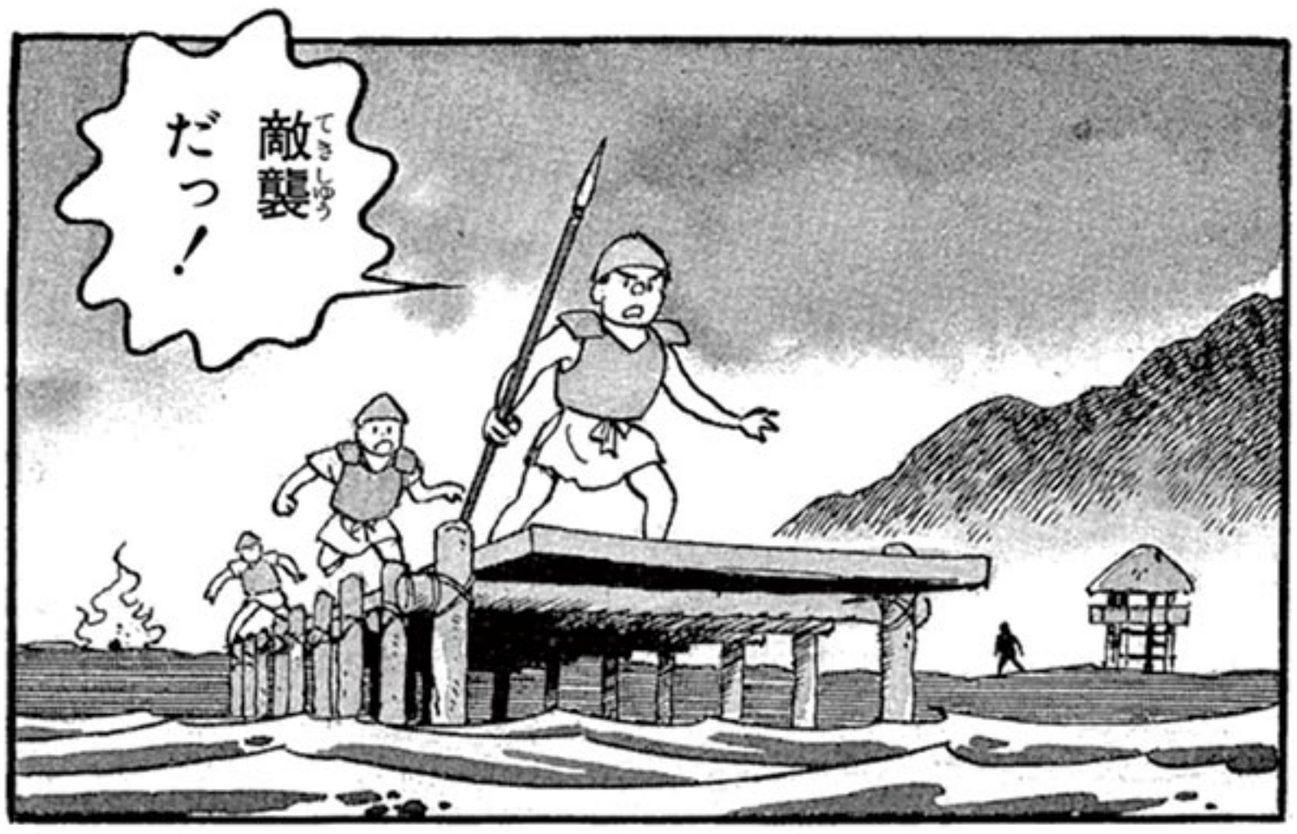
こころえ
ました。

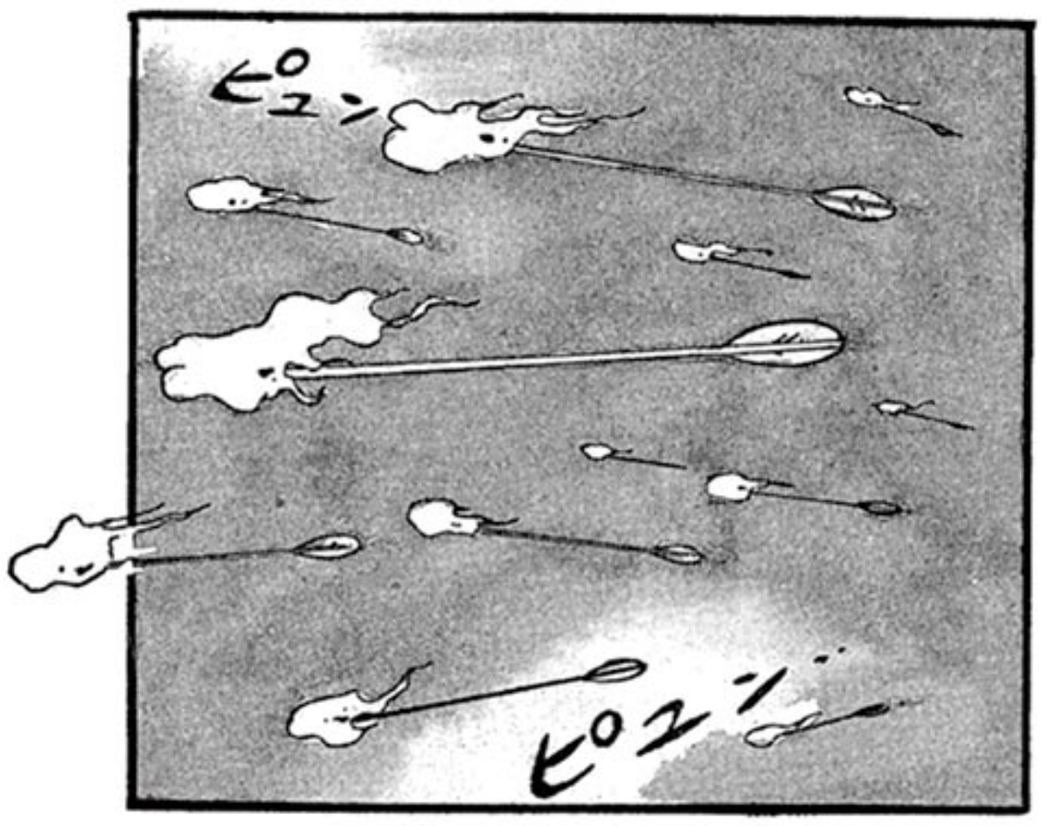
しばらく後、夜のヤマタイ国の港――







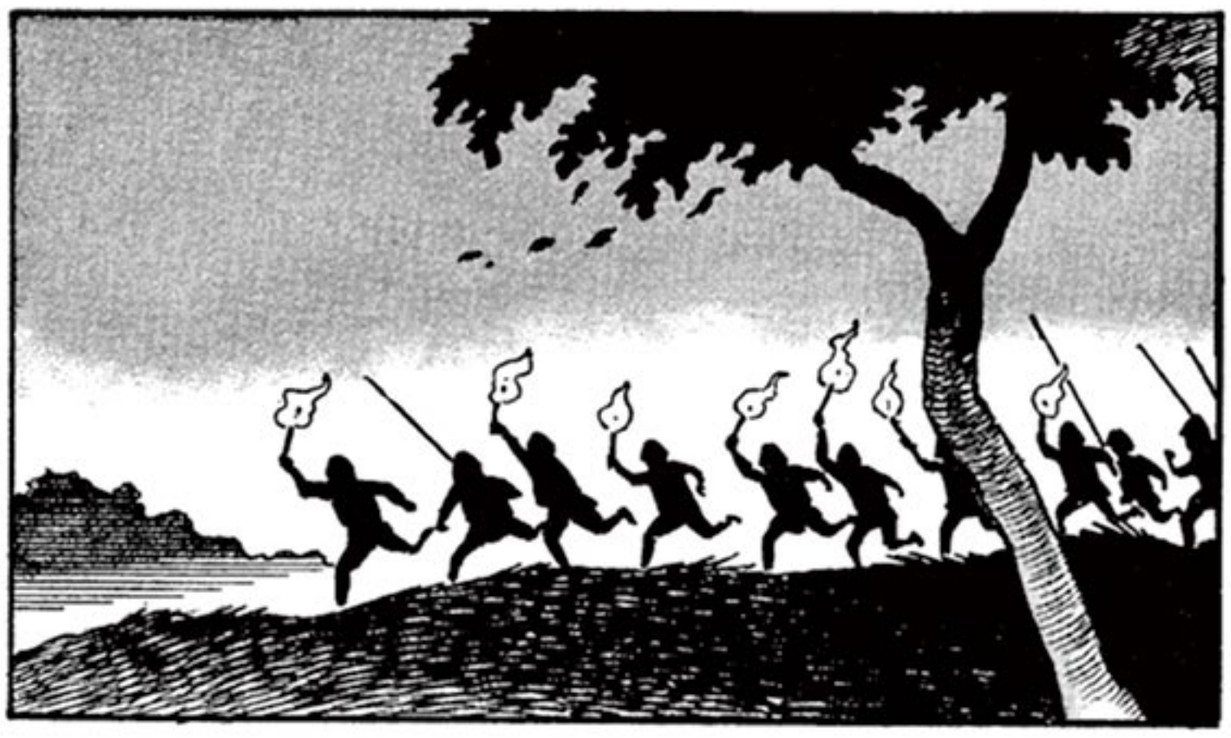


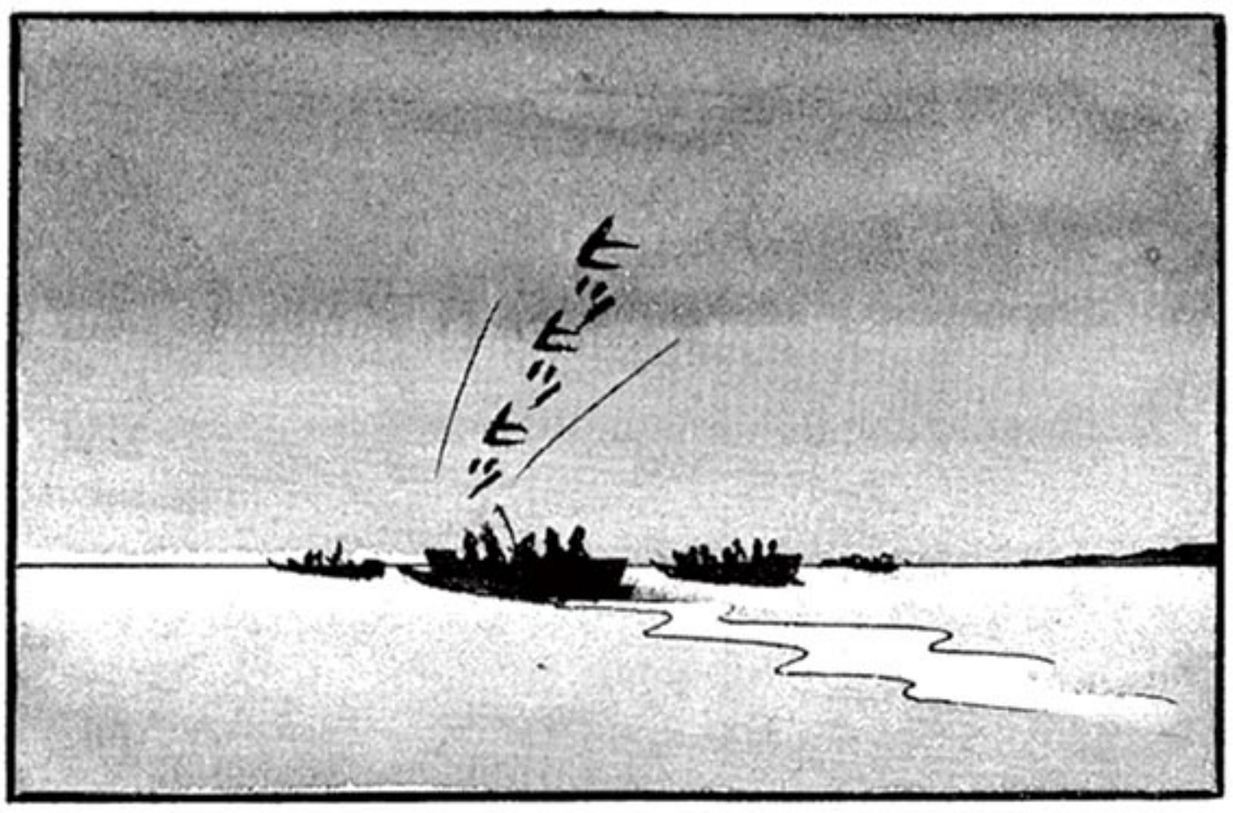


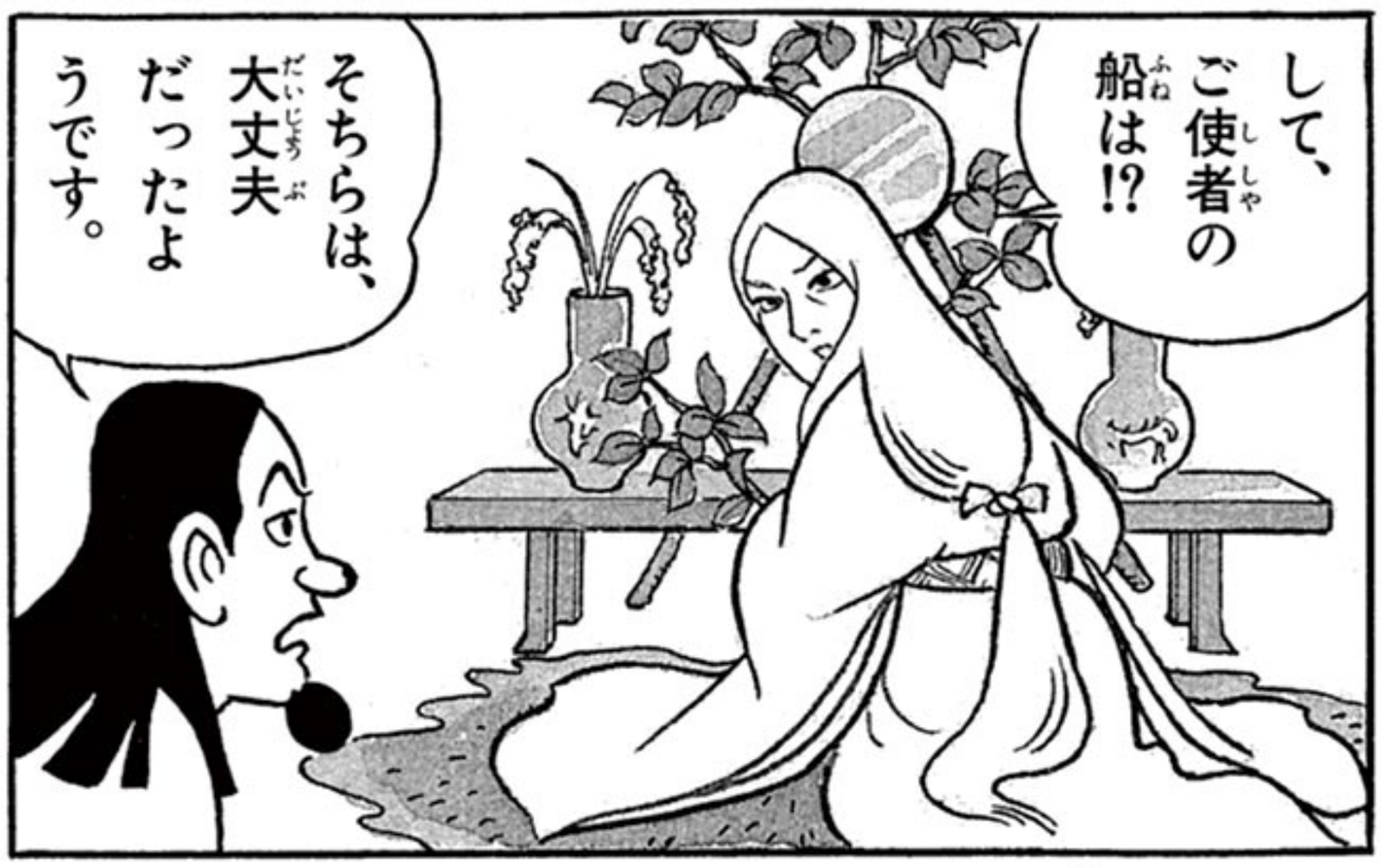
*よろいは静岡県伊場遺跡の木のよろいを使いました。

*弥生・古墳時代の矢の羽根の形は、弥生・古墳時代の絵の形によりました。

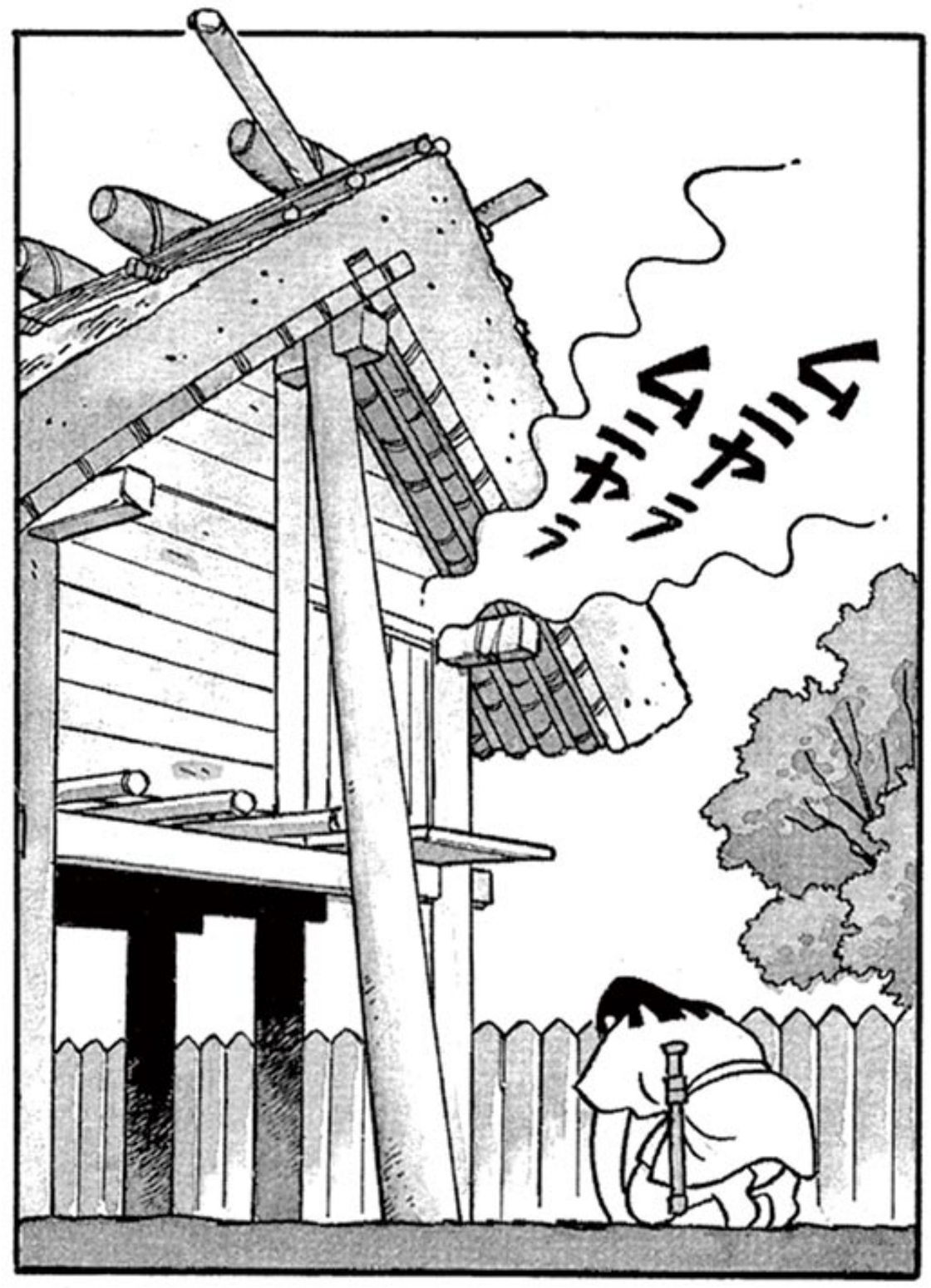
ピュン
ピュン
ピュン
ゴオオ
オ…
パチ
パチ
パチ
クナ国勢だ！ぬかるな!!

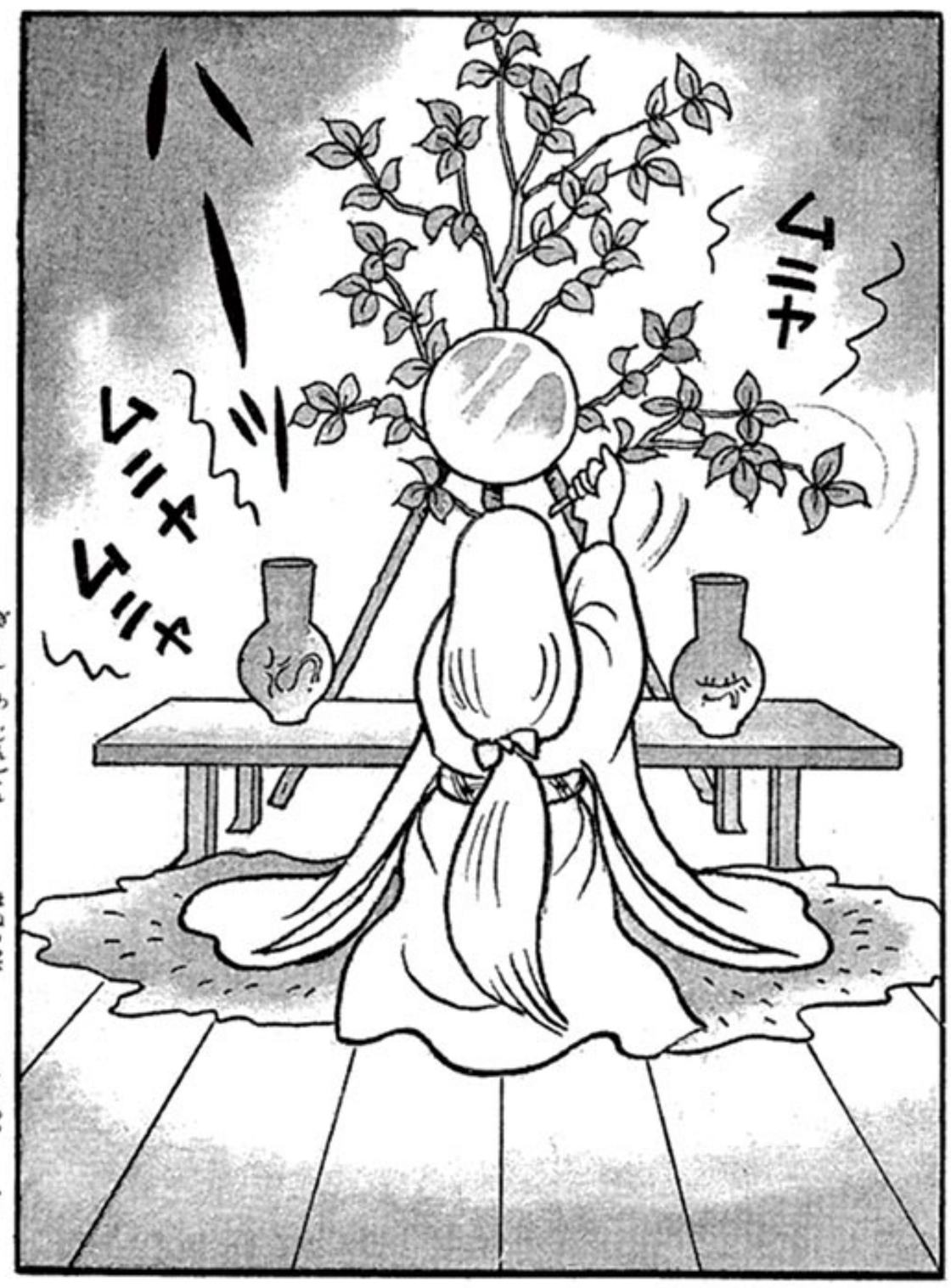






＊机は、この時代の出土例がないので、京都府の古殿遺跡でみつかったためずらしい机（4世紀）をもとにしました。





＊魏志倭人伝には骨占いの記述が出てきます。また弥生時代の遺跡からも占いの骨がみつかっています。

やり方としてはじゃな…。

シカの肩の骨を使うが、中国や日本の古墳時代以降では、カメの甲羅の裏がわを使う場合もある。

ゆだ

お灸のように骨になんか所も火熱をくわえる。

すると骨にひびがはいる。

ひびのはいり方で吉凶を判断する。

ヒミコはこのようにやっていた。

へえーっ

おっ！

クナ国との戦いは勝利と出た！

神はわれらに勝利をみちびきたもうた。

ありがたきしあわせ…。

神はヒミコさまに勝利をさずけたもうたぞ。

オー
オー
オー
ものども勇気をもってすすめ！

それからすぐに、出撃の日がやってきました。
母さんのいいつけを守るんだよ。
お国のためにがんばれよ。
この子をたのむぞ。
無事に早く帰ってきてね。
よしよし。

父上……。
留守をしっかりたのむぞ。

あなたご無事で…。
うむ。

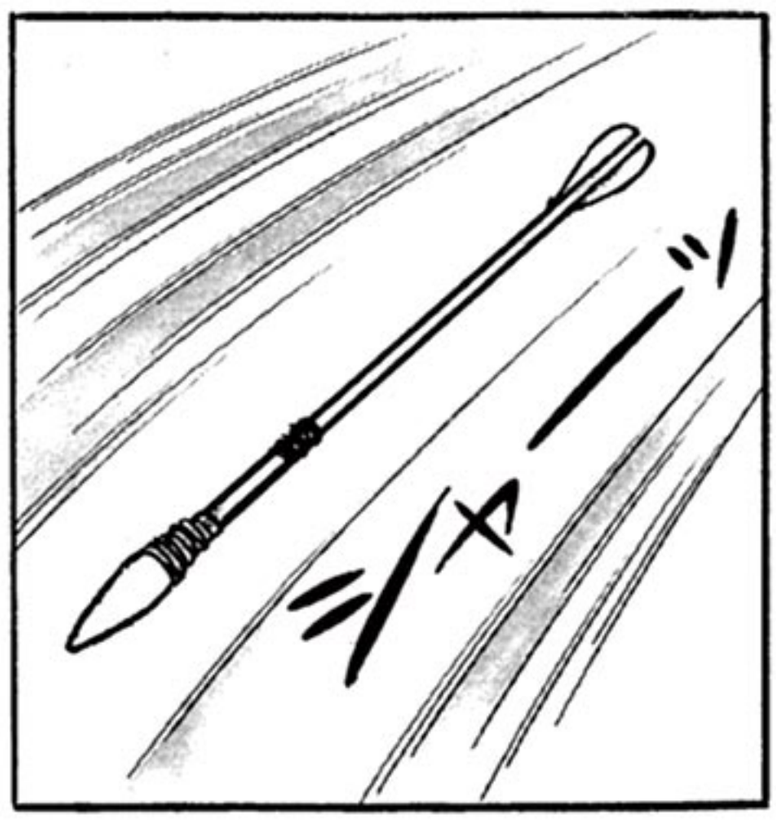
元気でねえ！
早くもどってきてー！
勝ってくるぞー。

＊かぶとやよろいなど兵の服装は、台湾のヤミ族の民俗例を参考にしました。

クナ国軍
案のじょう来たか、ヘナチョコヤマタイ連合軍！

よいかものども、よていのてはずどおりやれ！

ほほうノロシで仲間どうし合図か。

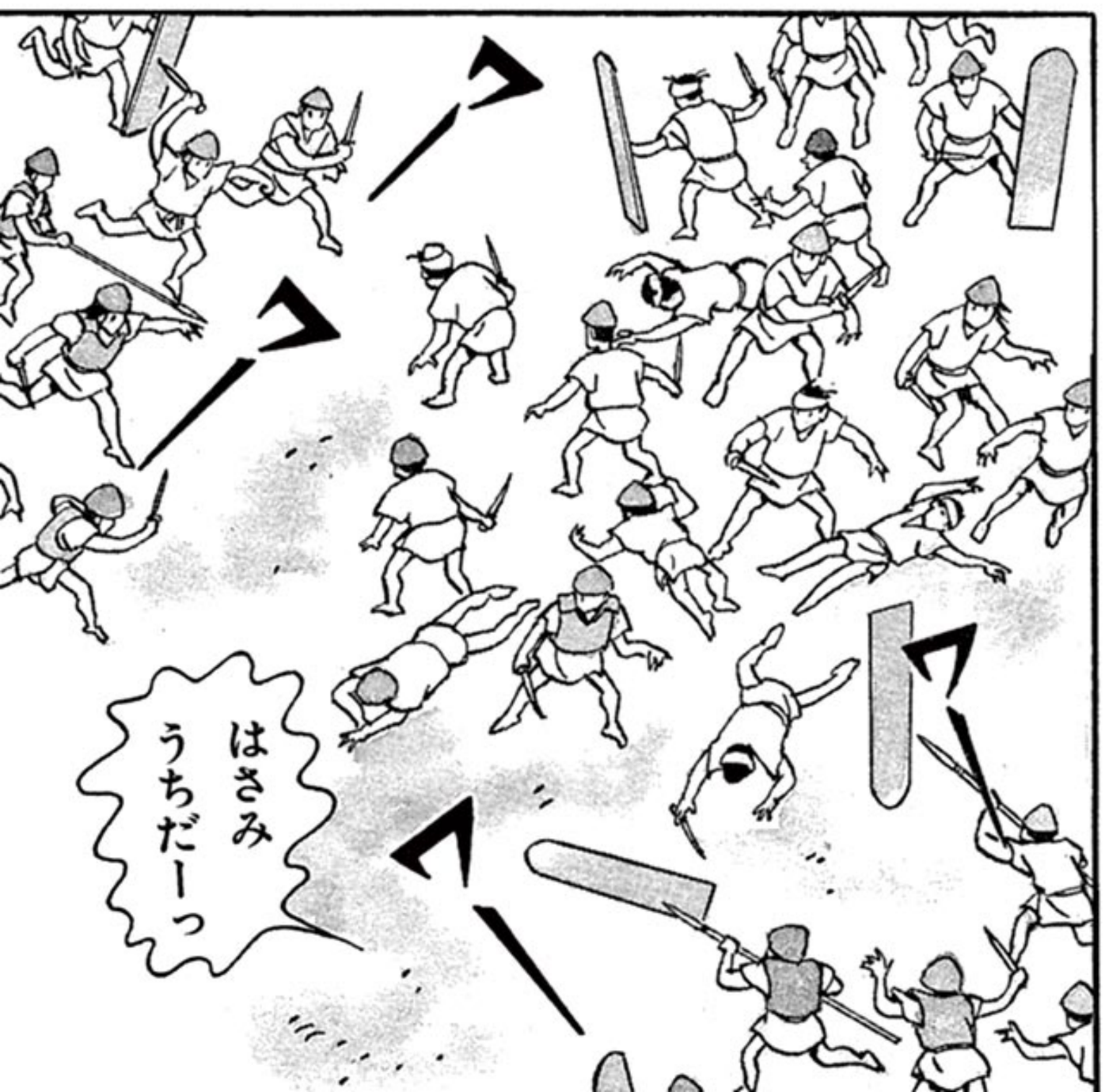


伏兵だ！

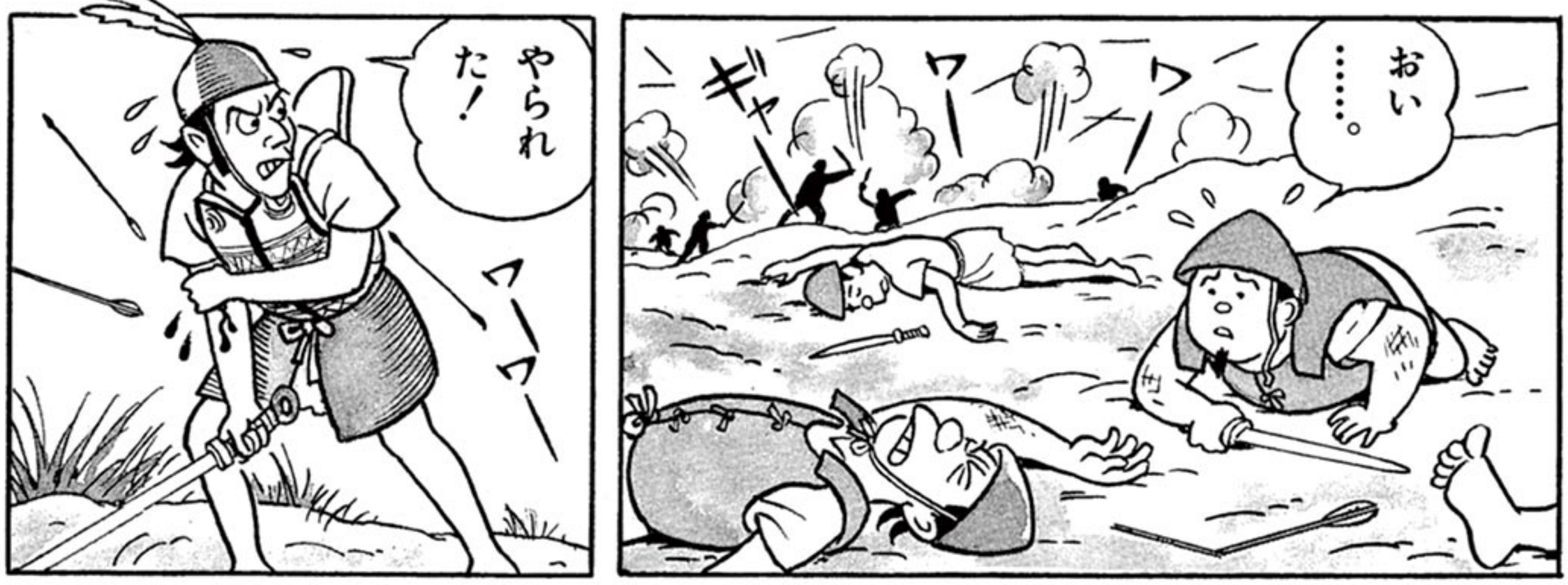
うわっ！こっちからも！
ギャ!!

ウヒャー!!
ピュン
ピュン
ひどい！

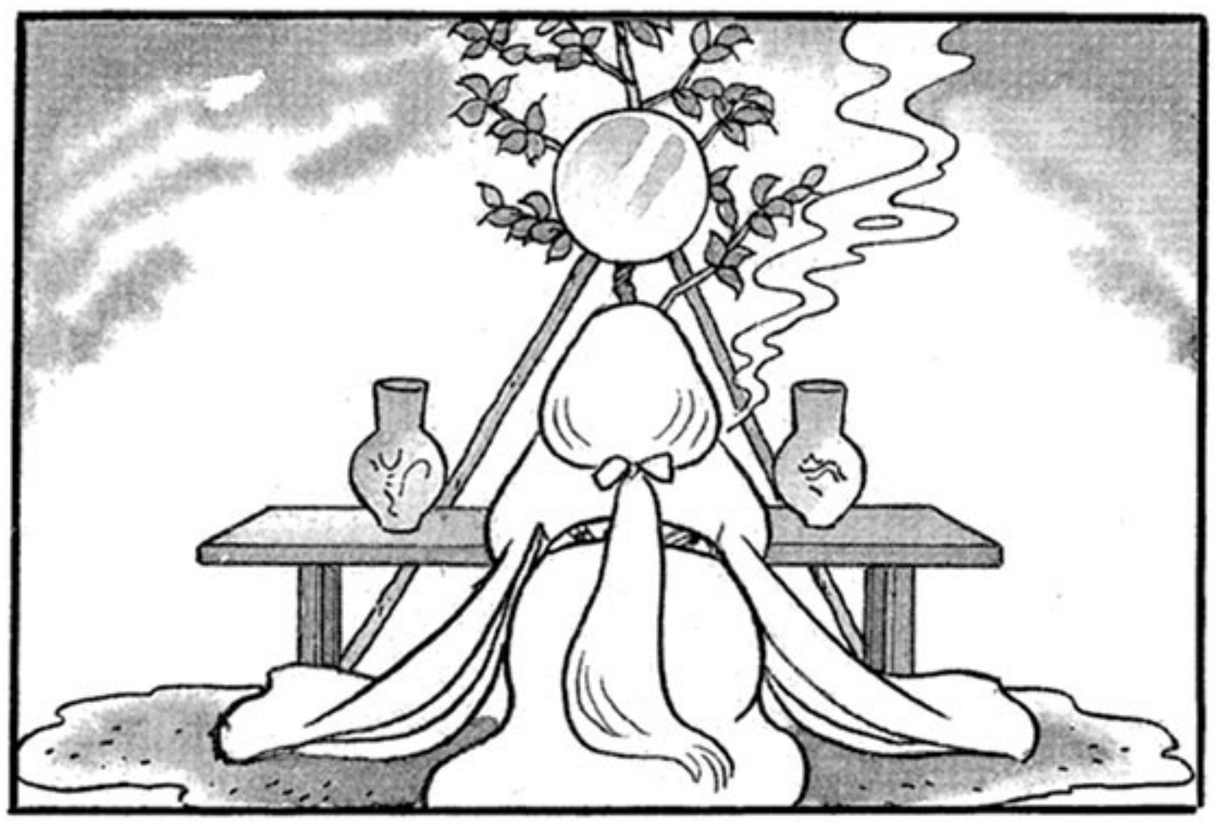
それーっ やっつけろーっ!!


はさみうちだーっ

ワー
ワー
ワー
ギャー！
ウオッ
グエ…

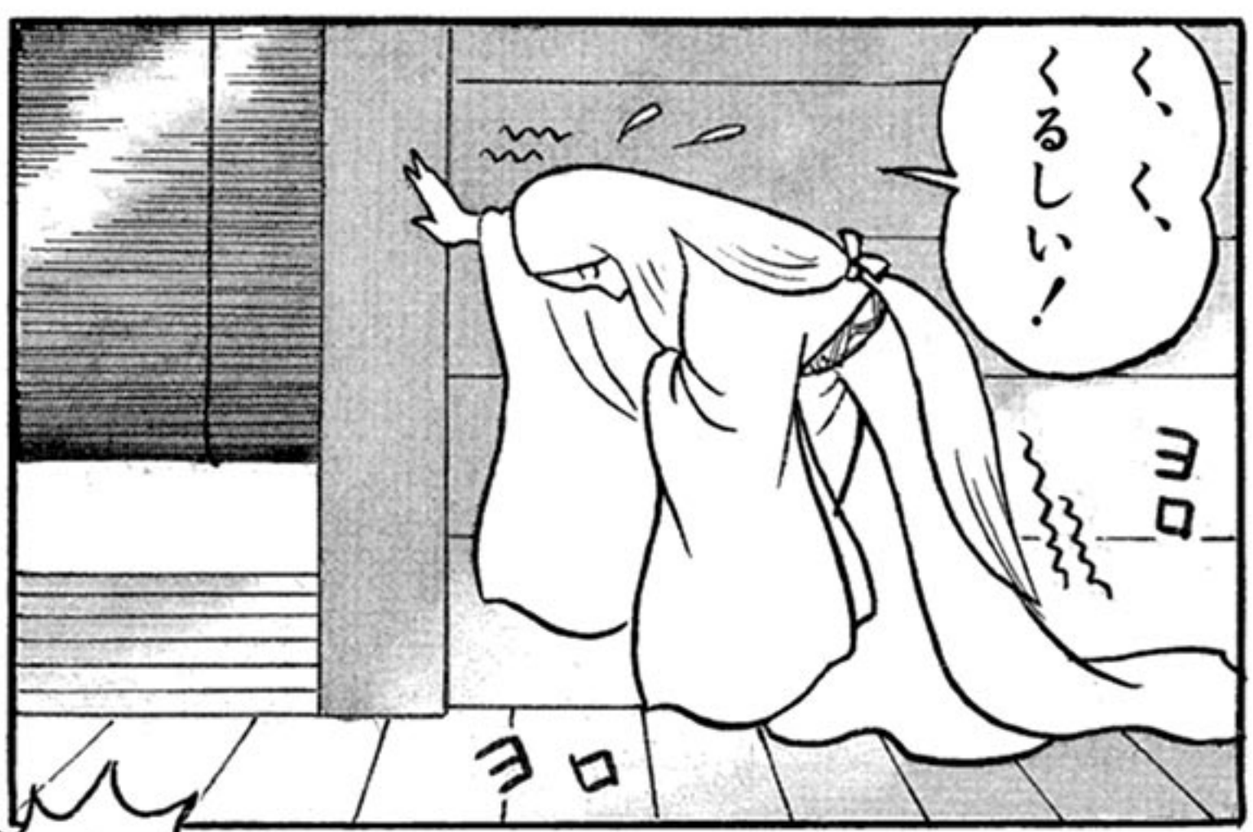


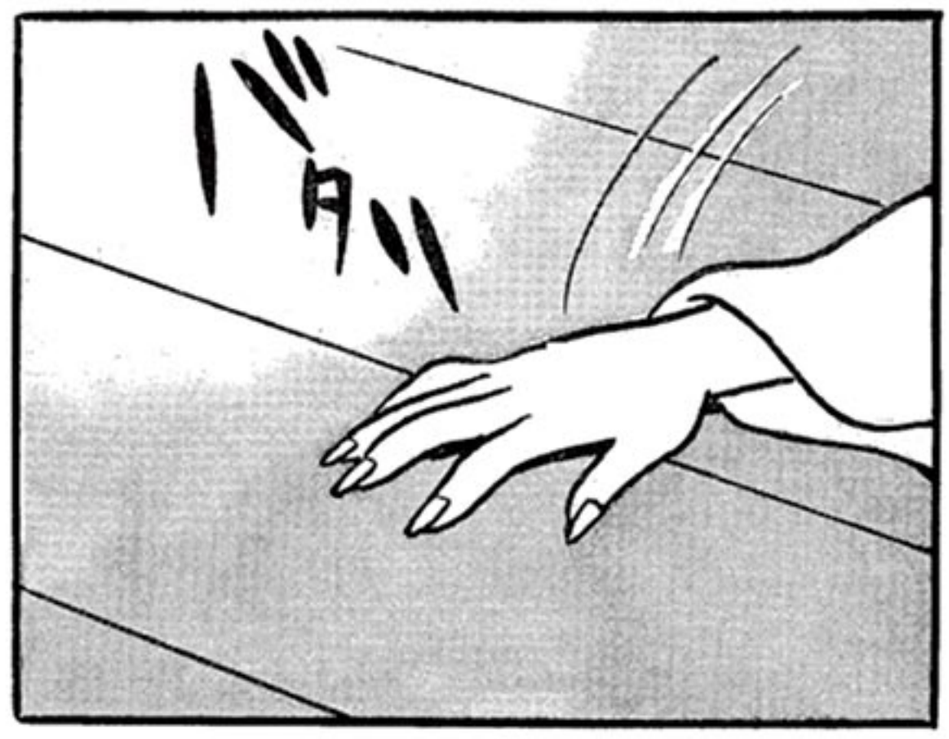
ヒミコの宮殿——



えっ凶!!

神よ!


く、く、くるしい!
ヨロ
ヨロ


バタリ

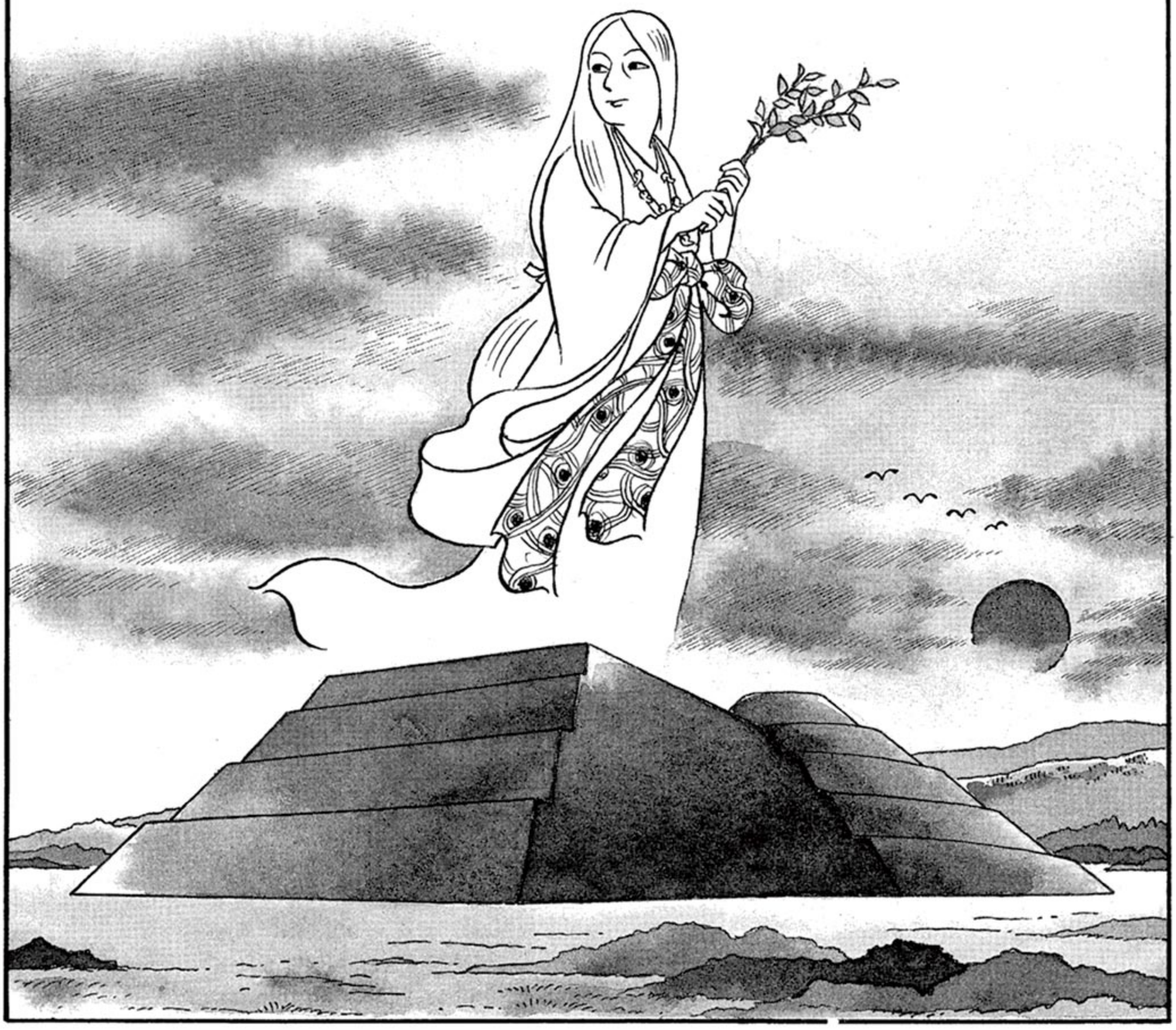
ヒミコさま!いかがなされた。

あっ!

ああっヒミコさまーっ!!

なんと、なんということか…。

倭国連合にとって
日の出の太陽のように
光り輝いていたヒミコが、
クナ国との戦争の
最中にとつぜん死にました。*
それは倭国の人びとにとっては、
まさに太陽が沈むのに似ていました。
人びとはヒミコのために、大きな
墓をつくってほうむりました。*
ヒミコのあと、男の王が
たちましたが、倭の国ぐには
まとまりませんでした。
そこで、十三歳の少女イヨをたてて
女王としました。
イヨはヒミコのあとをつぎ
倭国をまとめ魏の皇帝に
使いを送りました。



＊ヒミコは二四八年ころなくなったという説があります。＊ヒミコの墓はわかりません。ここでは奈良県桜井市にある箸墓古墳をモデルにしました。

小学館 eBooks

おうちの方へ

日本の誕生

京都教育大学名誉教授　高山博之

日本列島に人類が住みはじめたのはいつごろなのか、実はまだよくわかっていません。しかし、考古学を中心に研究が進み、発掘調査による新しい発見があいついで、大昔の日本の様子がしだいに明らかにされてきています。

この巻では、マンモスが棲息した北海道を舞台に、旧石器(岩宿)時代の人びとのくらし、ついで縄文(紋)時代、弥生時代の生活を描いています。

弥生時代には青銅器や鉄器などの金属器を使うようになり、小さな国が各地に誕生、やがて邪馬台国が登場するのです。

●第1章「マンモスの狩りうど」

マンモスを追って生活する旧石器(岩宿)時代の人びとが描かれています。そのころの人びとは定住をせず、狩りや漁をしていましたが、食料確保に苦しむ厳しい生活でした。石器を作る場面がありますが、道具は石を打ちかいただけの打製石器が中心で、土器はありません。

旧石器(岩宿)時代の遺跡は、日本では、一九四九年の岩宿遺跡(群馬県)の発掘以後、各地で発見されていますが、マンモスの化石が見つかっているのは北海道だけです。

日本が大陸と陸続きだったことなどから、世界地図を使うなどして、広い視野でこの時代の様子を考えさせるとよいでしょう。

●第2章「海と山のめぐみ」

この章では、縄文(紋)時代の人びとの生活が描かれています。遺跡の発掘により、出土品から何がわかるのかを考えさせてみましょう。また、竪穴住居、縄文(紋)土器、石器や弓矢などの道具、人びとの服装や食物、集落の様子や共

同生活など、この時代の特徴を細かく観察しながら読むことが大切です。土器の作り方なども理解させ、近くの博物館などで、土器や石器などの実物にふれさせると一層関心が高まります。

この時代も狩漁や採集の生活が中心でした。山の村と海の村の交流に見られるように、遠い他地域との交易もあった点に注目させましょう。

●第3章「戦いのムラ」

有名な九州の吉野ケ里遺跡を中心にすえて、弥生時代中期（紀元前1世紀）の人びとの生活やできごとを描いています。前章の縄文（紋）時代と比較して、社会の変化や発展をとらえさせてください。

弥生時代は、大陸から新しい文化をもった人びとの大量の移住があったようで、稲作が始まり、銅剣・銅鐸などの青銅器、さらには鉄器も使われるようになりました。また、農耕生活を通じて、ムラ長などの有力者が現れはじめ、やがて、支配組織を整えた小さな国が誕生してきます。同時に戦いも広がってくるのです。集落に見られる濠、柵、物見やぐら、墓、その他、風俗、道具、大陸との交流などに注目させましょう。

●第4章「女王 ヒミコ」

弥生時代後期の3世紀、日本のどこかに邪馬台国という大きな国が現れます。

この国のことは、中国の史書、『三国志』の「魏書」に書かれており、日本には記録はありません。その位置については、大きく北九州説と畿内説に分かれています。いろいろ推理してみると面白いでしょう。

邪馬台国には卑弥呼という女王がいて、周囲の三十国ばかりをまとめて、中国の魏に使者をおくり、魏からも使者が日本に来たようです。

謎の多い国ですが、小さな国ぐにの統合が進んできたこと、ヒミコの性格、人びとの風俗や生活、中国との交渉、狗奴国との抗争、古墳とみられる卑弥呼の墓などに注意して読ませてください。

児玉幸多
Kouta Kodama

歴史を漫画で説明しようというのはかなり冒険である。しかし、文字で読んでも、耳から聞いても、人それぞれに頭の中ではその光景を絵に描いているのである。それが子供たちの頭の中で全くの絵空事にならないように、今の歴史研究の段階では、このくらいのところまでは漫画にすることができるのではないかという試みがこの企画である。

それぞれの専門研究家の指導によって一巻ごとの構成を決め、作図や文章表現も考慮しているので、誤った知識を得る恐れはないと思う。そして、多分、大人が読んでも、あるいは見ても、十分に楽しみながら日本歴史の学習ができるのではないかとも考えている。遺跡の発掘、奈良の大仏の鋳造、天守閣の構築、それらの一つ一つにも、専門家の新しい研究成果が判りやすく盛りこまれているからである。楽しみながら正確な知識が得られることを願う次第である。

小学館 eBooks
学習まんが　少年少女 日本の歴史　第１巻　日本の誕生

2015 年 3 月 27 日　電子書籍版発行
監　修　児玉幸多
この巻の監修　佐原 真
まんが　あおむら 純
発行人　伊藤 護
発行所　株式会社　小学館
〒101-8001
東京都千代田区一ツ橋 2-3-1
s-ebook@shogakukan.co.jp

底　本　2014 年 12 月 23 日　増補版第 30 刷発行

©SHOGAKUKAN 2015 ISBN978-4-09-298101-0

※ご注意
本作品の全部または一部を無断で複製、転載、改竄、公衆送信すること、および
有償無償にかかわらず、本データを第三者に譲渡することを禁じます。
個人利用の目的以外での複製など違法行為、もしくは第三者への譲渡をしますと
著作権法、その他関連法によって処罰されます。